

第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二項 所得稅

【報告】 (二) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ五拾七圓參拾八錢六厘アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス〔七五頁參看〕

【辨明】 第一項地租(一)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第三項 酒造稅

【報告】 (三) 本項ニ於テ徵收不足參百六拾貳圓六拾九錢アリ右ハ京都府栃木縣愛知縣鳥取縣廣島縣山口縣愛媛縣高知縣福岡縣及熊本縣ニ於テ稅則違犯ニ因リ酒類ヲ沒收セラレタルモノニ對シ造石稅ヲ免除シタルニ由ルモノナリ然ルニ造石稅ヲ免除スヘキ場合ハ酒造稅則第十六條ニ於テ天災其他避クヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルモノニ限レリ故ニ稅則違犯ニ因リ沒收シタルカ如キ營業者ノ所爲ニ起因スルモノニ對シテハ該條ヲ適用スヘキ限ニアラス因テ右稅金ヲ徵收セザリシハ違法トス

【辨明】 本項ニ於テ金參百六拾貳圓六拾九錢ノ徵收ヲ爲サルハ違法ノ處分ナリト非難スト雖モ當時酒造稅則解釋上課稅ノ目的タル物件ノ存在セサルモノニ對シテハ稅金ヲ徵收セサルノ旨趣ナリシニ由ル

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 酒造稅則第十六條ノ解釋ヲ誤リタル違法處分

(參照) ○酒造稅則(明治十三年九月二十七日)

第十六條 檢査酒類納稅以前ニ於テ腐敗シ若ハ天災其他避クヘカラサル事故ニ依リ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ管廳ニ申出テ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ免除ヲ請フコトヲ得

【報告】 (四) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ貳百四拾參圓九錢四厘アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス〔七五頁參看〕

【辨明】 第一項地租(一)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第五項 烟草稅

【報告】 (五) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ拾圓アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス〔七五頁參看〕

【辨明】 第一項地租(一)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第七項 醬油稅

【報告】 (六) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ拾六圓拾六錢アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス〔七五頁參看〕

【辨明】 第一項地租(一)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第八項 菓子稅

【報告】 (七) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ八圓貳拾七錢貳厘アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス〔七五頁參看〕

【辨明】 第一項地租(一)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

明治二十五年 歳入 (四)(五)(六)(七)

第十三項 賣藥稅

【報告】 (八) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ四圓アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス(七五頁參看)

【辨明】 第一項地租(一)ノ辯明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第十四項 船稅

【報告】 (九) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ貳百四拾圓アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス(七五頁參看)

【辨明】 第一項地租(一)ノ辯明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第十五項 車稅

【報告】 (一〇) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ拾四圓アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス(七五頁參看)

【辨明】 第一項地租(一)ノ辯明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第十六項 度量衡稅

【報告】 (一一) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ九拾貳錢四厘アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス(七五頁參看)

【辨明】 第一項地租(一)ノ辯明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第十七項 鑛業稅

【報告】 (一二) 本項ニ於テ徵收不足貳錢五厘アリ右ハ熊本縣ニ於テ鑛區課稅坪數ノ算定ヲ誤リ鑛區一千坪ニ對スル一箇月分ノ稅金ヲ課セサルニ由ルモノニシテ其事由ハ主任官ニ於テ增區若クハ讓受ニ係ル坪數ヲ在來ノ坪數ニ合併スルニ當リ曩ニ一千坪未滿ノ端數ナルヲ以テ鑛區稅ヲ免シタルモノト增區若クハ讓受ニ係ル端數トヲ合併シテ一千坪以上ニ達セシモノアルモ一旦免除シタル端數ハ該年間ニ在リテ課稅坪數ニ算入スヘキモノニアラスト認メタルニ由レリ然リト雖モ鑛業條例第七十三條但書ニ於テ鑛區坪數一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區稅ハ之ヲ免除ストハ一鑛區ノ坪數一千坪未滿ノ端數ハ之ヲ切捨テ課稅坪數ニ算入セストノ謂ニシテ增區又ハ讓受ニ係ル坪數ノ端數ヲ合併シテ一千坪以上ニ達スル場合ヲ指スモノニアラス故ニ右稅金ヲ徵收セサリシハ鑛業條例第七十三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 熊本縣ニ於テ鑛業條例ノ解釋ヲ誤リタルニ依リ徵收不足ヲ生シタルモノニシテ明治二十七年年度ニ於テ追徵ノ手續ヲ爲シタリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○鑛業條例(明治二十三年九月二十六日法律第八十七號)

第七十三條第一項 鑛業人ハ鑛業稅トシテ鑛業製產物ノ價格百分ノ一鑛區稅トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區稅ハ之ヲ免除ス

【報告】 (一三) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ百八拾四圓拾九錢六厘アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス(七五頁參看)

【辨明】 第一項地租(一)ノ辯明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第二十項 牛馬賣買免許稅

【報告】 (一四) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ參拾五圓アリ右ハ本款第一項地租(一)ト同一ノ事由ニヨリ年度區分ヲ誤リタルモノトス(七五頁參看)

【辨明】 第一項地租(一)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第三款 官業及官有財産收入 第十三項 官有物貸下料

【報告】 (一五) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ參圓六拾錢アリ右ハ沖繩縣ニ於テ官有地一箇所百四十四坪ニ對シ二十六年一月ヨリ同年十二月ニ至ル一箇年分ノ貸下料ヲ七月ニ於テ徵收スルノ契約ヲ爲シ之ヲ前納セシメサリシモノニシテ官有財産管理規則第六條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

官有財産管理規則施行前ニ貸下ノ契約ヲ爲シタルモノ滿期ニ至リ更ニ貸下ヲ許可スルニ當リ同規則第十五條ノ解釋ヲ誤リ徵收ノ期ヲ遲延シタルモ事既往ニ屬スルヲ以テ明治二十六年度ノ歳入トシテ据置キタリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○官有財産管理規則(明治二十三年十一月二十五日)

第六條 官有財産ノ貸付料ハ毎年前納セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第十五條 此ノ規則施行ノ前ニ官有財産ノ賣揚若ハ貸付ノ契約ヲ爲シタルモノハ其ノ契約ノ滿期マテ總テ舊契約ニ依ルヘシ

貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

右ノ外年度違科目違徵收不足及徵收過ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサルモノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	項	年度	違科目	違徵收不足	徵收過	備考
第一款	租	稅	〇八二	二二四三	三五四三六〇	徵收過中六拾八圓七拾八錢五厘ハ下戻未了

第二項	所得稅			二九六八五	三二一三六	徵收過中參圓拾九錢壹厘ハ下戻未了
第三項	酒造稅			三九七二四八	七〇一八四一	徵收過中拾貳圓八拾參錢參厘ハ下戻未了
第五項	烟草稅				一八〇〇	
第七項	醬油稅				〇一〇〇	
第八項	菓子稅				三二二四六	徵收過中壹圓ハ下戻未了
第二項	株式取引所稅				〇〇六	徵收過ハ下戻未了
第三項	賣業稅				二〇八〇〇	徵收過中拾壹圓參拾九錢ハ下戻未了
第四項	船稅				一三四五二〇	徵收過中九圓五拾錢ハ下戻未了
第五項	車稅				四七五〇〇	徵收過中五厘ハ下戻未了
第六項	度量衡稅				〇〇八	徵收過中參百九拾壹圓貳拾貳錢壹厘ハ下戻未了
第七項	鑛業稅				五三三〇三一	
第八項	北海道水產稅				一三六〇二六	
第九項	銃獵免許稅				一〇〇〇〇	徵收過中貳圓ハ下戻未了
第十項	牛馬賣買免許稅				一〇〇〇〇	
第十一項	海關稅				二八四八	
第十二項	免許及手数料				六八八五二六	
第十三項	免許料					
第一項	免許料		二九七二八			
第三款	官業及官有財産收入					

款	項	年度	違科	目違	徴收不足	徴收過	備考
第二項	税關雜收入	円					
第三項	官有物貨下料				一一三九七七	二四二八二	
第四款	雜收入						
第一項	懲罰及沒收金					一六四七一	
第二項	辨償金					一五〇	
第三項	雜入	七三〇五六二				一一七二二	
第四項	官吏遺族扶助法納金					二九六四	
第五項	學校長正教員退職及遺族扶助科納金	四五九三					
歳入臨時部							
第二款 官有物拂下代		第二項 地所拂下代					
徴收不足中拾錢壹厘ハ追徴未了 徴收過中拾錢貳厘ハ下戻未了 徴收過中四錢壹厘ハ下戻未了							

【報告】

(一六) 本項中七圓四拾八錢四厘ハ宮崎縣ニ於テ一箇所百五十坪以上ノ畑地六筆此反別一町三反九畝二十歩ヲ七圓拾五錢四厘ニテ及鹿兒島縣ニ於テ同上荒蕪地二筆此反別一反歩ヲ參拾參錢ニテ隨意契約ニ依リ拂下ケタル代價ナリ然レトモ官有地特別處分規則ニ據リ隨意契約ヲ以テ拂下ケルコトヲ得ヘキモノハ一箇所百五十坪未滿ニ限リ其以上ノモノハ當然競争ニ付スヘキモノナルニ隨意契約ニ依リ之ヲ拂下ケタルハ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項金額七圓四拾八錢四厘中其宮崎縣取扱ニ係ルモノハ明治二十三年勅令第九十三號ノ適用ヲ誤リ其鹿兒島縣ニ係ルモノハ明治二十三年勅令第三百三十五號官有地特別處分規則第一條第二項ノ解釋ヲ誤リタルニ起因シ既ニ契約ノ成立シ處分ヲ了シタルモノニ係ルヲ以テ之ヲ訂正スルニ由ナシ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照)

○官有地特別處分規則(明治二十三年七月二十二日勅令第三百三十五號)

第一條 內務大臣ハ左ノ場合ニ限リ官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得
 二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡スコトキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス

○會計法(明治二十二年二月一日法律第四號)

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

- 第一 一人又ハ一會社ニテ専有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ
- 第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ
- 第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ
- 第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ
- 第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
- 第九 軍艦ヲ買入ル、トキ
- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ
- 第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

○政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件(明治二十三年九月二日勅令第三百九十三號)

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモノ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尚ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第四項 物品拂下代

【報告】 (一七) 本項中千五拾九圓貳拾錢ハ北海道集治監釧路分監ニ於テ物品拂下ノ際看守被服外十四點ノ豫定價格ヲ六百八拾圓五拾六錢六厘和鐵外百四點ノ豫定價格ヲ六百八圓參拾六錢六厘ト定メ競争ニ付シタルニ豫定價格ニ達スルモノナク直ニ再度ノ入札ヲ行ヒタルモ尚同一ノ結果ナルヲ以テ當初ノ豫定價格ヲ變更シ更ニ隨意契約ニ依リ看守被服外十四點ヲ五百五拾圓拾錢和鐵外百四點ヲ五百九圓拾錢ニテ拂下ケタルモノナリ右ハ再度ノ入札ニ付スルモ尚豫定價格ニ達スルモノナキヲ以テ隨意契約ニ依リ拂下ノ際豫定價格ヲ變更セシモノニシテ二十三年勅令第九十三號但書ニ違背シタルモノトス

【備考】 本項再度ノ入札ニ付シ豫定價格ノ制限ニ達セサルモノニ對シ隨意契約ヲ以テ拂下ケタルニ當リ競争ニ付スルトキ定メタル價格ヲ變更シタリシハ明治二十三年勅令第九十三號但書ノ旨趣ヲ誤解シタルニ起因シ既ニ契約ノ成立シ處分ヲ了シタルモノニ係ルヲ以テ之ヲ訂正スルニ由ナシ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

右ノ外徴收不足徴收過ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但該事項ハ備考ニ記入スルモノ、外悉ク其處分ヲ了セリ

款	項	徴收不足	徴收過	備考
第二款	官有物拂下代	円	円	
第二項	地所拂下代	七五六	二〇一八	
第四項	物品拂下代		六四六九	徴收不足中貳拾錢ハ追徴未了

歳出經常部

内務省所管

第八款 北海道本廳 第三項 警備土木費

【報告】 (一八) 本項中小樽郡港町及砂崎町海岸破損箇所假修繕工事材料品假材及金物代トシテ支出シタル貳百九拾九圓六拾四錢六厘ハ該工事請負人菅原吉太郎ニ於テ工事施行ノ爲メ準備シタル材料品ヲ購入セシモノナリ抑該契約タル全ク工事請負ノ契約ニシテ材料供給ノ契約ニアラス而シテ該工事ハ著手後暴風激浪ノ爲メ其既成部分ハ勿論工事ヲ施スヘキ地盤ニ至ルマテ悉皆破壊流失シ復タ工事ヲ施スヘカラサルニ至リシヲ以テ該契約ハ當然消滅シタルモノナリ故ニ該工事ノ爲メ準備シタル物品ニ對シ官廳ハ契約上何等ノ權利義務ヲ有セス然ルニ當該仕拂命令官ハ契約書中不可抗力ニ原因スル履行不能ノ場合ニ於ケル損害負擔ノ約款ナキニ由リ契約解除ノ結果トシテ準備ノ物品ハ之ヲ買取ラサルヘカラサルモノト認メ後日他ノ工事ニ使用シ若クハ賣却スルノ目的ヲ以テ之ヲ購入シタルハ豫算ノ目的ニ違背シタルモノトス

【備考】 本項ハ官廳ノ都合ニ依リ解約シタルモノナルモ其解約ノ處置ヲ誤リ且支出ノ年度ヲ誤リタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計規則第二條違背

【參照】 ○會計規則(明治二十二年五月一日)

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ渉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第八項 廳費

【報告】 (一九) 本項中官報代トシテ支出シタル貳圓貳錢ハ二十四年四月ヨリ同年八月一日マテノ分ヲ其發刊ノ都度購入シタルモ

明治二十五年 内務省 (一八)(一九)

【報告】 本項ハ會計検査院検査報告ノ通り過年度支出ノ手續ヲ履行セサリシハ會計規則第六十條ニ違背シタルモノトス

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 承認

(參照) ○會計規則(明治二十五年五月一日)

第六十條

各省大臣過年度ニ屬スル經費ヲ支出セントスルトキハ其金額及其所屬年度ノ豫算ニ定メタル區分、年度、支出ノ事由ヲ示シ大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

大藏大臣前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ翌月十日以内ニ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

【報告】

(二一〇) 本項中岩内古宇郡役所ニ於テ支出シタル五拾五圓六錢ハ二十六年三月三十一日締結ノ契約ニ依リ二十六年四月五日ヨリ同月二十九日マテ四回ニ納付セシメタル郵便切手及端書ノ代價ナルヲ以テ之ヲ審理セシニ當該仕拂命令官ハ該購入タル二十六年三月中契約ヲ爲セシモ物品不揃ノ爲メ其納付ヲ遅延セシモノナルニ由リ會計規則第二條第四項ニ基キ二十五年年度ヨリ其代價ヲ仕拂ヒタル旨答辯セリ然リト雖モ同郡役所ニ於テ二十五年年度ヨリ二十六年年度ニ繰越シタル各種郵便切手及端書ノ總數ハ三千七百五十餘枚此價格百拾九圓餘ノ多額ナルニ由リテ之ヲ觀レハ年度末日ニ至リ急遽ニ之ヲ購入スルノ必要ナキコト明ナリ故ニ本件購入ハ全ク二十六年年度中ニ於ケル使用ヲ目的トスルモノニシテ之ヲ本年度ヨリ支出シタルハ會計法第三條ニ違背シタルモノトス

【貴決】 承認

【貴決】 承認

(參照) ○會計規則第二條(八五頁參看)

○會計法(明治二十二年二月十一日)

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第十項 北海道事業費

【報告】

(二一一) 道路橋梁排水堤防並下水設置費中紗那單冠間道路開鑿工事費トシテ支出シタル五千八百七拾圓七拾錢ハ該工事請負高五千九百參拾圓ニ對シテ四回ニ仕拂ヒタルモノナリ然レトモ之ヲ工事竣功檢定員ノ檢定書ニ徵スルニ第四回仕拂ノ當時該工事ノ竣功ハ九分五厘ナルヲ以テ其仕拂額ハ該既済部分ニ對スル工費五分ノ四即チ四千五百六圓八拾錢ヲ超ユヘカラザルモノナルニ請負高ノ百分一ニ該當スル金額ヲ留置シ前顯金額ヲ仕拂ヒタルハ會計規則第六十八條ニ違背シタルモノトス

【貴決】 承認

【貴決】 承認

(參照) ○會計規則(明治二十五年五月一日)

第六十八條 前條ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既済又ハ物品ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス

第十五項 獄署諸費

【報告】

(二一二) 本項中馬鈴薯外二品ノ代價トシテ支出シタル四拾壹圓八拾五錢ハ監獄署附屬地播種用ニ屬スル物品ノ代價ナルヲ以テ本款第十六項在監人諸費ヨリ支出スヘキモノナルニ之ヲ本項ヨリ支出シタルハ豫算ノ目的ニ違背シタルモノトス

【貴決】 承認

【貴決】 承認

第十一款 府 縣 第三項 恩賞及救助費

【報告】

(二一三) 本項中大分縣ニ於テ無籍者遞送費トシテ支出シタル壹圓七拾錢五厘ハ二十一年度及二十三年度ニ屬スヘキ經費ナルヲ以テ過年度支出ノ手續ヲ履行セサリシハ會計規則第六十條ニ違背シタルモノトス

【貴決】 承認

【貴決】 承認

(參照) ○會計規則第六十條(八六頁參看)

明治二十五年年度

内務省

(一一一)(一一二)(一一三)

第五項 外國人居留地取締及營繕費

【報告】 (二四) 備品費中兵庫縣ニ於テ支出シタル小蒸汽船雲龍丸修繕費六百九拾八圓五拾錢ハ工事ノ落成ヲ二十六年五月三十一日トシ同年三月三十一日即チ該年度最終日ニ於テ締結セル契約ニ係ルヲ以テ之ヲ審理セシニ當該仕拂命令官ハ會計規則第二條第四項ノ契約ヲ爲シ得ルモノトノ解釋ヲ以テ約定スト答辯セリ然レトモ會計規則第二條第四項ハ契約締結ノ標準ヲ示シタルモノニアラス契約ノ締結ハ必ス豫算ノ性質及會計法第三條ニ規定セル範圍内ニ於テ法定ノ手續ニ從ハサルヘカラス抑豫算ハ性質上一年度ヲ以テ期間トナシ會計法第三條ハ之カ支出ノ制限ヲ定メタルモノナリ而シテ此原則ノ外ニ於テ年度經過後ト雖モ尙前年度ノ豫算ヲシテ其效力ヲ有セシムルモノハ唯會計法第二十一條及第二十二條ノ除外例ニ適當スルモノニ限レリ然ルニ本事實ハ二十五年年度豫算定額ノ殘餘ヲ以テ二十六年年度内ニ執行スル事業ヲ目的トシ本年度内ニ竣功シ得サルノ時日ニ於テ契約ヲ締結シ之カ經費ヲ本年度ヨリ支出シタルモノナルヲ以テ會計法第三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ其年度ニ屬スル經費ヲ其年度ノ定額ヨリ支出シタルニ外ナラサレハ會計法違背ニ非ス

【貴決】 異議ナシ

(參照) ○會計規則第二條(八五頁參看)
○會計法(明治二十二年二月十一日) 第四條
第三條(八六頁參看)

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度内ニ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ繰越使用スルコトヲ得

【報告】 (二五) 外國人居留地修繕費中兵庫縣ニ於テ支出シタル海岸通字米利堅波止根固修繕費拾七圓五拾錢ハ工事ノ落成ヲ二十六年四月二十日トシ同年三月三十一日即チ該年度最終日ニ於テ締結シタル契約ニ係ルヲ以テ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計

法第三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ其年度ニ屬スル經費ヲ其年度ノ定額ヨリ支出シタルニ外ナラサレハ會計法違背ニ非ス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○會計法第三條(八六頁參看)

第十三項 消毒所及避病院保存費

【報告】 (二六) 各所修繕中兵庫縣ニ於テ支出シタル和田岬消毒所及吉田新田避病院修繕費貳拾貳圓參拾四錢五厘ハ工事ノ落成ヲ二十六年四月十日トシ同年三月三十日ニ於テ締結シタル契約ニ係ルヲ以テ本款第五項外國人居留地取締及營繕費(七)ト同一ノ事由ニヨリ會計法第三條ニ違背シタルモノトス(八八頁(二四)參看)

【辨明】 本項ハ其年度ニ屬スル經費ヲ其年度ノ定額ヨリ支出シタルニ外ナラサレハ會計法違背ニ非ス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第三條違背

(參照) ○會計法第三條(八六頁參看)

大藏省所管

第二款 國債 第二項 公債利子

【報告】 (二七) 本項中拾圓拾參錢ノ支出ハ第四回募集整理公債證書額面外ノ拂込金ニ對スル利子ニシテ整理公債條例第十二條ニ據リ之カ仕拂ヲ爲シタルモノナリ然ルニ同條ハ額面高ニ對シ仕拂フヘキ利子ヲ規定シタルモノニシテ額面外ノ拂込金ニ對シ利子ヲ仕拂ヒタルハ該條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 整理公債募集ノ際價格以上申込ノ差金即チ額面外ノ拂込金ニ對シ利子ヲ仕拂ヒタルハ勸誘上必要ト認メタルモノニシテ整理公債條例第十二條ニ據リタルモノニ非ス

【貴決】 整理公債條例第十二條違背(分科會) 【衆決】 整理公債條例第十二條違背

(參照) ○整理公債條例(明治十九年十月十六日) 第六十六條

明治二十五年年度 内務省 (二六) 大藏省 (二七)

第十二條 整理公債ノ利子ハ其元金拂込ノ時月ノ十五日以前ニ在ルモノハ下半年分ヨリ支拂ヒ月ノ十六日以後ニ在ルモノハ翌月分ヨリ支拂ヒ元金償還ノ年ニ於テハ其償還ノ月マテ月割ヲ以テ支拂フモノトス

第十四款 諸拂戻及缺損補填金 第一項 諸拂戻金

【報告】 (二二八) 租税過納下戻中京都府愛媛縣及福岡縣ニ於テ支出シタル四拾貳圓參拾九錢六厘ハ酒造稅則違犯ニ因リ沒收セシ酒類ニ對スル既納ノ税金ヲ還付シタルモノナリ然ルニ造石稅ヲ免除スヘキ場合ハ酒造稅則第十六條ニ據リ天災其他避クヘカラサル事故ニ因リテ廢棄ニ屬シタルモノニ限ル故ニ稅則違犯ニ因リ沒收シタルカ如キ營業人ノ所爲ニ起因スルモノハ該條ヲ適用スヘキモノニアラサルヲ以テ違法トス

【辨明】 京都府、愛媛縣及福岡縣ニ於テ沒收シタル酒類ノ税金ヲ誤納トシテ還付シタルハ當時酒造稅則解釋上課稅ノ目的タル物件存在セサルニ依リ其税金ハ徵收スヘカラサルモノト認メタルニ由ル

【貴決】 酒造稅則第十六條ノ見解ヲ誤リタルモノト認ム(分科會) 【衆決】 違法 (參照) ○酒造稅則第十六條(七六頁參看)

陸軍省所管

第二款 軍事費 第一項 俸給及諸給

【報告】 (二二九) 休職俸給ニ於テ年度ノ所屬ヲ誤リテ支出シタル第三師團休職陸軍二等軍醫正小林三敬ノ休職俸給拾參圓八拾七錢壹厘ハ更正ノ際之ヲ歳入ニ編入スヘキモノナルニ定額ニ戻入シタルハ會計法第二十三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 第三師團休職陸軍二等軍醫正小林三敬ノ休職俸給拾參圓八拾七錢壹厘ハ明治二十五年三月分ノ俸給ニシテ明治二十四年度所屬ノ經費ナルニ仕拂命令發行ノ際所屬年度ヲ誤記シ隨テ明治二十五年年度ノ仕拂ニ編入セシモ明治二十四年度整理期限内即チ明治二十五年六月分ニ於テ完了セリ然ルニ右内譯書ノ戻入欄内ニ記入シアリシヲ以テ會計検査院ハ斯ノ如ク非難セシナラシメ同月分ニ於テ訂正ノ處分戻入セシモノトセハ更ニ明治二十四年度ニ於テ仕拂ノ手續ヲ爲スヘキモノナルニ仕拂命令ハ最前發行ノ儘ニシテ單ニ誤記ノ訂正ニ止マリ

タルモノニシテ毫モ定額戻入ノ事實ナシ

【貴決】 本項ヲ審按スルニ右ハ二十四年度所屬ノ經費ナルヲ仕拂命令發行ノ際所屬年度ヲ誤記シ二十五年年度ノ仕拂ニ編入シタルモノ二十四年度整理期限内ニ訂正ノ處分ヲ完了シタルモノニシテ單ニ仕拂命令ノ誤記訂正ニ止テ誤拂トシテ返納セシメタルモノニアラサルハ會計法第二十三條ニ規定セル誤拂返納金ノ例ニ依リヘキモノニアラスト認ム(分科會)

【衆決】 承認

(參照) ○會計法(明治二十二年二月十一日法律第四號)

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第三款 憲兵費 第四項 馬匹費

【報告】 (三〇〇) 將校馬匹費中二十三年十二月十三日憲兵少佐ニ任シ宮城憲兵隊長ニ補セラレタル小笠原尙弼ニ支給セシ馬匹手當百圓ハ陸軍給與令第六章第四十八條ニ據リ二十三年年度ニ於テ支給スヘキモノナルニ該年度豫算額ニ餘裕ナカリシカ爲メ本年度ニ至リ之ヲ支給シタルモノナリ右ハ全ク本年度經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充テタルモノニシテ會計法第三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 將校馬匹費中明治二十三年十二月十三日憲兵少佐ニ任シ宮城憲兵隊長ニ補セラレタル小笠原尙弼ニ支給セシ馬匹手當百圓ハ陸軍給與令第六章第四十八條ニ據リ明治二十三年年度ニ於テ支給スヘキモノナルニ同年度ハ明治二十二年勅令第四十三號ヲ以テ憲兵條例改正ノ爲メ佐官ニ昇給セシ者増加セシニ依リ馬匹手當ノ支出多カリシト各地ヘ送馬ノ費用増加シタル爲メ支出ノ途ナク又明治二十四年度ニ於テモ該手當ノ豫算ナク明治二十五年年度ノ提出豫算ニハ之ヲ編入セシモ該年度ノ豫算ハ不成立トナリタルヲ以テ遂ニ同年度ノ馬匹費中ヨリ其費途ヲ需メテ支給シタルモノニシテ行政上已ムヲ得サルニ出テタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 會計法第三條違背

(參照) ○陸軍給與令(明治二十三年三月三十一日勅令第六十七號)

第四十八條第一項及第三項 少佐及相當官ニシテ初テ職ニ就クトキハ馬匹手當ヲ給シ其副馬ヲ要スル職ニ就クトキハ別ニ之ヲ 明治二十五年年度 陸軍省 (三〇〇)

給ス其金額ハ第二十三表ニ依ル
前二項ノ手當ハ一回限り之ヲ給ス
○會計法第三條(八六頁參看)

逓信省所管

第三款 逓信費 第三項 逓信事業費

【報告】

(三一) 本項中小蒸汽船修繕ニ對スル千七百七拾圓貳拾五錢ノ支出ハ競争入札執行上豫定價格ニ複制限ヲ設ケ最高額ヲ千參百參拾五圓五拾錢最低額ヲ千百參拾五圓拾七錢五厘ト定メ其限内ニ的中スルモノニアラサレハ縱令低價ノ入札アリト雖モ一切採用セサルノ方法ニ依リ締結セル契約ニ係ルモノナリ抑此方法タル二十三年度已降逓信省カ實行セシ所ナリト雖モ是レ法規上競争入札ノ制ヲ設ケタル目的ニ背反スルモノニシテ即チ既ニ二十四年度歲入歳出決算検査報告ニ詳悉セシカ如ク會計法第二十四條及會計規則第七十五條ニ違背シタルモノトス(明治二十四年度(三六)一九頁參看)

【辨明】

豫定價格ヲ定ムルニ付キ單制限法ヲ用ユルト複制限法ヲ採ルトニ關シテハ會計規則上別ニ規定スル所ナキニ依リ複制限ヲ採用スルモ會計規則ニ違背シタルノ處置ニ非ス

【貴決】 別紙決議ノ通議決ス(一〇九頁參看) 【衆決】 會計法第二十四條及會計規則第七十五條違背

(參照) ○會計法第二十四條(八三頁參看)

○會計規則(明治二十五年五月一日)勅令第六十號

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

右ノ外年度違科目違過誤拂及拂不足ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサルモノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款 項	年度違	科目違	過誤拂	拂不足	備 考
外務省所管	円	円	円	円	
第二款 在外公館					
第一款 俸給及諸給			四五三	四四〇	
第八項 應 費		四〇五七三	三五九七〇		
第十項 外國留學生費	四三一六〇〇				
内務省所管					
第二款 内務本省					
第四項 旅 費			二〇二八〇		
第四款 土木監督區署					
第三項 旅 費			二五二〇	二一七〇	
第五項 應 費		七三〇			
第五款 集 治 監					
第一款 俸給及諸給					
第四項 在府縣獄囚徒費			〇〇一		
第八款 北海道本廳			一一〇		
第一款 俸給及諸給			一五二	一五九	

款	項	年度達	科目達	過誤拂	拂不足	備考
第六項	旅費	三 七 〇〇	〇	六 二 四〇	六 八 〇〇	
第七項	雜給	七 七 四	〇	一 四 六 五 三	〇	
第八項	廳費	五 七 六〇	〇	七 三 七 五	〇	
第十項	北海道事業費	〇	〇	一 〇〇	〇	
第七項	教育費	〇	〇	二 三 〇 八〇	〇	
第十項	勸業費	〇	〇	一 六 七 七 五	〇	
第十項	獄署諸費	〇	〇	三 〇〇	〇	
第九款	札幌農學校費	〇	〇	〇	〇	
第一項	俸給及諸給	〇	〇	一 三 四 四 一	〇	
第三項	旅費	〇	〇	一 五 〇	〇	
第五項	廳費	〇	〇	三 五 〇	〇	
第六項	學生費	〇	〇	一 一 〇〇	〇	
第二款	府縣	〇	〇	〇	〇	
第一項	俸給及諸給	〇	〇	二 一 〇 五 六〇	八 〇 六	
第二項	徵兵費	〇	〇	三 二 九 五	〇	
第三項	恩賞及救助費	〇	〇	三 九 〇 四 一	八 二 三	
第十項	旅費	〇	〇	三 三 〇 七 〇	二 一 六 〇	

第三項	廳費	〇	〇	四 〇 一 四	〇	
第三款	沖繩縣地方費	〇	〇	〇	〇	
第一項	俸給及諸給	〇	〇	九 〇〇〇	〇	
第五項	旅費	〇	〇	〇	〇	
第六項	雜給	〇	〇	一 一 五 〇〇	〇	
大藏省所管						
第二款	國債	〇	〇	〇	〇	
第二項	公債利子	〇	〇	三 五 六 五 〇〇	三 七 六	
第三款	恩賞諸祿	〇	〇	〇	〇	
第二項	文官恩給	〇	〇	六 六 六 一	〇	
第三項	陸軍恩給	〇	〇	四 三 六 三 五	〇	
第四項	海軍恩給	〇	〇	一 八 五 四 五	〇	
第六款	貴族院	〇	〇	〇	〇	
第三項	旅費	〇	〇	四 〇〇〇	〇	
第二款	稅關	〇	〇	〇	〇	
第四項	旅費	〇	〇	二 二 四 〇	〇	
第六項	廳費	〇	〇	一 三 三 五 〇	〇	
第三款	內國稅徵收費	〇	〇	〇	〇	

款	項	年度違	科目違	過誤拂	拂不足	備考
第一項	俸給及諸給	100		001		
第六項	諸拂辰金			26360		
陸軍省所管				27941		
第二項	俸給及諸給			205294		
第四項	糧食費			1658		
第五項	被服費			76086		
第六項	馬匹費			3790		
第九項	演習及復習費		474	9110		635
第七項	旅費			10011		
第十項	旅費			125710		
第三款	憲兵費					
第一項	俸給及諸給			15044		
第七項	旅費			1180		
第四款	屯田兵費					

款	項	年度違	科目違	過誤拂	拂不足	備考
第一項	俸給及諸給			3725		
第八項	演習費			300		
第十項	移住費			1560		
海軍省所管						
第二款	軍事費					
第一項	俸給及諸給			352123		
第三項	糧食費	468		24050		168359
第四項	被服費			100		100
第十項	扶助金	081		1674		
司法省所管						
第二款	裁判所					
第一項	俸給及諸給			136046		11815
第三項	刑事裁判費			17730		5470
第四項	旅費	465170		18750		3200
第五項	雜給			700		
第六項	應費	324	6880	1987		
農商務省所管						
第一款	農商務本省					

過誤拂中拾八錢八道微未了
拂不足中貳圓貳拾壹錢貳厘八道給未了

拂不足八道給未了

款 項	年度達	科目達	過誤拂	拂不足	備 考
第一項 俸給及諸給	1000	5000			
第四項 旅 費			110		
第二款 林 區 署 費					
第一項 俸給及諸給			1144		
第三項 旅 費			1400		
第六項 造林及林産物處理費	33250		1285		
第三款 鑛山監督署費					
第一項 俸給及諸給			1500		
第三項 旅 費			180	44730	拂不足ハ追給未了
逓信省所管					
第一款 逓信本省					
第一項 俸給及諸給			5162		
第三項 航路標識事業費			10500		
第四項 旅 費			1300		
第二款 逓 信 費					
第一項 俸給及諸給			4461		
第三項 逓信事業費			36110		

第四項 旅 費			9430		5110
第六項 應 費			5110		
第四款 東京郵便電信學校費					
第三項 旅 費			100		

歳出臨時部

内務省所管

第三款 土木費補助 第十二項 宮崎縣延岡大分縣間道路修築費補助

【報告】

(三三三) 本項壹萬貳千六百四拾五圓九拾五錢七厘ハ二十四年度所屬壹萬貳千六百四拾五圓九拾五錢六厘ヲ併セ貳萬五千貳百九拾壹圓九拾壹錢參厘ヲ宮崎縣ニ於テ地方費支辨額五萬五百八拾參圓八拾貳錢五厘ト合併シ總額七萬五千八百七拾五圓七拾參錢八厘ヲ以テ道路修築工費ノ支辨ヲ爲シタルモノニシテ右金額中四千五百拾貳圓貳拾九錢ハ工費仕拂殘金ナルニ該縣ニ於テ其全部ヲ翌々年度地方稅ノ收入ト爲シタリ蓋シ府縣ノ土木工事ニ對シ國庫補助ヲ與フルノ目的ハ當該土木工費ニ就テ地方資力ヲ補足スルニ在レハ此補助金ヲ以テ他ノ目的ニ使用スヘカラサルハ勿論ナリ故ニ其工事ニシテ當初豫定ノ如ク工費ヲ要スルコトナクシテ竣功ヲ告ケ殘金ヲ生スルニ於テハ隨テ補助金ノ幾部分ハ不用ニ屬シタルモノト謂ハサルヲ得ス因テ其不用額ハ政府補助金支出ノ割合ニ應シ之ヲ國庫ニ返納セシムヘキモノナルニ其處分ヲ爲サ、ルヲ以テ内務大臣ニ對シ其理由ヲ質問シタルニ其答辯ノ要旨ハ國庫補助金ハ當初之ヲ下付シタル目的及條件ノ如何ニ依リ殘金ニ對スル處分法モ亦異ラサル可ラス故ニ其殘金ハ必スシモ一定ノ原則トシテ國庫ニ返納スヘキモノナリト謂フヲ得ス且補助ノ性質タル公共團體ノ負擔ニ堪ヘサル場合ノミニ限ラス或ハ一ノ工事ニ對スル國家ノ利害關係等ニ依リ或ハ公共團體負擔ノ厚薄等ニ依リ之ヲ下付スルモノニシテ從來道路等ニ對シ下付シタル補助金ハ反對ノ證據ナキ限りハ其殘金ヲ返納セシメス又其不足ヲ

補充セサルノ精神ヲ以テ下付シタルモノナリ尤近年水害各縣ニ對スル補助ノ如キハ全ク民力ニ堪ヘサル部分ヲ補充スルノ目的ヲ以テ下付シタルモノナレハ其殘金ハ返納スヘキコトヲ命令セルモ道路ニ關スル補助金ノ如キハ其工事豫定ノ如ク竣功スルニ於テハ殘金アルモ返納セシメスト云フニ在リ然レトモ其答辯ノ要旨タル國庫補助金ハ當初之ヲ下付シタル目的及條件ノ如何ニ依リ殘金ニ對スル處分モ亦タ異ナラサルヘカラス一定ノ原則トシテ殘金ハ之ヲ國庫ニ返納スヘキモノナリト云フヲ得ストノ理由ハ頗ル不當ナリトス何トナレハ一定ノ原則トシテ見ルトキハ却テ費途ノ目的ヲ定メテ補助シタル金額ニシテ其目的ヲ完了シ殘金ヲ生シタルトキハ豫メ特ニ其殘金ハ返納スルヲ要セストノ條件ヲ付セサル以上ハ當然之ヲ國庫ニ返納セシメサルヲ得サルハ理ノ看易キモノタレハナリ然ルニ既ニ費用補助ノ目的ヲ達シタルニ尙其殘金ヲ返納セシメスシテ之ヲ地方一般ノ收入ト爲サシムルトキハ其金ハ補助金下付ノ目的以外ニ使用セシムルノ結果ニ至ルハ辯ヲ俟タス豈之ヲシモ補助金下付ノ目的條件ニ適合スルモノト云フヲ得ンヤ而シテ內務大臣モ亦其道理ヲ認メ水害費補助ノ殘金ニ對シ返納スヘキコトヲ命令シタリト云フニ拘ラス獨リ道路費補助ニ對スル殘金ノ返納ヲ命セサルハ其處分甚タ不倫ナリト謂フヘシ是ヲ以テ內務大臣カ宮崎縣道路修築工費殘餘金ニ對シ適當ニ之カ返納ヲ命セスシテ其全部ヲ翌々年度地方費一般ノ收入ト爲サシメタルハ豫算ノ目的ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本縣ニ於テ工費殘金四千五百拾貳圓貳拾九錢ヲ翌々年度地方稅ノ收入ト爲シタルハ不當ナリト非難スレトモ抑國庫補助金ナルモノハ或ハ工事ニ對スル國家ノ利害ニ關シ獎勵的ニ下付スルモノアリ或ハ公共團體負擔ノ厚薄若クハ其負擔力如何等ヲ照顧シテ之ヲ下付スルモノアリ一概ニ下級公共團體ノ力及ハサル所ヲ補充スル爲メニ下付スルモノナリト云フヲ得ス就中道路ニ關シテ下付シタル補助金ノ如キハ反對ノ證據ナキ限リハ前者ニ屬スルモノニシテ其道路所屬公共團體ノ資力若クハ經費全體ノ如キハ補助ヲ給スルニ當リ殆ソト之ニ重キヲ置カサルノ慣例ナリ從テ其當初道路ノ豫算額ニ對シ一定ノ歩合ヲ以テ補助ヲ下付スル所以ノモノモ亦其歩合ヲ以テ補助金算出ノ標準ト爲スニ止マリ決シテ之ヲ以テ國庫支出ノ限度ヲ定メタルモノト見做スヲ得ス從テ苟モ豫定ノ工事ニシテ落成スル以上ハ工費ニ増減ヲ生スルコトアルモ其補助金ヲ増減スルコトナキモノナリ故ニ假令工費減少ノ爲メ殘餘ヲ生シタルモ當初ヨリ之ヲ返納セシメサルノ目的ヲ以テ下付シタルモノナレハ竣功ニ至リ其返納ヲ命セサルモ豫算ノ目的ニ違背シタルモノニ非ス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第六款 橫濱築港費 第六項 工業費

【報告】 (三三三) 本項中四萬八千五百拾貳圓七錢七厘ノ支出ハ二十六年度所屬七萬參千九百拾壹圓九拾貳錢參厘ヲ併セ總額拾貳萬貳千四百貳拾四圓ヲ以テ隨意契約ニ依リ淺野總一郎ヨリ購入シタル「セメント」六千噸ノ代價ナリ其之ヲ競争ニ付セス隨意契約ニ依リ購入シタル理由ハ元來築港工事主要材料ノ「セメント」タル其力ノ強弱粉碎ノ精粗等皆ニ優等最良ノ質ヲ併有スヘキノミナラス兼テ硬化時間ノ適度ナル特性ヲ具セサルヘカラス又二十四年度中本工費用「セメント」購入ノ實歴ニ徵スルニ供給ノ品質ニ不満足ノ結果ヲ見シコト一ニシテ足ラス動モスレハ工事ノ進捗ヲ沮害スルノ虞ヲ生セシコト實ニ數回ニ及ヘリ於是製造力ニ富ミ且其製品ヲ熟知スル所ノ製造者ノミニ就キ購入スルノ必要ヲ生セリ因テ廣ク競争ニ付セス會計法第二十四條但書第四項ニ據リ特ニ淺野總一郎及愛知、小野田ノ兩「セメント」會社ヲ指名シ入札ヲ爲サシメ隨意契約ヲ爲シタリト云フニアリ然レトモ會計法第二十四條但書第四項ニ據リ隨意契約ヲ爲シ得ヘキ場合ハ特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アル物品ナルト共ニ之ヲ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ買入ヲ要スルモノニ限レリ故ニ苟モ隨意契約ヲ以テ之カ購入ヲ爲サント欲セハ該物品ハ特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルト共ニ特ニ或ル生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接購入スルノ外他ニ競争者ナキ場合ナラサル可ラス是ヲ以テ縱令特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アル物品ナリトスルモ本件ハ已ニ淺野總一郎ノ外愛知、小野田ノ供給者アルノミナラス且該供給者ハ必スシモ是等ノ製造者ノミニ限ラサル以上ハ果シテ競争入札執行ノ場合ニ於テハ安ソ更ニ適當ノ供給者ヲ出スナキヲ知ランヤ然ルニ當該任拂命令官ハ法規上所定ノ方法ニ依ラス直ニ隨意契約ノ方法ニ依リ之ヲ購入シタルハ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項橫濱築港工事ハ水中ニ經營スル大事業ニシテ其主要ノ材料タルセメントハ一時ニ多量ヲ要シ其品質一定ニシテ硬化ノ度亦適宜迅速ナルコト最モ緊要ナリ然ルニ既往ノ實歴ニ徵シ當時ノ實況ニ於テセメント製造者ニシテ充分製造力ニ富ミ且品質適當ノ製造者ハ淺野總一郎及小野田、愛知兩セメント會社ノ外ナク此三者ノ中ニ就キ直接買入ヲ爲スニアラサレハ其目的ヲ達スルヲ得スト認メ會計法第二十四條但

【報告】 第四項ニ據リ隨意契約ヲ以テ淺野建一郎ヨリ六千噸ノセメントヲ購入シタルモノナリ其之ヲ三製造者ノ入札ニ附シタルハ材料ノ代價ヲ低廉ナラシメント欲シタルニ過キス故ニ本件ハ會計検査院カ云フ如ク會計法第二十四條ニ違背シタルモノニ非ス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第二十四條違背

(參照) ○會計法第二十四條(八三頁參看)

【報告】 (三四) 本項中四千參百五拾四圓ノ支出ハ鐵棧橋材料揚却用ノ蒸汽起重器一臺ヲ購入シタル代價ナリ右ハ初メ競争入札公告ノ際仕様書ニ於テ該器械ノ構造其他ノ條件ヲ定メ以テ入札ヲ執行シタルモノナリ然ルニ「ウォルシユホール」商社ノ入札ハ既定ノ條件ニ違ヘルヲ以テ當然無効ニ屬スヘキモノナルニ開札ノ後ニ至リ却テ既定ノ條件ヲ變更シテ同商社ノ提出ニ係ル仕様書ニ適合セシメ以テ之ヲ落札者ト定メタリ因テ之ヲ審理セシニ仕様書ノ變更ヲ要スル諸點ハ當初設計ノ誤謬ニ出テタルモノニシテ之ヲ訂正シタル後更ニ競争ニ付セザリシハ徒ニ費用ト日子トヲ費シ膏ニ事ニ益ナキノミナラス却テ入札者ノ聯合ヲ誘起シ或ハ爲換相場ノ變動ニ遭ヒ爲メニ意外ノ惡結果ヲ生スルノ恐レアリシニ由ルト云ヘリ然レトモ設計ニ誤謬アリシ場合ハ之ヲ更正シテ更ニ競争ニ付スヘキモノナルニ事茲ニ出テス無効入札ヲ直ニ落札ト爲シタルハ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項ハ會計検査院検査報告ノ通り會計法第二十四條ノ適用ヲ誤リタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○會計法第二十四條(八三頁參看)

海軍省所管

第四款 營繕費 第三項 兵學校生徒館並同事務所其他附屬電信等施設

【報告】 (三五) 本項中暖房管器械場外十康ノ新設工事ニ對スル壹萬八千八百八拾四圓四錢貳厘ノ支出ハ二十四年五月競争契約ヲ以テ日本土木會社ヘ請負ハシメタル兵學校生徒館新築工事ノ附帶事業トシテ二十五年八月隨意契約ニ依リ同會社ニ請負ハシメタルモノニ係レリ抑本工事タル果シテ生徒館工事ニ密著シテ分離スル能ハサルモノトセハ該生徒館ト共ニ競争ニ付ス

【辨明】 本項中暖房管器械場外十康ノ工事ハ本館工事ノ競争ヲ爲スニ當リ共ニ之ヲ競争ニ付セスシテ本館工事ノ附帶事業トナシ隨意契約ニ依リ本館工事ト同一ノ請負人ニ付シタルハ固ヨリ故ラニ當初ノ設計ヲ取除ケタルニハ非スト雖モ本館工事者手ニ際シ附屬工事ニ付テハ尙詳細ナル設計圖案ヲ要スルモノアリシヲ以テ之ヲ第二ノ著手トハナシタルナリ然ルニ本館トハ元來關聯シタル附屬工事ナルカ故ニ之ヲ各別ノ請負人ニ付スレハ事業ニ障碍ヲ來タシ年度内ニ竣功シ能ハサルヲ以テ遂ニ隨意契約ニ依リ本館工事ト同一ノ請負人ニ付シタルハ實際已ムヲ得サルニ出テタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第二十四條違背

(參照) ○會計法第二十四條(八三頁參看)

逓信省所管

第三款 營繕費 第一項 新營費

【報告】 (三六) 本項中逓信省構内倉庫新營外四康ニ對スル參萬五千七拾參圓ノ支出ハ競争入札執行上豫定價格ニ複制限ヲ設ケ之ヲ左表ノ如ク定メ

工 事 名	坪 數	最 高 額	最 低 額	落 札 額
本省構内倉庫新營	六〇〇〇	四、八三九円	四、一〇〇円	四、三〇〇円
電信燈臺用品製造所第一工場増築	三〇〇〇	六、一〇〇	四、八〇〇	五、二八〇
廣島郵便電信局舎新營	二、二六〇	一、九、六〇〇	一、六、五〇〇	一、六、五〇〇
青森郵便電信局舎新營	二、二五〇	一、三、四〇〇	一、一、一〇〇	一、一、七〇〇
門司郵便電信局舎新營	三、八〇〇	一、〇、八九〇	一、〇、四〇〇	一、〇、四〇〇

其限内ニ的中スルモノニアラサレハ縱令低價ノ入札アリト雖モ一切採用セサルノ方法ニ依リ締結セル契約ニ係ルモノニシテ歳出經常部逓信省所管第三款逓信費第三項逓信事業費(十四)ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十四條及會計規則第七十五條ニ違背シタルモノトス(九二頁(二)參看)

【辨明】本項ハ歳出經常部逓信省所管第三款逓信費第三項逓信事業費(十四)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】別紙決議ノ通議決ス(一〇九頁參看) 【衆決】會計法第二十四條及會計規則第七十五條違背

(參照) ○會計法第二十四條(八三頁參看)

○會計規則第七十五條(九二頁參看)

右ノ外年度違科目違及過誤拂ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但該事項ハ悉ク其處分ラ了セリ

款	項	年	度	違	科	目	違	過	誤	拂
内務省所管				円			円			円
第十一款	河川調査費									
第十二款	旅費									二〇〇
第四項	測量及試験費						一五〇〇			
海軍省所管										
第一款	軍艦製造費									
第一款	軍艦製造費									
第六款	特別費									
第一款	特別費									
第一項	造船費									四五二五七

明治二十五年各特別會計歳入ノ徴收及歳出ノ使用ニ於テ豫算又ハ法律勅令ニ違背シタル事項左ノ如シ

特別會計

海軍省所管

横須賀鎮守府造船材料資金

歳入

第一款 横須賀鎮守府造船材料收入 第一項 材料賣拂代

【報告】(三七) 本項確定額中四拾參萬六千八百六拾五圓拾錢六厘ハ材料賣拂ノ際其原價ニ加算スヘキ損減歩合ニ區々ノ乘率ヲ設ケ即チ秋津洲製造費ニ係ル材料ニハ一割橋立製造費ニ係ルモノニハ三割受託造船費ニ係ルモノニハ一割五歩三等巡洋艦製造費並ニ造船及修理費其他ニ係ルモノニハ四歩ノ損減歩合ヲ加算シテ確定シタルモノナリ然レトモ右造船材料ノ原價ニ加算スヘキ乘率即チ鎮守府造船材料資金會計法第四條及同會計規則第六條ノ損減歩合ハ同規則第七條ニ據リ貯蓄材料ノ損減額ヲ參酌シテ定メタル金額ニシテ是レ則チ唯一ノ定率ナルヲ以テ同材料ニ對シ同時ニ二率以上アルヘキ理ナシ故ニ同時ニ數種ノ乘率ヲ設ケタルハ鎮守府造船材料資金會計規則第七條ニ違背シタルモノトス

【辨明】本項ハ鎮守府造船材料資金會計規則第七條ニ據リ横須賀鎮守府造船貯蓄材料損減ノ歩合ハ一割五分ヲ定率トセリ然ルニ當時各事業ノ豫算現況ニ依ルニ到底此歩合ヲ平等ニ負擔セシムルヲ得サリシヲ以テ前年度ノ例ニ據リ各事業費ノ負擔シ得ラルヘキ割合ヲ量リテ差率ヲ定メ結局平均シテ定率ニ歸セシムヘキ處分ニ出テタルモノニシテ資金會計規則第七條ニ違背シタルモノニ非ス

【貴決】 正當ノ答辯ニ非ス(分科會) 【衆決】 資金會計規則第七條違背

(參照) ○鎮守府造船材料資金會計法(明治二十三年三月十八日)

第四條 造船材料資金ヲ以テ貯蓄シタル材料ノ損減ハ豫メ歩合ヲ定メテ材料原價ニ加算スヘシ

○鎮守府造船材料資金會計規則(明治二十三年三月二十日)

明治二十五年 横須賀鎮守府造船材料資金 (三七)

第六條 貯蓄材料ヲ工場ニ使用スルトキハ原價ニ損減歩合ヲ加ヘテ之ヲ賣拂フヘシ
第七條 貯蓄材料ノ損減歩合ハ前年度及前前年度ノ損減高ヲ參酌シテ之ヲ定ム

吳鎮守府造船材料資金

歳入

第一款 吳鎮守府造船材料收入 第一項 材料賣拂代

【報告】

(三三八) 本項確定額中拾參萬五千八百六拾貳圓六拾壹錢七厘ハ材料賣拂ノ際其原價ニ加算スヘキ損減歩合ニ區々ノ乘率ヲ設ケ即チ一等水雷艇製造ニ係ル材料ニハ四歩其他ニ係ルモノニハ一割ヲ加算シテ確定シタルモノニシテ横須賀鎮守府造船材料資金歳入第一款第一項(一)ト同一ノ事由ニヨリ鎮守府造船材料資金會計規則第七條ニ違背シタルモノトス(二〇五頁(三七)參照)

【辨明】

明治二十五年年度吳鎮守府造船貯蓄材料損減ノ定率歩合八歩三厘ヲ各事業費ニ割合負擔セシメタル理由ハ第一款須賀鎮守府造船材料收入第一項材料賣拂代(一)ノ辨明ニ同シ

【貴決】 正當ノ答辯ニ非ス(分科會)

【案決】 資金會計規則第七條違背

(參照) ○鎮守府造船材料資金會計規則第七條(一〇五頁參看)

逓信省所管

官設鐵道

歳出

第一款 鐵道作業費 第五項 事業費

【報告】

(三三九) 本項決算額ノ外本年度ノ歳出ニ屬スヘキモノ參千貳百六拾八圓九拾壹錢アリ右ハ東京神戸間既成線路ノ補成工事ニ係ル橋梁軌道停車場及新橋倉庫ノ建築等ニ要セシ材料及器具器械ノ代價ナリ抑本物品ハ一般會計ニ屬スル東京神戸間及

横川輕井澤間建設費ヲ以テ購買セシモノナルニヨリ無代價ニテ之ヲ特別會計ニ移用スヘキモノニアラス因テ其理由ヲ逓信大臣ニ質問セシニ該大臣ハ右物品ハ東京神戸間鐵道建設ノ殘工事ニ對スル物品ノ需用ニ應ジ拂出ヲ爲シタルモノニシテ之ヲ作業費ニ流用シタルニアラスト答辯シ而シテ該物品ヲ使用セシ事業ニ要シタル工費ノ出途ニ關スル質問ニ對シテハ該事業タル之ヲ殘工事ト稱スルモ其性質寧ろ補成ニ屬スルヲ以テ之カ工費ヲ作業費ヨリ支出スルモ敢テ不當ニアラサルモノト認メタル旨ヲ答辯セリ則チ該大臣答辯ノ如ク本工事ヲ以テ補成事業ナリトセハ其工費ヲ作業費ヨリ支辨スルト同時ニ所用ノ物品モ亦當然同費ノ支辨タラサルヘカラス故ニ一般會計ニ係ル建設費所屬ノ物品ヲ使用スルニ當リテハ必ス一般會計ニ對シ作業費ヨリ其代價ヲ仕拂ハサルヘカラサルナリ然ルニ本件物品ノ使用ニ關シ其手續ヲ履行セス無代價ヲ以テ直チニ之ヲ移用シ其代價ノ仕拂ヲ爲サ、ルハ一般會計ト特別會計トノ區分ヲ紊ルモノトシテ官設鐵道會計法第三條ニ違背シタルモノトス本項ハ物品ノ授受ヲ爲シタルモノナルヲ以テ鐵道事業費ノ出途ヲ指定シタル官設鐵道會計法第三條トハ毫モ關係ヲ有セス

【貴決】 異議ナシ

【案決】 官設鐵道會計法第三條違背

(參照) ○官設鐵道會計法(明治二十三年三月十八日法律第二十號)

第三條 鐵道營業ニ要スル費用固定資本ノ維持修理及補充費並ニ損失金ヲ鐵道事業ノ歳出トス

右ノ外過誤拂ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但該事項ハ悉ク其處分ヲ了セリ

款	項	過誤拂	款	項	過誤拂
大藏省所管		円	第一項俸給及諸給		円 八三三三三
造幣局			文部省所管		
第一款造幣局作業費			帝國大學(經常部)		

款	項	過誤拂	款	項	過誤拂
第一款	帝國大學	円	第四項	旅費	円
第一項	俸給及諸給	一四五五五	第一高等中學校(經常部)		四一〇
	高等師範學校(經常部)		第一款	第一高等中學校	
第一款	高等師範學校		第一項	俸給及諸給	六四三二八

明治二十五年年度 貴族院決議 貴族院ハ明治二十五年年度歳入歳出總決算中歳出經常部遞信省所管第三款遞信費第三項遞信事業費及歳出臨時部遞信省所管第三款營業費第一項新營業ノ仕拂ニ於テ競争入札執行上豫定價格ニ複制限ヲ設ケタル點ハ會計法規ノ精神ニ違背シタル不當ノ處置ナリト決議ス

既往年度

豫算及法律勅令違背ノ事項

明治二十四年度

明治二十四年度歳入ノ徴收及歳出ノ使用ニ於テ法律勅令ニ違背シタルモノ左表ノ如シ但該事項中過誤拂ハ未夕追徴ヲ了セス

款	項	徴收不足	徴收過	過誤拂
歳入	經常部	円	円	円
第二款	免許及手数料			
第一項	免許料	二五五六	五三六二	
歳出	臨時部			
大藏省	所管			
第五款	中央備荒儲蓄金補助			
第一項	中央備荒儲蓄金補助			二五二〇一

貴族院決議

貴族院ハ明治二十五年年度歳入歳出總決算中歳出經常部遞信省所管第三款遞信費第三項遞信事業費及歳出臨時部遞信省所管第三款營業費第一項新營業ノ仕拂ニ於テ競争入札執行上豫定價格ニ複制限ヲ設ケタル點ハ會計法規ノ精神ニ違背シタル不當ノ處置ナリト決議ス

既往明治二十四年度

明治二十五年年度

貴族院決議

明治二十六年度歳入歳出決算検査報告

明治二十六年年度歳入歳出決算検査報告

目次

豫算及法律勅令違背ノ事項	一四一
一般會計	一一一
歳入經常部	一一一
歳入臨時部	一一三
歳出經常部	一一七
外務省所管	一一七
内務省所管	一二八
司法省所管	一二二
農商務省所管	一二四
逓信省所管	一二四
歳出臨時部	一二六
内務省所管	一二六
大藏省所管	一二八
農商務省所管	一三〇
逓信省所管	一三一
官有物	一四二

第三條 新規造船シタル者其造船場所所在ノ府縣管内ニ定製場ヲ定メサル時ハ該縣ニ願出検査ヲ受ケ假令札ヲ乞ヒ定製場ニ回清ノ上其地方廳ニ願出本館札ト引換ヲ乞フヘシ

第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ(抄)

日本形船積石五拾石以上 百石ニ付一年金貳圓

同積石五拾石未満 長自船梁三間迄ハ一年金三拾錢
解漁船小廻船 積石ニ拘ラス

但三間以上膏間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ増加ス
第十七條 此規則ヲ犯シ稅稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

第三款 官業及官有財産收入 第八項 官有物賃下料

【報告】 (二) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ參圓六拾錢アリ右ハ沖繩縣ニ於テ沖繩開運會社ニ貸付セル官有地百四拾四坪ニ對シ明治二十七年一月ヨリ同年十二月ニ至ル一箇年分ノ貸付料ヲ官有財産管理規則第六條ニ據リ前納セシムヘキモノナルニ其年七月ニ於テ納付スヘキ契約ニ依リテ徵收シ之ヲ前納セシメサリシヲ以テ其理由ヲ同縣知事ニ推問セシニ該地ハ地目性質ノ判然セサル爲メ止ムヲ得ス官有敷地ノ部ニ編入シ其料金ヲ國庫ニ收入シタリト雖モ素ヨリ官有財産以外ニシテ債行ニ依リ貸下ケタルモノナルヲ以テ純然タル官有地トナシ難シ從テ官有財産管理規則ニ據ラサル旨答辯セリ然レトモ該地ハ既ニ官有敷地ニ編入シ一私立會社ニ貸付シアルモノニシテ他ノ舊藩制度ノ慣行ニ依ラサルヘカラサル特殊ノ事情アルモノト同一視スルヲ得サルノミナラス其貸付料ハ數年來現ニ國庫ニ納入セシモノナレハ國庫經濟ニ屬スル純然タル官有地ト認メサルヘカラス依テ之カ貸付料ヲ前納セシメサルハ官有財産管理規則第六條ニ違背シタルモノトス

【報告】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○官有財産管理規則(明治二十三年十一月二十五日勅令第二百七十五號)

第六條 官有財産ノ貸付料ハ毎年納付セシムヘシ若シ前納スル能ハサルトキハ相當ノ保證ヲ出サシムヘシ

貸付財産ノ修理其ノ他ノ費用ヲ負擔スル方法ハ貸付契約ヲ爲ストキ之ヲ定ムヘシ

第十四項 鐵道基金

【報告】

(三) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ千參百參拾圓拾九錢アリ本年度ニ於ケル鐵道作業特別會計收入總額ハ六百七拾四萬四千四百貳圓九拾九錢貳厘ニシテ支出總額ハ四百參萬參百九拾參圓八錢ナルヲ以テ本年度一般ノ歳入ニ納付スヘキ基金ハ貳百七拾壹萬千八百九拾九圓九拾壹錢貳厘ナリトス然ルニ逓信大臣ハ貳百七拾萬九千七百五拾九圓七拾貳錢貳厘ヲ納付シ其殘餘千參百參拾圓拾九錢ヲ本年度歳入トシテ納付セサリシハ作業及鐵道會計規則第四十一條ニ違背シタルモノトス

【報告】

本項金額ハ大阪驛ニ於テ紛失又ハ盜難ニ罹リタルモノニシテ之カ補填等ノ整理上ニ關シ該縣中明治二十六年出納期限ヲ經過セシカ爲メ明治二十七年歳入ニ至リ明治二十六年鐵道基金納不足追納トシテ一般歳入ニ納付セシニ依リ所屬年度ヲ誤リタルモノニアラス故ニ作業及鐵道會計規則違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○作業及鐵道會計規則(明治二十三年三月二十日勅令第三十三號)

第四十一條 作業所ハ受入ノ總額ヨリ拂出ノ總額ヲ扣除シ殘餘アルトキハ作業ノ益金トシテ其事業ヲ營ミタル年度ノ一般ノ歳入ニ納付スヘシ

歳入臨時部

第二款 官有物拂下代 第二項 地所拂下代

【報告】

(四) 本項ニ於テ徵收不足ヲナシタルモノ八拾七錢五厘アリ右ハ福島縣ニ於ケル開墾地二段九畝五步ノ拂下代金ニシテ全ク徵收洩ニ係ルモノナリ然ルニ官有財産賣拂代金ハ其引渡ノ際一時ニ納付セシムヘキモノナルヲ以テ官有財産管理規則第四條ニ違背シタルモノトス

【報告】

本項徵收洩ハ取扱ノ誤謬ニ出テタルモノニシテ事實發見ノトキ即チ明治二十八年六月ニ於テ徵收シ之ヲ明治二十八年歳入ニ編入セリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

明治二十六年度 歳入 (三)(四)

明治二十六年度 歳入 (五)(六)

【参照】 ○官有財産管理規則(明治二十三年十一月二十五日)

第四條 官有財産賣拂代金ハ其ノ財産引渡ノ際一時ニ納付セシムヘシ

第四項 物品拂下代

【報告】 (五) 本項ニ於テ北海道廳ノ收入ニ係ル七拾六圓四拾錢四厘ハ舊開拓使根室支廳ヨリ引繼來リタル度量衡賣捌代殘金ニシテ元北海道廳理事官某ニ於テ保管中明治二十三年三月ヨリ八月マテニ度量衡運搬費及日清貿易研究生旅費並ニ爲替料トシテ仕拂ヒタルモノナリト云フト雖モ其事實判然セサルニ由リ北海道廳ハ該仕拂ヲ不正當ト認メ本年度ニ於テ之カ返納ヲ爲サシメタルモノナリ右ハ會計法實施ノ際直ニ歳入ニ納入スヘキモノナルニ之ヲ同官ニ保管セシメタルハ特別ノ資金ヲ有シタルモノニシテ會計法第四條ニ違背シタルモノトス

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 承認

【参照】 ○會計法(明治二十二年二月十一日)

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第七款 製艦費補足金

第二項 納付金

【報告】 (六) 本項ニ於テ徵收過ヲナシタルモノ參圓六拾貳錢九厘アリ右ハ宮崎縣ニ於テ屬二名依願免官トナリ殘務取扱中俸給令ニ據リ支給セル金額ニ對シ製艦費補足金トシテ納付セシメタルモノニシテ歳入測定官ハ俸給令ニ據リ俸給トシテ支給シ俸給ノ科目ヨリ支出シタル金額ナルカ故ニ該補足金ヲ納付セシメタリト云フト雖モ製艦費補足金ハ文武官及雇員ノ俸給中ヨリ納付セシムヘキモノナルヲ以テ殘務取扱者ニ給スル金額中ヨリ之ヲ納付セシメタルハ明治二十六年勅令第五號第一條ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項徵收過ニ屬スル金額ハ明治二十八年年度ニ於テ拂戻ヲ了セリ

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 承認

【参照】 ○國家軍防ノ必要ヲ認メ文武官及雇員ノ俸給中ヨリ製艦費ノ補足ニ充テシムルノ件(明治二十六年二月十八日)
第一條 文武官及雇員ノ俸給ハ本令施行ノ日ヨリ六箇年間其ノ十分一ヲ國庫ニ納付セシム但シ納付ノ手續ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

右ノ外年度違徵收不足及徵收過ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサルモノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	項	年度	違	徵收不足	徵收過	備考
歳入經常部		円		円	円	
第一款	租 稅					
第一項	地 租	一五七八七八		二五九五六三	五三三六二八	徵收不足中貳百貳拾壹圓六拾八錢四厘ハ追徵未了徵收過中參百參拾貳圓四拾八錢九厘ハ下戻未了
第二項	所 得 稅	七四七五五		三六九四五	七五七七三	徵收過中拾參圓四拾五錢ハ下戻未了
第三項	酒 造 稅	二、三四八六三三		一九二三一五	六五二〇四六	徵收過中貳拾壹圓拾四錢四厘ハ下戻未了
第六項	煙 草 稅	10000			11600	徵收過中貳錢ハ下戻未了
第七項	證 券 印 稅				四七〇	徵收過中貳拾四錢ハ下戻未了
第八項	醬 油 稅	五〇三〇			一四八四五	徵收過中壹圓ハ下戻未了
第九項	菓 子 稅	七〇九二		五〇〇	二〇七七五	
第十項	株式取引所稅				〇〇11	
第十項	取引所稅				1001	

款	項	年度	違	徵收不足	徵收過	備考
第十五項	賣藥稅	一九八三	二〇〇〇	三三〇〇	徵收不足貳圓八拾五錢ハ追徵未了 徵收過中九圓八拾五錢ハ下戻未了	
第十六項	船稅	一三七七	七五〇	七六三〇	徵收過中七圓九拾九錢五厘ハ下戻未了	
第十七項	車稅	二二〇〇	二五〇〇	四八七五〇	徵收不足中貳圓八拾五錢ハ追徵未了 徵收過中九圓貳拾五錢ハ下戻未了	
第十八項	鑛業稅	六三九三	二四七五	一八〇三五四	徵收過中參拾圓四拾六錢ハ下戻未了	
第十九項	北海道水產稅	—	—	六八〇〇		
第二十項	牛馬賣買免許稅	三四五〇〇	—	—		
第二十一項	海關稅	—	八五六四〇	二八二一五七四		
第二款	免許及手数料	—	—	—		
第一款	免許及手数料	—	—	九六〇		
第三款	官業及官有財産收入	—	—	—		
第二款	稅關雜收入	—	—	四五四五二		
第五項	郵便電信收入	—	—	—		
第八項	官有物貨下料	—	五二八〇	—		
第四款	雜收入	—	—	—		
第二項	辨償金	—	四〇〇〇	—		
第三項	雜收入	四〇〇〇	五一五六	四七〇〇	徵收過四圓七拾錢ハ下戻未了 徵收過中貳圓貳拾六錢貳厘ハ下戻未了	
第四項	官吏遺族扶助法納金	—	—	—	徵收過中七圓八拾五錢八厘ハ下戻未了	

歳出經常部

外務省所管

第二款 在外公館 第二項 修繕費

歳入臨時部	第二項 官有物拂下代	第二項 地所拂下代	第七款 製鐵費補足金	第二項 納付金
—	—	—	—	三六五〇
—	—	—	—	二二六六一八
—	—	三八一	—	—

徵收不足參圓六拾五錢ハ追徵未了
徵收過中九拾七圓七拾七錢九厘ハ下戻未了

【報告】

(七) 本項ニ於テ在英國倫敦領事館ノ支出ニ係ル竈外四點ノ修繕費參拾七圓八拾九錢貳厘ハ公使館領事館費用條例細則第五條ニ據リ領事ノ自辦ニ屬スヘキモノニシテ本項豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス右ハ既ニ其處分ヲ了セリ

【證明】

會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○公使館領事館費用條例細則(明治二十四年四月二十九日)

第五條 前條科目外ノ費用ハ公使領事若クハ其代理者ノ負擔トス

○會計法(明治二十二年二月十一日)

第十二條第一項 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第八項 贈 費

【報告】 (八) 本項ニ於テ在米國華盛頓公使館ノ支出ニ係ル額縁新調代九圓參拾參錢及在朝鮮國元山領事館ノ支出ニ係ル帽子掛梓新調代六圓五拾錢ハ公使館領事館費用條例細則第五條ニ據リ公使若クハ領事ノ自辨ニ屬スヘキモノニシテ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス右ハ既ニ其處分ヲ了セリ

會計検査院検査報告ノ通

【審明】

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○公使館領事館費用條例細則第五條及會計法第十二條(一一七頁參看)

【報告】 (九) 同上在朝鮮國釜山總領事館ノ支出ニ係ル物品運搬賃八拾八錢ハ公使館領事館費用條例細則第五條ニ據リ領事館渡切經費受領者ノ負擔ニ屬スヘキモノナリ然ルニ之ヲ普通經費ノ支出ニ立テタルハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス右ハ既ニ其處分ヲ了セリ

會計検査院検査報告ノ通

【審明】

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○公使館領事館費用條例細則第五條及會計法第十二條(一一七頁參看)

内務省所管

第八款 北海道本廳 第一項 俸給及諸給

【報告】 (一〇) 本項ニ於テ元非職北海道廳技手一名ニ係ル退官賜金ハ八拾七圓五拾錢ナルヘキニ百拾貳圓五拾錢ヲ支給シ元浦河外六郡書記一名ニ係ル同賜金ハ百四拾圓ナルヘキニ百五拾七圓五拾錢ヲ支給シ及元非職北海道廳屬一名ニ係ル同賜金ハ百參拾五圓ナルヘキニ百五拾圓ヲ支給セシニ由リ合計五拾七圓五拾錢ノ過渡ヲ爲セリ右ハ孰モ在官年數計算上御用掛勤務中ノ年月數ヲ通算セシニ因ルモノナレトモ退官賜金ニ關スル明治二十三年勅令第九十八號第一項ニハ文官判任以上ノ者在官一年以上ニシテ退官シタル者ニハ云々トアルヲ以テ御用掛勤務中ノ年月數ハ在官年數ニ加算シ得ヘキモノニアラサルコト

勿論ナリ然ルニ之ヲ通算シテ退官賜金ヲ支給シタルハ該勅令ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項過渡ハ明治二十三年勅令第九十八號ノ解釋ヲ誤リタルモノナルニ依リ之カ返納ヲ命ジタリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○文官判任官以上ノ者退官賜金ノ件(明治二十三年六月二十一日勅令第九十八號)

第一項 文官判任以上ノ者在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス

第三項 警備土木費

【報告】 (一一) 本項ニ於テ松前郡役所ノ支出ニ係ル四百九拾圓拾錢ハ隨意契約ニ依リ請負ニ付シタル同郡役所廳舎修繕工事費ニシテ該工事ハ明治二十七年三月二十六日ノ竣功期限ナリシニ同年五月三十一日マテ延期ヲ許可シ落成ノ上同年六月ニ至リ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ翌年度ニ繰越ノ手續ヲナスヘキモノナルニ之ヲ履行セサリシハ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ履行セサルモ翌年度六月三十日迄ハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】

政府ノ答辯ハ適當ヲ缺ク(分科會)

【衆決】 會計法第二十一條違背

(參照)

○會計法(明治二十二年二月十一日法律第四號)

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

【報告】

(一二) 同上壽都外三郡役所ノ支出ニ係ル四百參拾壹圓五拾錢ハ隨意契約ニ依リ請負ニ付シタル磯谷郡各村戸長役場及警察分署修繕工事費ニシテ該工事ハ明治二十七年三月三十一日ノ竣功期限ナリシニ同年六月十五日マテ延期ヲ許可シ落成ノ上同月ニ至リ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ履行セサルモ翌年度六月三十日迄ハ仕拂ヲ爲シ

得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ答辯ハ穩當ヲ缺ク(分科會) 【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一九九頁參看)

第十項 北海道事業費

【報告】 (一三) 本項ニ於テ根室外九郡役所ノ支出ニ係ル四百九拾四圓ハ隨意契約ニ依リ請負ニ付シタル千島國後郡東湧村聯合新築工事費ニシテ該工事ハ明治二十七年三月三十日ノ竣功期限ナリシニ同年五月二十日マテ延期ヲ許可シ落成ノ上同月ニ至リ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ履行セサルモ翌年度六月三十日迄ハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ答辯ハ穩當ヲ缺ク(分科會) 【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一九九頁參看)

【報告】

(一四) 同上紗那外三郡役所ノ支出ニ係ル四百九拾五圓ハ隨意契約ニ依リ請負ニ付シタル千島國振別郡老門村字グヤ聯合新築工事費ニシテ該工事ハ明治二十六年十二月二十五日ノ竣功期限ナリシニ同年六月十五日マテ延期ヲ許可シ落成ノ上同月ニ至リ本年度ヨリ其工費ヲ支出シタルモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ履行セサルモ翌年度六月三十日迄ハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ答辯ハ穩當ヲ缺ク(分科會) 【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一九九頁參看)

第十款 北海道集治監 第三項 修繕費

【報告】

(一五) 本項ニ於テ北海道集治監ノ支出ニ係ル百六拾圓四拾貳錢壹厘ハ囚徒教誨所ノ建設ニ充テタル費用ナリ抑該工事項

得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ答辯ハ穩當ヲ缺ク(分科會) 【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一九九頁參看)

第十項 北海道事業費

【報告】 (一三) 本項ニ於テ根室外九郡役所ノ支出ニ係ル四百九拾四圓ハ隨意契約ニ依リ請負ニ付シタル千島國後郡東湧村聯合新築工事費ニシテ該工事ハ明治二十七年三月三十日ノ竣功期限ナリシニ同年五月二十日マテ延期ヲ許可シ落成ノ上同月ニ至リ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ履行セサルモ翌年度六月三十日迄ハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ答辯ハ穩當ヲ缺ク(分科會) 【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一九九頁參看)

【報告】

(一四) 同上紗那外三郡役所ノ支出ニ係ル四百九拾五圓ハ隨意契約ニ依リ請負ニ付シタル千島國振別郡老門村字グヤ聯合新築工事費ニシテ該工事ハ明治二十六年十二月二十五日ノ竣功期限ナリシニ同年六月十五日マテ延期ヲ許可シ落成ノ上同月ニ至リ本年度ヨリ其工費ヲ支出シタルモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ履行セサルモ翌年度六月三十日迄ハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ答辯ハ穩當ヲ缺ク(分科會) 【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一九九頁參看)

第十款 北海道集治監 第三項 修繕費

【報告】

(一五) 本項ニ於テ北海道集治監ノ支出ニ係ル百六拾圓四拾貳錢壹厘ハ囚徒教誨所ノ建設ニ充テタル費用ナリ抑該工事項

ル石狩國上川郡忠別太ニ在リシ囚徒外役所板庫及物置等ヲ取崩シ之ヲ移轉修築シタルモノナリト云フト雖モ其實新築ニシテ修繕工事ニアラス故ニ之カ費用ヲ本項ヨリ支出シタルハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 會計検査院検査報告ノ通
【貴決】 異議ナシ
【衆決】 會計法第十二條違背
(參照) ○會計法第十二條(一一七頁參看)

第十一款 府 第五項 外國人居留地取締及修繕費

【報告】 (一六) 本項ニ於テ兵庫縣ノ支出ニ係ル參千參百拾四圓五拾錢七厘ハ外國人居留地海岸石垣修繕費ニシテ此工費中千五百拾四圓五拾錢七厘ハ明治二十七年四月中ニ仕拂ヒタルモノナリ抑該工事項ル競争契約ニ依リ請負ニ付シ明治二十七年二月十日著手同年三月三十一日竣功ノ期限ナリシニ風波ノ爲メ更ニ四月十日マテ延期ヲ許可セシモノナルヲ以テ該金額ノ幾分ハ翌年度ニ繰越ノ手續ヲナスヘキモノナルニ之ヲ履行セサリシハ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 第八款北海道本廳第三項營繕土木費(五)ノ辨明ノ理由ニ同シ(一九九頁(一)參看)
【貴決】 政府ノ答辯ハ穩當ヲ缺ク(分科會) 【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一九九頁參看)

第十項 旅費

【報告】 (一七) 本項ニ於テ兵庫縣ノ支出ニ係ル水夫食卓料六圓ハ地方費ノ支辨ニ屬スヘキモノニシテ本項豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス右ハ既ニ其處分ヲ了セリ

【辨明】 會計検査院検査報告ノ通
【貴決】 異議ナシ
【衆決】 承認
(參照) ○會計法第十二條(一一七頁參看)

第十一项 雜給

明治二十六年度 内務省 (一六)(一七)

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○會計法第十二條(一一七頁參看)

第六項 廳費

【報告】 (二四) 本項ニ於テ山口地方裁判所ノ支出ニ係ル解剖料七圓四拾七錢神戸地方裁判所ノ支出ニ係ル破産決定等公告料貳圓四拾五錢高松地方裁判所ノ支出ニ係ル人力車賃六拾錢新潟地方裁判所ノ支出ニ係ル死體鑑定料貳圓ハ孰モ本費ヨリ支出スヘキモノニアラスシテ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス右ハ既ニ其處分ヲ了セリ

會計検査院検査報告ノ通

【衆決】 承認

(參照) ○會計法第十二條(一一七頁參看)

農商務省所管

第二款 林區署費 第三項 旅費

【報告】 (二五) 本項ニ於テ青森大林區署ノ支出ニ係ル貳圓七拾六錢ハ營林主事補一名收入官吏トシテ身元保證金拂込ノ爲メ金庫ニ出頭セシ旅費ナルニヨリ官費支辨ニ屬スヘキモノニアラスシテ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス右ハ既ニ其處分ヲ了セリ

會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○會計法第十二條(一一七頁參看)

逓信省所管

第三款 逓信費 第三項 逓信事業費

【報告】 (二六) 本項ニ於テ横濱郵便電信局ノ支出ニ係ル監視員其他ノ被服代百五拾壹圓五拾錢及集配人被服代參百五拾五圓八拾

六錢五厘外ニ本款第六項廳費ニ屬スル小使被服代拾參圓貳拾參錢五厘ヲ併セ合計五百貳拾圓六拾錢ノ支出ハ之ヲ一併シテ競争入札ニ付スルニ當リ豫定價格ニ複制限ヲ設ケ其限内ニ的中スルモノニアラサレハ一切採用セサルノ方法ニ依リタルモノニシテ既ニ明治二十四年度及明治二十五年年度歳入歳出決算検査報告逓信省所管ノ部ニ掲載セシト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十四條及會計規則第七十五條ニ違背シタルモノトス(明治二十四年度(三九)二六頁及明治二十五年(三九)九二頁參看)

【辨明】 本項豫定價格ハ明治二十六年度以降複制限法ヲ廢シ單制限法ニ依ルコトニ改正シタルモ横濱郵便電信局ニ於テ之カ改正ヲ了知セザリシカ爲メ複制限法ヲ用キタルモノナリ

【貴決】 別紙決議ノ通トス(二四四頁參看) 【衆決】 會計法第二十四條及會計規則第七十五條違背 (參照) ○會計法(明治二十四年二月十一日)

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

- 第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ
- 第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ
- 第三 非常急遽ノ際ノ工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ
- 第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ
- 第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣買フトキ
- 第九 軍艦ヲ買入ル、トキ
- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 第十二 慈善ノ爲ニ設立セル教育所ノ費民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ使役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈善教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ
○會計規則(明治二十二年五月一日)
(勅令第六十號)

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置タヘシ

【報告】(二七) 同上逓信省ノ支出ニ係ル七千貳百參拾四圓ハ紙類四十九萬帖ノ代價ニシテ其競争入札ヲ行フニ當リ入札保證金ハ該事項見積代金八千六百拾八圓ノ百分ノ五以上即四百八圓四拾錢以上ヲ徵スヘキモノナルニ四拾貳圓ヲ徵セシハ會計規則第七十條ニ違背シタルモノトス

【辨明】本項ハ會計検査院検査報告ノ通該事項見積代金八千六百拾八圓ノ百分ノ五分貳厘即チ四百貳拾五圓徵收スヘキノ處算位ヲ誤リタルモノナリ
【貴決】 異議ナシ
【未決】 承認

(參照) ○會計規則(明治二十二年五月一日)
(勅令第六十號)

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ

第一 競争ニ加ハテントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第二 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

歳出臨時部

内務省所管

第三款 土木費補助 第五項 佐賀縣道路修築費補助

【報告】(二八) 本項決算額壹萬貳千參百四拾貳圓拾七錢七厘ノ内千圓ハ豫算目的外ノ支出ニ屬セリ其事由ハ政府ヨリ帝國議會ニ提出セシ豫定經費要求書ノ説明ニハ修築費參萬七千貳拾六圓五拾參錢貳厘ノ三分ノ一ヲ補助セントスルモノナリトアルモ

佐賀縣知事ノ工費補助申請書ニ於テハ總工費參萬四千貳拾六圓五拾參錢貳厘ヲ要スル旨記載シアリテ參千圓ノ差アリ故ニ補助金支出ノ標準トシタル三分ノ一ニ依リ計算スルトキハ補助額モ自然減額スヘキモノト認メ之ヲ内務大臣ニ質問シタルニ右工費額ニ參千圓ノ差異アルハ佐賀縣ニ於テ最初ノ工費豫算額ニ參千圓ノ削減ヲ加ヘタルニ因レリ從テ補助金下付ノ當時其事實判然タラハ申請ノ全額ヲ下付セザリシナラントノ答辯アリタリト雖モ該縣知事ヨリ提出セル稟請書ノ工費豫算額ハ明ニ參千圓削減ノ事ヲ見ルニ足ルヘキヲ以テ其錯誤ニ起因セル補助額即チ千圓ハ該縣ニ對シ返納ヲ命スヘキモノト認メ其處分ニ就テ尙内務大臣ニ質問シタルニ同大臣ニ於テモ佐賀縣ヲシテ之ヲ返納セシムヘキモノト認メ既ニ土木局長ヲシテ其旨ヲ該縣知事ニ通牒セシメタリトノ答辯アリタリ抑本項補助費ハ修築工費三分ノ一ヲ補助スルノ目的ヲ以テ設ケタルモノナルカ故ニ其歩合以上ノ金額ヲ支出シタルハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【辨明】本項決算額中千圓ハ過拂ニ係リシヲ以テ之カ返納ヲ命シタリ
【貴決】 異議ナシ
【未決】 承認

(參照) ○會計法第十二條(一一七頁參看)

第五款 府 縣 第四項 衆議院議員補選費

【報告】(二九) 本項ニ於テ和歌山縣及大分縣ノ支出ニ係ル雇二名旅費拾貳圓六錢ハ地方費ノ支辨ニ屬スヘキモノニシテ本項豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス右ハ既ニ其處分ヲ了セリ

【辨明】會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第十二條(一一七頁參看)

第八款 警備費 第一項 新警備費

【報告】(三〇) 本項ニ於テ北海道廳ノ支出ニ係ル參千貳拾圓ハ北海道尋常師範學校附屬建物六棟新設並石庫引建直工事ノ請負
明治二十六年度 内務省 (二九)(三〇)

【報告】 八歩通出来形ニ對スル第二回ノ仕拂ニシテ該工事遅延シ本年度内ニ竣功スル能ハス明治二十七年四月ヨリ六月ニ至ル間ニ竣功シタル部分ニ對スルモノナリ右ハ翌年度ニ繰越ノ手續ヲナスヘキモノナルニテ履行セサリシハ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【報告】 經常部第八款北海道本廳第三項營繕土木費(五)ノ辨明ノ理由ニ同シ(一九頁(一)參看)

【貴決】 政府ノ答辯ハ穩當ヲ缺ク(分科會) 【衆決】 會計法第二十一條違背

(參照) ○會計法第二十一條(一一九頁參看)

大蔵省所管

第一款 補助費 第一項 日本鐵道會社利益補助

【報告】 (三一) 本項決算額六拾四萬六千八百五拾八圓七拾八錢九厘即チ日本鐵道株式會社第四第五兩區ニ對スル利益不足補給額ノ内參千百貳拾圓五拾貳錢ハ過拂ニ屬セリ今之ヲ細別スレハ百拾貳圓四拾四錢九厘ハ明治二十六年九月及十月分ノ電信取扱手數料ニシテ第四區第五區ニ屬スル明治二十六年年度ノ收入ナルニ明治二十七年年度收入トシテ整理シアリタルカ爲メニ對スル補給額ハ過拂トナリ又貳千八百貳拾七圓八錢壹厘ハ第四區第五區線中石垣新設工費ニシテ興業費ニ屬スヘキモノナルニ營業費ニ組入レアリタルヲ以テ同ク補給額ノ過拂ヲ生シ又貳厘ハ明治二十六年七月分運輸收入各區配當違算ニ由リ第四區第五區ノ營業收入差引増額スヘキモノナルヲ以テ過拂トナレリ以上ノ金額ハ孰モ後年度ニ於テ歲入ニ納付セリ而シテ百八拾圓八拾錢四厘ハ第四區線一ノ關停車場井戸修繕費ノ内給水器改良ニ要シタル費用及貳圓七拾貳錢ハ用地取調トシテ出張シタル旅費ニシテ共ニ興業費ニ屬スルモノナルニテ營業費ニ組入レアリタルヲ以テ從テ補給額ノ過拂トナリ返納セシムヘキモノナルコトヲ發見シ之ト同時ニ同會社ニ追給スヘキモノ貳圓五拾參錢六厘アルヲ以テ其處分ヲ大蔵大臣ニ質問セシニ差引百八拾圓九拾八錢八厘ハ同會社ヲシテ返納セシムヘキ旨答辯アリタリ因テ合計參千百貳拾圓五拾貳錢ハ同會社各區利益年八歩ニ達セサルモノヲ補給スルカ爲ニ設ケタル本項豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

ノトス

【報告】 本項決算額中參千百貳拾圓五拾貳錢ハ過拂ニ係リシヲ以テ既ニ之ヲ返納セシメタリ但豫算ノ目的外ニ使用シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○會計法第十二條(一一七頁參看)

第四款 中央備荒儲蓄金補助 第一項 中央備荒儲蓄金補助

【報告】 (三二) 本項ニ於テ過拂ヲ爲シタルモノ拾四圓貳拾九錢參厘アリ右ハ島根縣ニ對シ中央備荒儲蓄金補助ノ支出ヲナズニ當リ同縣儲蓄金ノ百分ノ五ヲ超過セル供用支出額ハ五千五百參拾四圓七拾五錢ナルヲ以テ此額ヲ補助スヘキニ五千五百四拾九圓四錢參厘ヲ支出セシニ由ルモノナリ抑同縣儲蓄金現在高ノ調査上本年度ニ於テ收入スヘキ地租貸與金貳百八拾五圓八拾六錢參厘ヲ加算スヘキニ之ヲ除算シアルヲ以テ其事由ヲ島根縣知事ニ推問シタルニ明治二十三年大蔵省訓令備荒儲蓄金取扱順序第六條ニ於テ其年收入スヘキ金額トアルハ貸付金或ハ公債證書當籤ノ如キ固有ノ債權ヲ金額ニ替ヘタルモノ、類ハ利子其他ノ收入ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ除算スヘキモノナリト答辯セリ然レトモ備荒儲蓄法第七條府縣儲蓄金ノ現在高ヲ確定スルニハ必ス取扱順序第六條ニ據リ本年度收入高ノ内ニ其年返納スヘキ地租貸與金ヲ併算セサルヘカラサルハ明瞭ナリ因テ右除算ノ結果トシテ前記ノ支出ヲナシタルハ備荒儲蓄法第七條ニ違背シタルモノトス

府縣備荒儲蓄金高ノ計算ヲ誤リタルカ爲メ過拂ヲ生シタルモ其過拂ニ係ル金額ハ既ニ之ヲ返納セシメタリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○備荒儲蓄法(明治十三年六月十五日)

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及ヒ貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金百分ノ五以上ヲ供用支出スルトキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大蔵兩卿ノ協議ヲ以テ中央備蓄金ヨリ補助スヘシ

○備荒儲蓄金取扱順序(明治二十三年三月十四日)

明治二十六年度 大蔵省 (三二)

第六條 備荒儲蓄法第七條ニ因リ府縣備蓄金ノ百分ノ五前年度ヨリ繰高(貸付金ハ其年返納スヘキ額ヲ除算ス)以上ヲ供用支出セントスル
トキハ豫メ災害ノ量況及救助額ノ概算ヲ内務大蔵兩大臣ニ具狀シ中央備蓄金ノ補助ヲ請求スヘシ此場合ニ於テハ時トシテ内
務大蔵兩省ノ官吏ヲ派遣シ實際ヲ查閱スルコトアルヘシ

【報告】 (三三三) 同上過拂ヲナシタルモノ五圓參拾錢アリ右ハ群馬縣ニ對シ中央備荒儲蓄金補助ノ支出ヲナスニ當リ同縣備蓄金ノ
百分ノ五ヲ超過セル供用支出額ハ壹萬五千四百五拾貳圓四拾錢參厘ナルヲ以テ此額ヲ補助スヘキニ同縣備蓄金現在高ノ調
査上五百圓九拾九錢貳厘ヲ誤脱シタルカ爲メ壹萬五千四百五拾七圓七拾錢參厘ヲ支出シ前記ノ過拂ヲ爲シタルモノニシテ
備荒儲蓄法第七條ニ違背シタルモノトス右ハ既ニ其處分ヲ了セリ

【辨明】 府縣備蓄金高ノ計算ヲ誤リタルカ爲メ過拂ヲ生シタルモ其過拂ニ係ル金額ハ既ニ之ヲ返納セシメタリ
【貴決】 異議ナシ
【衆決】 承認
(參照) ○備荒儲蓄法第七條(二二九頁參看)

農商務省所管

第七款 獸疫費 第一項 獸疫費

【報告】 (三四) 本項ニ於テ和歌山縣ノ支出ニ係ル獸醫一名ノ手當金參拾參圓六拾錢ハ重複支給ナルヲ以テ徵收ノ上歳入ニ組入ル
ヘキモノナルニ之ヲ定額ニ戻入シタルハ會計法第二十三條ニ違背シタルモノトス
本項ハ和歌山縣ニ於テ歳入ニ組入スヘキ徵收金ヲ定額ニ戻入シ他日之ヲ發見シタルモ當時ハ既ニ當該年度經過ノ後ニシテ之ヲ訂正スルノ
途ナカリシニ依リ其備置整理セリ

【貴決】 異議ナシ
【衆決】 承認
(參照) ○會計法(明治二十二年二月十二日) 第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル收入及其ノ他一切豫算外ノ收入ハ總テ現年度ノ歳
入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ
戻入ル、コトヲ得

逓信省所管

第二款 郵便費 第六項 小包郵便新費

【報告】 (三五) 本項ニ於テ宇都宮郵便電信局ノ支出ニ係ル六百貳拾七圓八同局構内倉庫一棟新營費ニシテ該工事タル明治二十六
年三月二十八日競争入札ノ結果豫定價格ノ制限ニ達セサルヲ以テ隨意契約ニヨリ請負ニ付シタルモノナレトモ之カ競争ヲ
爲サシムルニ當リ十五日以前ニ公告スル等會計規則上所定ノ手續ヲ履行シアラサルヲ以テ之ヲ審理セシニ元來本件タル最
初制規ノ手續ヲ履行シテ同年三月二十日ニ開札セシモ入札中豫定價格ノ制限ニ達スルモノナキニ由リ會計規則第七十七條
ニ據リ同月二十八日ニ至リ再度ノ入札ヲ執行セシメタルモノナリト云ヘリ然リト雖モ該條ハ開札ノ上一モ豫定價格ノ制限
ニ達セサルトキ直ニ其場所ニ於テ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ許シタルノミ本件ノ如ク數日經過ノ後ニ入札ヲ爲サシム
ルニ當リテハ固ヨリ之ヲ適用シ得ヘキモノニアラス故ニ後日再ヒ之カ競争入札ヲ爲サシメント欲セハ當然更ニ制規ノ手續
ヲ履行セサルヘカラス然ルニ之ヲ履行セサリシハ會計規則第七十三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 會計検査院検査報告ノ通
【貴決】 異議ナシ
【衆決】 承認
(參照) ○會計規則(明治二十二年五月二日) 第六十條
第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示
又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ
第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度
ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

右ノ外年度違科目違過誤拂及拂不足ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサルモ
ノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	項	年度	違科目	過誤	拂	拂不足	備考
第九款	札幌農學校費						
第一項	俸給及諸給				一九三三		
第三項	旅費				六三〇		
第六項	學生費				一三三八八		
第十款	北海道集治監						
第一項	俸給及諸給				九五八八		
第二項	囚徒費				二六五		
第四項	旅費				三二五〇		
第五項	雜給		四五〇〇		九〇二八		
第十一款	府縣						
第一項	俸給及諸給				七四五三五	一四五二	
第二項	徵兵費				二五八四〇		
第三項	恩賞及救助費				三五二九九	〇六九	拂不足六錢九厘八追給未了
第五項	外國人居留地取締及警備費				六〇九六		
第十項	旅費		二六一〇		一一五六三八	一〇〇	
第十一項	雜給				三五〇		
第十二項	應費				一六一〇		

款	項	年度	違科目	過誤	拂	拂不足	備考
第十三項	消毒所及避病院保存費				三五三三		
第十三款	沖繩縣地方費						
第十項	教育費				二四一		
第十一項	役所及役場費					五五〇	
第十四款	對馬地方警察費						
第二項	旅費				一〇三六八		
第二款	大藏省所管債						
第二項	公債利子				四六〇〇		
第三款	恩賞諸祿						
第一項	賞勳年金				三二八六六		
第二項	文官恩給				二八〇〇八三		
第三項	軍人恩給				一七〇〇一一		
第五項	沖繩縣諸祿				四一六六		
第十一款	稅關						
第一項	俸給及諸給				二六七		
第五項	雜給				二五六五		
第六項	應費				〇七八		

款	項	年度	違科	目違	過誤	拂	拂不足	備考
		円	円	円	円		円	
第十二款	内國稅徵收費							
	第一項 俸給及諸給				二四七三			
	第三項 所得稅調查費				一八〇七			
	第四項 市町村交付金						〇〇三	
	第五項 滯納及犯則者處分費							
	第七項 旅費			九八五〇	六五三六〇		七八〇	
	第八項 雜給				二五七			
	第九項 應費				六二〇			
第十四款	諸拂戻及缺損補填金							
	第一項 諸拂戻金				二五九六二			過誤拂中六圓五拾六錢八厘ハ追徵未了
	陸軍省所管							
	第一款 陸軍本省							
	第一項 俸給及諸給				八一〇四			
	第六項 雜給				一五四〇			
	第二款 軍事費							
	第一項 俸給及諸給				一八一七〇〇		三八三八四	拂不足中五錢壹厘ハ追給未了
	第四項 糧食費				二三三			

款	項	年度	違科	目違	過誤	拂	拂不足	備考
		円	円	円	円		円	
第五項	被服費				四八六八〇			
第六項	馬匹費				二〇八〇			
第八項	測量費						五〇〇	
第九項	演習及復習費				二五七〇九		一九五六	拂不足中拾五錢ハ追給未了
第十二項	應費				二〇五六			
第十三項	旅費				六七四二〇			
第十四項	雜給				一二四〇			
第三款	憲兵費							
	第一項 俸給及諸給				二二〇八一			
	第四項 被服費				四〇二〇			
	第七項 應費				一八七〇			
	第八項 旅費				四八〇			
	第九項 雜給				四七二			
	第四款 屯田兵費							
	第一項 俸給及諸給				四六八七			
	第九項 囚徒費				一〇九三			
	第十二項 旅費				二二〇			
	海軍省所管							

款項	年度	違科	目違	過誤	拂	拂不足
第二款軍事費						
第一項俸給及諸給	070			111349		430
第三項糧食費				132		
第四項被服費				800		400
第十二項扶助金				4359		
第十三項應費			32900			
第十四項旅費				6560		
第十五項雜給				880		
司法省所管						
第一款司法本省						
第一項俸給及諸給				94154		
第二款裁判所						
第一項俸給及諸給				233109		2800
第二項修繕費				3005		
第三項裁判費	1400			23085		
第四項旅費	42100			73310		7200
第五項雜給				9697		

備考

拂不足中參圓八拾九錢ハ追給未了

拂不足四拾錢ハ追給未了

款項	年度	違科	目違	過誤	拂	拂不足
第六項應費				800		
文部省所管						
第一款文部本省						
第一項俸給及諸給				82500		
農商務省所管						
第一款農商務本省						
第一項俸務及諸給						1667
第四項旅費				090		
第二款林區署費						
第一項俸給及諸給				40425		8978
第三項旅費				110110		1100
第四項雜給		1260		2401		
第五項應費				3753		
第六項造林及林產物處理費		26		6103		
第三款鑛山監督署費						
第一項俸給及諸給				3548		
第三項旅費				21230		64870
第四項雜給				160		

拂不足中九拾六錢九厘ハ追給未了

款	項	年度	遠	科目	遠	過	誤	拂	拂	不足	備考
第五項	農事試驗場費		10000					3000	4000		
第五項	水產調査所費							001			
第二項	遞信省所管										
第一款	遞信本省										
第一項	俸給及諸給										
第三項	旅費							3000			
第三項	遞信費							6700			
第一項	俸給及諸給		10000					69533			
第三項	遞信事業費		9000					1073272			
第四項	旅費							9880			
第五項	雜給							2340			
第六項	應費							9241			
第四款	航路標識費										
第一項	俸給及諸給							6000			

款	項	年度	遠	科目	遠	過	誤	拂	拂	不足	備考
第四項	旅費							1980			
第五項	雜給							100			
第六項	應費							100			
第五款	商船學校費										
第一項	俸給及諸給							129			
歲出	臨時部										
內務省	所管										
第五款	府縣										
第四項	衆議院議員總選舉取締費							7670			
第六款	橫濱築港費										
第三項	應費							1000			
第九款	河川調査費										
第二項	旅費							3210			
農商務省	所管										
第一款	山林原野調査費										
第一項	雜給							1350			
第三項	旅費							8000			
第四款	度量衡改正費										

貴族院決議

貴族院ハ明治二十六年度歳入歳出總決算中歳出經常部逓信省所管第三款逓信費第三項逓信事業費ノ支出ヲ爲スニ當リ競争入札執行上豫定價格ニ複制限ヲ設ケタル件ハ會計法規ノ精神ニ違背シタル不當ノ處置ナリトシ其他決算委員長ノ報告ハ總テ之ヲ可決スヘキモノト決議ス

項目	金額	備考
歳入		
歳出		
經常部		
逓信省		
第三款 逓信費		
第三項 逓信事業費		
支出		
競争入札執行上		
豫定價格ニ複制限ヲ設ケタル件		
會計法規ノ精神ニ違背シタル		
不當ノ處置ナリトシ		
其他決算委員長ノ報告ハ總テ之ヲ可決スヘキモノト決議ス		

明治二十七年度歳入歳出決算検査報告

明治二十七年度歳入歳出決算検査報告

目次

豫算及法律勅令違背ノ事項	一四五
一般會計	一四五
歳入經常部	一四五
歳入臨時部	一五一
歳出經常部	一五四
外務省所管	一五四
内務省所管	一五五
大藏省所管	一六一
海軍省所管	一六二
逓信省所管	一六三
歳出臨時部	一六三
内務省所管	一六三
大藏省所管	一六五
逓信省所管	一六六
特別會計	一七八
海軍省所管	一七八

横須賀鎮守府造船材料資金……………一七八

歳出……………一七八

遷信省所管……………一七九

官設鐵道用品資金……………一七九

歳出……………一七九

既往年度……………一八五

明治二十六年度……………一八五

貴族院決議……………一八六

目次

明治二十七年歳入歳出決算検査報告

明治二十七年歳入歳出決算検査報告

豫算及法律勅令違背ノ事項

明治二十七年歳入ノ賦課徴収歳出ノ使用ニ於テ豫算又ハ法律勅令ニ違背シタル事項左ノ如シ

一 歳入經常部

第一款 租 税

第一項 地 租

〔報告〕 (一) 本項決算額ノ外熊本縣ニ於テ地租ヲ賦課スヘキニ其處分ヲ行ハサリシモノアリ其反別四千貳百七拾參町貳畝貳拾五歩ニシテ未タ地價ヲ定メタルコトアラサルヲ以テ之ニ對スル地租額ヲ示スニ由ナシト雖モ蓋シ其額數萬圓ヲ下ラサルヘシ右ハ明治十年ヨリ十七箇年乃至三十箇年ノ免租ヲ許可シタル反別五千四百拾六町八反貳畝參歩ノ内ニシテ同二十六年ヲ以テ該年期明トナリ同二十七年以降當然賦租ヲ爲スヘキモノニ係レリ然ルニ縣知事ハ同二十六年ニ至リ人民ノ請願ニ依リ大藏大臣ノ指揮ヲ請ヒ免租年期訂正ト稱スル處分ヲ行ヒ十七箇年期ヲ四十七箇年期ト改メ其結果該地ノ地租ハ同二十七年以降尙三十箇年間免除セララル、コト、ナリタルモノナリ

抑本件ハ熊本縣肥後國玉名、飽田、宇土、下益城、八代、蘆北ノ六郡ニ涉ル民築海邊新地ナルモノニシテ該地ハ舊藩主細川家受封以來同家ノ支門或ハ家老職等ニ永世無稅ノ特許ヲ與ヘ以テ新地ノ築造ヲ獎勵シ築造主ハ自費ヲ投シテ海面ニ堤防ヲ築キ堤内ノ土地ヲ地先人民^{永小作人又ハ名}受入トモ稱スニ分配シ地先人民ハ地底錢ト唱ヘ素地代價ヲ築造主ニ交付シ自ラ開墾ノ工事ヲ爲シ成功ノ上地力ニ應シ作徳米ヲ築造主ニ交付シタリ斯ノ如キモノ數百年ニシテ明治初年ニ至ル此間該藩法ニ依リ成立シタル田畑宅地鹽田ノ四種合セテ五千四百拾六町八反貳畝參歩ノ多キヲ致セリ維新ノ後ニ及ヒ藩廳ハ築造主ヲシテ所得ノ參歩通ヲ上納セシメ以テ堤防及治水費ヲ藩庫ヨリ支辨シタリシモ置縣後ハ所得ノ貳歩通ニ改メ之ヲ國庫ニ納付シ堤防費ハ築

造主ヲシテ自辨セシメタリ尋テ地租改正ノ舉アルヤ築造主ト地先民トハ各々地主タルノ權利ヲ主張シ爲ニ一般改租事業ノ進捗ヲ妨害セリ是ニ於テ政府ハ明治十年ヨリ十七箇年乃至三十箇年ノ開墾嶽下年期ヲ付與シ以テ茲ニ一段落ヲ告ク是レ明治十三年ノ處分ナリトス

明治二十六年ニ至レハ總反別ノ多分即チ前記四千貳百七拾餘町歩ハ免租年期明トナルヲ以テ侯爵細川護久及同縣玉名外五郡舊八十三箇村人民總代上野直澄松岡長寛前田案山子等ヨリ年期延長ノ請願ヲ爲シタリ縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ申請セシニ許可ヲ得ス因テ侯爵細川護久及總代人ハ更ニ該地成立ノ沿革ヲ説キ政府ハ地主ノ所得額ヲ買收スルノ義務アルモノトシ買收請願ヲ提起セシト雖モ是レ亦許可ヲ得ルニ至ラス是ニ於テ縣知事ハ更ニ免租年期ノ訂正ヲ稟請セリ其要旨ハ該地地主所得額買收ノ義務證議難相成義ニモ候ハ、不得止次第ニ付更ニ地租條例第十六條第五項水面埋立ノ規定ヲ適用セラレ免租年期ハ四十七箇年ト訂正相成度斯ノ如クナルトキハ右年限内ヨリ既得ノ免租年數ヲ控除シ殘年數即チ十七箇年期ノモノニハ三十箇年二十箇年期ノモノニハ二十七箇年二十五箇年期ノモノニハ二十二箇年三十箇年期ノモノニハ十七箇年ノ免租年期ヲ與ヘ地主小作人間協議ヲ遂ケシメ以テ該地ノ處分ヲ了セントスト云フニ在リ大藏大臣ハ之ニ對シ開屆ケノ旨指令セリ是レ所謂免租年期訂正ノ處分ナリトス

以上ノ事實ナルヲ以テ初メ縣知事ニ對シ地租條例第十六條水面埋立ノ規定ヲ適用シタル理由ヲ審理セシニ該地ハ開築主ト名受人トノ間ニ於テ一物兩主ノ姿ヲ有シ其地主權確定セサルヲ以テ免租年期明ニ至リ實地相當ノ賦租ヲ爲サントセハ此一物兩主ノ姿ヲ除去セサルヘカラス之ヲ除去スルノ方法ハ其一方ヲ政府ニ於テ買收スルカ若クハ人民互相ノ間ニ於テ之ヲ買得セシメサルヘカラス而シテ之ヲ人民互相ノ買得ニ歸セシメントセハ須ク年期ヲ延長シテ其代價ノ幾分ヲ償却スルノ途ヲ與フルヲ至當トシ終ニ大藏大臣ノ指揮ヲ受ケテ年期ノ訂正ヲ爲セリト云ヘリ其理由トスル所徒ラニ年期明ニ際シ賦租處分ノ困難ヲ訴フルモノニシテ其實事毫モ地租條例第十六條ニ掲クル新開地保護ノ規定ト相關スル所ナキヲ以テ更ニ大藏大臣ニ向テ其理由ヲ質問シタルニ本件ノ土地ハ舊藩ニ於テ永世無稅ノ制度ヲ設ケ人民ヲシテ其資財ヲ抛テ築造セシメタルモ

ノニシテ築造主ニ於テハ此制度ヲ目的トシ資本ノ償却ヲ永世ニ期シ築造シタルモノニ係ル然ルニ制度ノ變遷ニ伴ヒ民有ノ土地ニシテ無期ニ地租ヲ免除スルカ如キ慣法ハ更正セサルヘカラサルヲ以テ曩ニ地租ヲ改正スルニ際シ從來ノ事情ヲ參酌シ或ル年限ヲ定メテ免租セシモ當時其證議ノ充分ナラスシテ他ノ海面ヲ埋立テ耕地ヲ開墾スルモノニ對シ付與スル所ノ年限ト平衡ヲ得サルノ處分ナルコトヲ認メタルニ付地租條例第十六條第五項ノ精神ニ依リ之カ年期ヲ訂正シタリト答辯セリ然レトモ本件ノ土地タル畢竟築造主ト小作人トノ間ニ所有權ヲ爭フモノニシテ之ヲ處スルニ免租年期ヲ以テスヘキモノニアラス又大藏大臣ハ永世無稅ノ制度ヲ目的トシテ築造シタルノ事情ヲ參酌シ免租年期ヲ與ヘタリト云フト雖モ從來無稅ノ土地ニ對シ地租改正ノ際新ニ地租ヲ賦課スルハ即チ地租改正條例ヲ執行スルモノニシテ固ヨリ當然ノ事タリ而シテ其例枚擧ニ違アラス況ヤ該地ノ如キハ明治四年六月ヨリ所得ノ内參歩通又ハ貳歩通官納セシメタルノ事實ニ視ルモ永世無稅ノ特典ハ此時ヨリ消滅シ爾來有租地トナリタルハ明白ニシテ之ニ十七箇年間ノ免租年期ヲ付與シタルハ當時ノ法規ニ照スモ既ニ合規ノ處分ナリト云フト得サレトモ是等當時ノ處分ノ當否如何ヲ問ハス現行地租條例ノ發布アリタル今日ニ在リテハ同條例第十九條及第十五條ノ規定スル所ニ依リ右免租年期ノ期明ニ迄テ當然賦租ノ處分ヲ爲スヘキモノナリ然ルニ政府ハ最初證議ノ充分ナラザリシテ理由トシテ免租年期ノ訂正處分ヲナセリ現行地租條例ニ依レハ一旦許可シタル年期ハ期明ニ至リ事業成功セサルモノニ繼年期ヲ許可スルコトヲ得ルノ規定ヲ存スル外年期ヲ訂正スルコトヲ得ルノ規定ナシ故ニ一旦許可シタル年期ハ法律違反ニアラサル限ハ確定不動ノモノトセサルヘカラス然ルニ政府カ右ノ如ク證議ノ充分ナラザリシテ理由トシテ遠ク數百年若クハ數十年來熟成セル田畑宅地鹽田ニ對シ更ニ年期ノ延長ヲ爲スハ是レ現行地租條例ノ許ス所ニアラサルナリ又政府ハ條例第十六條第五項ノ精神ニ依リタリト云フモ地租條例第十六條第五項水面埋立ノ土地ニ對スル規定ハ官有ノ水面ヲ埋立テ民有ニ歸シタルヨリ五十年以内ニ於テ新開地保護ノ精神ヲ以テ免租年期ヲ許可スルコトヲ定ムルモノニシテ本件ノ如キ數百年若クハ數十年以來熟成セル土地ニ對シ賦租處分ノ困難ヲ彌縫スルカ爲ニ免租年期ヲ許可スルノ精神ニハアラサルナリ之ヲ要スルニ本件ハ現行地租條例ノ許サ、ル年期訂正ヲ行ヒ而シテ條例第十五條及第十九

條ノ命スル賦租處分ヲ行ハサリシモノニシテ地租條例ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ新開地ニ對シ當初附與セシ歛下年期ハ適實ナラサルモノト認メ相當ノ訂正處分ヲナシタルモノナリ

【貴決】 別紙決議ノ通議決セリ(一八六頁參看) 【衆決】 地租條例違背

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日)

(太政官布告第七號)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條第五項 官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

第十九條 歛下年期明地價據置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ

難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

【報告】

(二) 同項ニ於テ徵收不足拾四錢六厘アリ右ハ長野縣ニ於テ明治十八年五月中畑ヲ郡村宅地ニ變換シ其届出ヲナサ、ルモノアリシニ明治二十七年十二月ニ至リ之カ處分ヲナシ其地價ヲ修正シタルモ同二十六年以前ノ分ハ原地目ノ地租ヲ徵收セシニ因ルモノナリ之ヲ縣知事ニ推問セシニ其答辯ノ要旨ハ無届變換ノ年期起算方ハ地租條例改正ノ年ヨリ進行シタルモノニシテ無届地目變換ニ對スル處理方ハ從來發見ノ年^{五箇年經}過ノ分ヨリ地價ヲ修正シ其年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收シ更ニ既往ニ遡リ地租追徵若クハ還付ノ手續ヲ爲サス是レ地租條例第十條第二項ハ正當届出タルモノニ適用スヘキモノニシテ無届地目變換ノ如キハ既往ニ遡リ追徵還付ノ明文ナキヲ以テナリト云フニ在リ然レトモ地租條例第十條第二項ニハ地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ストアリ即チ變換ノ年ノ六年目ヨリ修正地價ニ依リ徵收スルコトヲ定ムルモノニシテ其變換届出ノ有無ニ依リテ規定ヲ異ニスルコトナシ故ニ無届變換ノ如キハ既往ニ遡リ追徵還付ノ明文ナシト云フハ法文ノ誤解タルヲ免レス本件ハ變換ノ年ヨリ六年目即チ明治二十三年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノニシテ増租ニ係ルモノハ國稅徵收法ノ期滿免除トナリタル明治二十三年同二十四年ヲ除キ同二十五年ニ遡リ追徵セサルヘカラス然ルニ縣知事ニ於テ之カ追徵ヲナサ、リシハ地租條例第十條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項地目變換ノ土地ハ地目變換後六箇年以上ヲ經過シタルモノナレハ地租條例第十條第二項ノ六箇年目ニハ修正ノ地價ナク而シテ其變換ノ届出ヲ怠リタル者ニ對シテハ同條例第二十七條ニ依リ處罰スルノ外追徵ノ明文ナシ故ニ同條例第十四條ニ依リ地價修正ノ年ヨリ徵租スヘキモノニシテ條例違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 地租條例第十條違背

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日)

(太政官布告第七號)

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ツヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違反スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ料料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス

【報告】

(三) 同項ニ於テ徵收不足貳百八拾八圓四拾六錢アリ右ハ富山縣ニ於テ明治二十二年ヨリ市町村制ヲ實施スルニ當リ地方行政區域ノ變動ヲ來シタルニ縣知事ハ之ヲ郡村宅地ト市街宅地ト交互地目ノ變換シタルモノナリトナシ地租條例第十條第二項ヲ適用シテ地價修正ヲナシタルニ因ルモノナリ然レトモ市町村制ノ實施ニ付キ行政區域ノ變動アルモ地租條例ニ定ムル土地ノ區別ニ何等ノ關係ヲ及ホスヘキモノニアラス然ルニ該條項ヲ適用シテ地價ヲ修正シ其結果本項ノ徵收不足ヲ來シタルハ地租條例ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項ハ行政區域變更ノ際地目ノ變更ヲ必要ト認メ地租條例第三條ニ據リ郡村宅地ヲ市街宅地ニ又市街宅地ヲ郡村宅地ニ編入シ地價ヲ修正シタルノ結果ニシテ條例違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 適法ト認ム

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日)

(太政官布告第七號)

第三條第一項及第二項 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

明治二十七年 歳入 (三)

- 第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、墾田、鑛泉地
- 第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地
- 第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ
- 第十條第二項(一四九頁參看)

第二項 所得稅

【報告】 (四) 本項ニ於テ徵收不足四圓五拾錢アリ右ハ神奈川縣ニ於テ明治二十七年六月所得稅納人學家朝鮮國ニ轉居セシモノアリシニ縣知事ハ右納稅人同年七月以降ノ所得ハ全ク所得稅法施行地外ニ於テ收得シタルモノニシテ課稅範圍外ナルニヨリ所得額十分ノ五以上減損シタルモノトナシ同稅法第二十三條ニ據リ減額ノ處分ヲナシタルニ因ルモノナリ然レトモ所得稅法ニ依レハ所得高一箇年參百圓以上アル者ニハ其所得及居住地ノ内外國タルヲ問ハス之ニ課稅スヘキハ勿論ナリ因テ右朝鮮國居住中ノ所得金ハ所得額ノ減損トナスヘキ理由ナキニ該條ヲ適用シタルハ所得稅法ニ違背シタルモノトス右ハ追徵ノ上後年度ノ歳入ニ組入レタリ

【辨明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 所得稅法ノ適用ヲ誤リタル違法ノ處分

(參照) ○所得稅法(明治二十年三月二十三日)

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ但既納ノ稅金ハ之ヲ還付セス

第二款 免許及手数料 第一項 免許及手数料

【報告】 (五) 本項ニ於テ北海道小樽郡役所ノ收入ニ係ル訴訟用印紙代貳拾七圓九拾錢ハ明治二十八年年度ノ歳入トナスヘキモノナルニ之ヲ明治二十七年年度ノ歳入ニ編入セシハ年度ノ所屬ヲ誤リタルモノナルヲ以テ會計規則第一條ニ違背シタルモノトス

會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計規則第一條違背

(參照) ○會計規則(明治二十二年五月一日)

- 第一條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル
 - 第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度
 - 第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度
 - 第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度
- 第三款 官業及官有財産收入 第八項 官有物貸下料

【報告】 (六) 本項ニ於テ山形縣ノ收入ニ係ル拾五錢ハ荒蕪地壹畝貳拾參歩ヲ無年期貸下ノ契約ニ依リ徵收シタルモノナリ然ルニ官有財産管理規則第十五條ニ據レハ貸付ノ期限ナキモノハ此規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシトアルヲ以テ從前締結セル無年期貸下ノ契約ハ明治二十七年三月末日マテニ改約シ相當ノ期限ヲ付スヘキニ其手續ヲ履行セサリシハ官有財産管理規則第十五條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 官有財産管理規則第十五條違背

(參照) ○官有財産管理規則(明治二十三年十一月二十五日)

第十五條第二項 貸付ノ期限ナキモノハ此ノ規則施行ノ日ヨリ三箇年以内ニ於テ此ノ規則ニ依リ更ニ契約ヲ爲スヘシ

歳入臨時部

- 第二款 官有物拂下代 第三項 建物拂下代

【報告】 (七) 本項ニ於テ北海道函館區役所ノ拂下ニ係ル同所構内厩二棟馬車置場一棟附屬厠一棟ニ對スル代金四百八拾五圓拾錢ハ競争入札ニ付シタル結果六百五拾八圓ニテ落札セシモ落札人ハ見込違ノ廉アリトノ理由ヲ以テ取消ヲ申出テ該契約ヲ締結セサリシ爲メ函館區長ハ直ニ二番札ナル入札人ト隨意契約ヲナシタルモノナリ然ルニ落札者ニシテ契約ヲ結ハサルトキ

明治二十七年 歳入 (六)(七)

明治二十七年年度 歳入 (七)

【備考】

ハ更ニ競争入札ニ付スヘキモノナルヲ以テ之ヲ履行セザリシハ會計規則第七十九條ニ違背シタルモノトス

會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計規則第七十九條違背

(参照) ○會計規則(明治二十二年五月一日)

第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

右ノ外年度違科目違徴收不足及徴收過ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサルモノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	項目	年度違	科目違	徴收不足	徴收過	備考
歳入	經常部	円	円	円	円	
第一款	租					
第一項	地	三三三三七		二六〇三四	三八七六〇二	徴收不足ノ内參厘ハ追徴未了 徴收過ノ内貳百參拾四圓四拾四錢五厘ハ下戻未了
第二項	所得	一九一九〇七		五二一六五	一一〇七四〇	徴收不足ノ内壹圓拾壹錢ハ追徴未了 徴收過ノ内參拾貳圓四拾五錢貳厘ハ下戻未了
第三項	酒	三五二三五		二二九八七四	四〇三〇九七	徴收不足ノ内六厘ハ追徴未了 徴收過ノ内六圓五拾九錢七厘ハ下戻未了
第六項	煙	七五〇〇			二五〇〇	
第七項	證券印	一〇〇			五〇三二九	

第八項	醬	油	稅	五〇〇五			六六三二	徴收過ノ内參拾四錢壹厘ハ下戻未了
第九項	菓子	稅	一〇卅四			一〇〇〇	二二二五二	徴收過ノ内拾壹圓七厘ハ下戻未了
第十三項	取引	所稅					四二二	徴收過ノ内參拾九錢貳厘ハ下戻未了
第十五項	賣	藥	稅	二八〇〇〇		六〇〇〇	三六〇〇〇	徴收過ノ内拾參圓ハ下戻未了
第十六項	船	稅	二四二〇四五		六四九〇		一一五二二四	徴收過ノ内參拾壹圓八拾壹錢九厘ハ下戻未了
第十七項	車	稅	二六二五〇		六〇〇〇		六七二五〇	徴收過ノ内參拾貳圓七拾五錢ハ下戻未了
第十八項	鑛	業	稅	二六二六六九		五一六九一	二〇八〇〇三	徴收過ノ内拾七圓五拾七錢五厘ハ下戻未了
第二十項	牛馬賣買	免許稅	二五〇〇〇		五〇〇〇		一〇〇〇	徴收過ノ内五拾錢ハ下戻未了
第二十二項	海	關稅			一三三二二八		八一〇一六五	
第二款	免許及手數料							
第一款	免許及手數料						四二〇〇	
第三款	官業及官有財産收入							
第二款	稅關雜收入						一三三二二八	徴收過ノ内八拾八圓ハ下戻未了
第四項	森林	收入			四〇〇六			徴收不足四圓六厘ハ追徴未了
第五項	郵便電信	收入			三二一三六四		七五七二〇	徴收過ノ内六拾圓九拾九錢ハ下戻未了
第八項	官有物貸	下料			二六〇〇四		六六八	徴收不足ノ内拾八圓參拾六錢參厘ハ追徴未了
第四款	雜	收入						
第一項	懲罰及沒收	金	一五〇〇〇					

明治二十七年年度

款	項	年度	違	科目	違	徴收不足	徴收過	備考
第二項	辨 償 金		円		円	円	円	徴收過七圓貳拾錢ハ下戻未了
第三項	雜 入		五三三五七			一〇三三五	六五四二	徴收不足ノ内五圓七拾四錢ハ追徴未了 徴收過ノ内五圓貳厘ハ下戻未了
第四項	官吏遺族扶助法納金					一五三三	二一四三	徴收不足ノ内壹錢四厘ハ追徴未了 徴收過ノ内八拾八錢壹厘ハ下戻未了
第五項	學校長正教員退職及遺族扶助法納金					四三二	四〇四〇	徴收不足ノ内四拾貳錢ハ追徴未了 徴收過ノ内五錢四厘ハ下戻未了
歲入	臨時部							
第二款	官有物拂下代							
第二項	地所拂下代					七九九九	二八九五	徴收不足ノ内貳圓貳拾八錢貳厘ハ追徴未了
第七款	製鐵費補足金							
第二項	納 付 金					二二九六九六	六九三四四	徴收不足ノ内九拾壹錢ハ追徴未了 徴收過ノ内拾圓六拾六錢壹厘ハ下戻未了

歳出經常部
外務省所管

第二款 在外公館 第八項 廟費

【報告】(八) 本項ニ於テ在露國聖彼得堡公使館ノ支出ニ係ル書棚錠前貳箇調製代五圓ハ公使館領事館費用條例第二十九條ニ據リ

公使館渡切經費ニ屬スヘキモノナリ然ルニ之ヲ普通經費ヨリ支出セシハ本項豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス右ハ追徴ノ上後年度ノ歳入ニ組入レタリ

【報告】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 異議ナシ

○公使館領事館費用條例(明治二十六年十月三十一日) 第二十九條 公使館及領事館經費ハ實費精算ヲ要スルモノト精算ヲ爲サス渡切ルモノトノ二種ニ區分ス其ノ區分ハ外務大臣大藏大臣ト協議シ之ヲ定ム

渡切經費ハ各科目定額ヲ四分シ毎三箇月之ヲ各館長ニ交付ス
渡切經費ハ本邦ヲ發送シタル後館長ノ更迭歸朝等ニ依リ受領者ノ氏名ニ異動アルトキハ現ニ館長若クハ其ノ代理者ノ職ニ在ル者之ヲ受領スヘシ

○會計法(明治二十二年二月十二日) 第十二條第一項 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

内務省所管

第八款 北海道本廳 第一項 傳給及諸給

【報告】(九) 本項ニ於テ釧路外十二郡役所ノ支出ニ係ル同郡役所日給雇給料ノ内壹圓七拾五錢ハ過誤拂ニ屬スルヲ以テ追徴ノ上之ヲ定額ニ戻入シタルモノナリ右ハ會計法第二十三條ニ據リ當該年度ノ歳入ニ組入ルヘキモノナルニ之ヲ定額ニ戻入セシハ同條ニ違背シタルモノトス

【報告】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 異議ナシ

○會計法(明治二十二年二月十二日) 第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル歳入及其ノ他一切豫算外ノ歳入ハ總テ現年度ノ歳

明治二十七年 内務省 (九)

入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルコトヲ得

第三項 營繕土木費

【報告】 (一〇) 本項ニ於テ小樽外六郡役所ノ支出ニ係ル八百拾四圓ハ小樽郡港町有幌町間海面埋立地東端有幌町ヨリ海岸ヘノ通路新設ノ爲メ買上ケタル敷地代ナリ右ハ既成道路中ニ介在セル一部ノ改修即チ屈曲ノ箇所ヲ直線ニスルモノナリトノ理由ヲ以テ其費用ヲ本項ヨリ支出シタルモノナリト雖モ其實埋立地ニ於ケル既成道路ト有幌町トノ間ニ長二十間ノ新道路ヲ開設スル爲メ民有地ヲ買上ケタルモノニシテ迂曲ノ舊路ヲ改修シタルモノニアラス然ルニ本費豫算ハ道路橋梁等ノ修繕ニ充テタルモノナルカ故ニ之カ費用ヲ本項ヨリ支出セシハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審明】 本項ハ既成道路修繕ニ附帯シテ施行スル工事ハ總テ本費ヨリ支出スルノ組織ナルヲ以テ會計法違背ニアラス
【貴決】 異議ナシ
【衆決】 會計法第十二條違背

【報告】 (一一) 同項ニ於テ函館區役所ノ支出ニ係ル百參拾四圓參拾錢ハ函館區實町東川町間ニ介在セル土地ヲ開墾シテ新道ヲ開設シタル費額ナリ右ハ前項ト同一ノ理由ヲ以テ之ヲ本項ヨリ支出シタルモノナリト雖モ本工事ハ東川町ト實町トノ間ニ新道ヲ開通シタルモノニシテ該敷地ハ在來ノ墓所ヲ他ニ移轉セシ跡地ニ屬シ從來全ク道路ナキ箇所ニ係ルヲ以テ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審明】 本項ハ既成道路修繕ニ附帯シテ施行スル工事ハ總テ本費ヨリ支出スルノ組織ナルヲ以テ會計法違背ニアラス
【貴決】 異議ナシ
【衆決】 適法ト認ム

【報告】 (一二) 同項ニ於テ釧路外十二郡役所ノ支出ニ係ル郡役所屋根葺替工事費百九圓五拾八錢厚岸郡神町巡查駐在所家根葺替工事費參拾四圓拾五錢五厘及釧路郡幣舞町道路修繕工事費百貳拾八圓八拾錢同郡眞砂町ヨリ浦見町ニ至ル道路開墾工事費

【審明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス
【貴決】 政府ノ辯明ハ適當ヲ缺ク
【衆決】 會計法第二十一條違背

【報告】 (一三) 本項ニ於テ北海道廳ノ支出ニ係ル江差瀬棚間道路開墾工事費五千七百五拾四圓四拾七錢九厘ノ内貳千七拾貳圓四拾七錢九厘久遠太田間道路開墾工事費貳千百參拾參圓八拾五錢四厘苦前宗谷間橋梁架設工事費四千貳百參拾七圓ノ内貳千八百八拾貳圓合計七千八百八拾八圓參拾參錢參厘ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ落成シタルニ本年
【審明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス
【貴決】 政府ノ辯明ハ適當ヲ缺ク
【衆決】 會計法第二十一條違背

【報告】 (一四) 同項ニ於テ北海道廳ノ支出ニ係ル上川郡鷹栖村石狩川架橋工事費總額參千六百五拾圓ノ内千六百六拾八圓ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ翌年度ニ延期シ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條
【審明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス
【貴決】 政府ノ辯明ハ適當ヲ缺ク
【衆決】 會計法第二十一條違背

第十項 北海道事業費

【報告】 (一五) 同項ニ於テ北海道廳ノ支出ニ係ル上川郡鷹栖村石狩川架橋工事費總額參千六百五拾圓ノ内千六百六拾八圓ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ翌年度ニ延期シ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條
【審明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス
【貴決】 政府ノ辯明ハ適當ヲ缺ク
【衆決】 會計法第二十一條違背

【報告】 (一六) 同項ニ於テ北海道廳ノ支出ニ係ル上川郡鷹栖村石狩川架橋工事費總額參千六百五拾圓ノ内千六百六拾八圓ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ翌年度ニ延期シ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條
【審明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス
【貴決】 政府ノ辯明ハ適當ヲ缺ク
【衆決】 會計法第二十一條違背

【報告】 三十一條ニ違背シタルモノトス
本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ辨明ハ穩當ヲ缺ク
【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一五七頁參看)

【報告】 (一五) 同項ニ於テ小樽外六郡役所ノ支出ニ係ル高島郡稻穂町火防線道路開鑿工事費千八百五拾圓及同上道路砂利敷工事費六百四拾八圓九拾錢合計貳千四百九拾八圓九拾錢ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ落成シタルニ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ辨明ハ穩當ヲ缺ク
【衆決】 會計法第二十一條違背
(參照) ○會計法第二十一條(一五七頁參看)

第十款 北海道集治監 第二項 囚徒費

【報告】 (一六) 本項ニ於テ北海道集治監空知分監ノ支出ニ係ル三河木綿五千反買上代千五百參拾五圓ハ初度ノ競争入札ニ付シタル際豫定價格ニ違セザリシヲ以テ明治二十七年四月十五日更ニ再度入札ノ廣告ヲ爲シ九日間ヲ經テ同月二十三日ニ開札シ其落札者ヲ定メタルモノナリ本件ハ初度ノ入札ニ於テ落札者ノ定リタルモノニアラサルヲ以テ一旦落札者ノ確定シタル後契約ノ成立セサル場合ト異ナリ會計規則第七十九條ヲ適用スヘキ限ニアラス然ルニ第二回ノ競争入札ニ付スルニ當リ其廣告期間ヲ短縮シタルハ同規則第七十三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 會計検査院検査報告ノ通
【衆決】 會計規則第七十三條違背
【貴決】 異議ナシ

(參照) ○會計規則(明治二十二年五月一日)

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣告トスヘシ
第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

第三項 修繕費

【報告】 (一七) 本項ニ於テ北海道集治監ノ支出ニ係ル參拾七圓四錢五厘ハ囚徒教誨所建設費ノ内ニ充テタル費用ナリ然ルニ該工事タル實地臨檢スル所ニ依レハ其實新築ニシテ修繕ニアラス故ニ之カ費用ヲ本項ヨリ支出セシハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 會計検査院検査報告ノ通
【衆決】 會計法第十二條違背
【貴決】 異議ナシ
(參照) ○會計法第十二條第一項(一五五頁參看)

第六項 廳費

【報告】 (一八) 本項ニ於テ北海道集治監空知分監ノ支出ニ係ル毛織子外五品買上代千七百七拾六圓六拾五錢ハ初度ノ競争入札ニ付シタル際豫定價格ニ違セザリシヲ以テ明治二十七年四月十一日更ニ再度入札ノ廣告ヲ爲シ八日間ヲ經テ同月十八日ニ開札シ其落札者ヲ定メタルモノニシテ其廣告期間ヲ短縮シタルモノナリ右ハ本款第二項囚徒費(九)ト同一ノ事由ニヨリ會計規則第七十三條ニ違背シタルモノトス(一五八頁(一六)參看)

【辨明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

(參照) ○會計規則第七十三條

【衆決】 會計規則第七十三條違背

【報告】 (一九) 同項ニ於テ北海道集治監網走分監ノ支出ニ係ル千住製羅紗服地外二十一點買上代千八百七拾五圓八拾壹錢六厘ハ當初ノ契約ヲ破却シ更ニ明治二十七年七月三日再度入札ノ廣告ヲ爲シ八日間ヲ經テ同月十日ニ開札シ其落札者ヲ定メタルモノニシテ其廣告期間ヲ短縮シタルモノナリ本件ハ當初ノ契約一旦成立シタル後之ヲ破却シタルモノニシテ落札者ノ契約ヲ締結セサル場合ト異ナルヲ以テ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計規則第七十三條ニ違背シタルモノトス

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

(参照) ○會計規則第七十三條(一五九頁參看)

第十一款 府 縣 第十四項 營繕土木費

【報告】 (二〇) 本項ニ於テ鳥取縣ノ支出ニ係ル八圓貳拾壹錢五厘ハ隨意契約ニ依リ請負ニ付シタル官舎修繕費ニシテ該工事ハ明治二十八年三月三十日著手同年四月十日竣功ノ契約ヲナシタルモノナリ右ハ會計規則第二條第四項ニ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度トアルニ依リタルモノナリト云フト雖モ該條項ハ契約締結ノ標準ヲ示シタルモノニアラス契約ノ締結ハ必ス豫算ノ性質及會計法第三條ノ規定ニ從ハサルヘカラス然ルニ本工事ハ二十七年年度ノ豫算定額ヲ以テ二十八年年度ニ於テ竣功スヘキ契約ヲ爲シ之カ經費ヲ本年度ヨリ支出シタルモノナルヲ以テ會計法第三條ニ違背シタルモノトス

【審明】 本項ハ其年度ニ屬スル經費ヲ其年度ノ定額ヨリ支出シタルニ外ナラサレハ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ辯明ハ穩當ヲ缺ク

【衆決】 會計法第三條違背

(参照) ○會計規則(明治二十二年五月一日)

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第四 應中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ渉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

○會計法(明治二十二年二月十一日)

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

大藏省所管

第十二款 内國稅徵收費 第六項 印紙鑑札類諸費

【報告】 (二二) 本項ニ於テ高知縣ノ支出ニ係ル自家用料酒鑑札代百貳拾四圓九拾九錢ノ内五拾九圓九拾九錢五厘ニ對スル鑑札四千六百十五枚ハ明治二十八年三月二十日完納ノ契約ナリシニ同年五月六日ニ納付シ又六拾四圓九拾九錢五厘ニ對スル鑑札四千參百參拾參枚ハ同年三月三十一日限り完納ノ契約ナリシニ同年六月十七日ニ至リ納付セシモノナリ右ハ孰モ雨天等ノ爲メ料紙製造ニ意外ノ日子ヲ要シタルニ由ルト云フト雖モ抑豫算ノ成立ハ一週年度ヲ以テ期間トシ會計法第三條ハ之カ支出ノ制限ヲ定メタルモノナリ故ニ本年度中納付セサルモノニ向テハ本年度ノ經費トシテ仕拂フナスコトヲ得ス然ルニ本事實ハ翌年度ニ於テ納付シタル物品ノ代價ヲ本年度ヨリ支出シタルモノナルヲ以テ會計法第三條ニ違背シタルモノトス

【審明】 本項ハ其年度ニ屬スル經費ヲ其年度ノ定額ヨリ支出シタルニ外ナラサレハ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ辯明ハ穩當ヲ缺ク

【衆決】 會計法第三條違背

(参照) ○會計法第三條(一六〇頁參看)

第九項 雜費

【報告】 (二三) 本項ニ於テ富山縣ノ支出ニ係ル書單筒六十五箇新調代百五拾九圓六拾錢ハ明治二十八年五月三十日現品納入ノ約束ニテ本年度末ニ於テ其契約ヲ締結シタルモノナルヲ以テ之ヲ審理セシニ諸臺帳等緊要ノ書類ヲ藏置スルノ必要アリシモ年度ノ初ニ在リテハ豫算ニ不足ヲ生センコトヲ恐レ購入ノ見込立タサリシニ他ノ物品購入ノ員數ヲ節シタル結果豫算支出ノ見込確立スルニ至リタルヲ以テ購入ノ契約ヲ爲シタル旨答辯セリ然レトモ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第三條ニ違背シタルモノトス

【審明】 本項ハ其年度ニ屬スル經費ヲ其年度ノ定額ヨリ支出シタルニ外ナラサレハ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ辯明ハ穩當ヲ缺ク

【衆決】 會計法第三條違背

(参照) ○會計法第三條(一六〇頁參看)

【報告】

(二三) 同項ニ於テ富山縣ノ支出ニ係ル收稅部年報及收稅署事務取扱手續附錄印刷代參拾八圓ハ明治二十八年六月現品納入ノ約束ニテ本年度末ニ於テ其契約ヲ締結シタルモノナルヲ以テ之ヲ審理セシニ年度ノ初ニ於テ印刷ノ計畫ヲナシタルモ原稿調製ニ多クノ時日ヲ費シ年度末ニ際シ全ク脱稿ヲ告ケタルヲ以テ止ラ得ス年度經過後納入ノ契約ヲ爲シ印刷シタル旨答辯セリ然レトモ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第三條ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項ハ其年度ニ屬スル經費ヲ其年度ノ定額ヨリ支出シタルニ外ナラサレハ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ辯明ハ穩當ヲ缺ク 【衆決】 適法ト認ム

(參照) ○會計法第三條(一六〇頁參看)

【報告】

(二四) 同項ニ於テ德島縣ノ支出ニ係ル地圖謄寫及訂正ノ筆料貳百四拾九圓參拾七錢貳厘ハ契約上ニ於テ該物件ノ調製納付期限ヲ明治二十八年五月三十一日トセシノミナラス實際同年六月二十五日マテニ完納シタルモノナルヲ以テ之ヲ審理セシニ本件地圖謄寫及訂正ノ請負ハ同年三月二十九日ノ契約ナルニ由リ會計規則第二條第四項ニ據リ本年度ノ所屬トシテ其料金ヲ仕拂ヒタル旨答辯セリ然レトモ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第三條ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項ハ其年度ニ屬スル經費ヲ其年度ノ定額ヨリ支出シタルニ外ナラサレハ會計法違背ニアラス

【貴決】 政府ノ辯明ハ穩當ヲ缺ク 【衆決】 會計法第三條違背

(參照) ○會計規則第二條及會計法第三條(一六〇頁參看)

海軍省所管

第二款 軍事費 第四項 被服費

【報告】

(二五) 本項ニ於テ海軍中央司計部ノ支出ニ係ル拾錢ハ四等信號兵被服修補費ヲ重複支給セシモノニシテ追徴ノ上之ヲ定額ニ戻入シタルモノナリ右ハ歳出經常部內務省所管第八款北海道本廳第一項俸給及諸給(二)ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十三條ニ違背シタルモノトス

【審明】

會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第二十三條(一五五頁參看)

第十二項 扶助金

【報告】

(二六) 本項ニ於テ海軍中央司計部ノ支出ニ係ル八拾壹錢ハ四等信號兵家族扶助金ヲ重複支給セシモノニシテ追徴ノ上定額ニ戻入シタルモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十三條ニ違背シタルモノトス

【審明】

會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第二十三條(一五五頁參看)

通信省所管

第三款 通信費 第三項 通信事業費

【報告】

(二七) 本項ニ於テ熊本郵便電信局ノ支出ニ係ル電信線路保守雇人足賃百貳拾圓ハ郵便電信書記楠木村祥一郎カ提出シタル詐偽ノ請求書ニ對シ虛構ノ人ニ仕拂ヒタルモノニシテ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項ハ詐偽ノ請求ニ心付シテ仕拂ヲ爲シタルハ取扱者ノ不注意ニ出テタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第十二條第一項(一五五頁參看)

内務省所管

第一款 補助費 第七項 北海道炭礦鐵道會社補助

【報告】

(二八) 本項ニ於テ營業利益不足補給中貳拾四萬參百拾四圓六拾錢壹厘ハ新設鐵道部明治二十六年四月ヨリ同二十七年三月ニ至ル資本額五百萬圓ニ對スル年五朱ノ利子貳拾四萬七千貳百八圓參拾參錢參厘ニ對シ該年度中營業收支差引利益金六

千八百九拾參圓七拾參錢貳厘ヲ控除シタル不足補給額ナリ然ルニ該會社へ選信省ヨリ下付セシ公衆電報取扱手数料ノ内百四拾參圓五拾壹錢八厘ハ新設鐵道部ニ屬スルモノナルヲ既設鐵道部ノ收入ニ加算シタルヲ以テ新設鐵道部ノ營業利益金ヲ減殺シ其結果補給額ノ内百四拾參圓五拾壹錢八厘ハ同會社利益年五朱ニ達セサルモノヲ補給スルカ爲ニ設ケタル本項豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審議】 本項ハ一時計算ノ錯誤ニ基因シ過渡トナリタルモノナルヲ以テ該過渡金ハ明治二十七年十二月中返納セシメ其處分ヲ了シタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第十二條第一項(一五五頁參看)

【貴決】 會計法第十二條違背

第八款 警備費 第一項 新警備費

【報告】 (二九) 本項ニ於テ北海道廳ノ支出ニ係ル札幌尋常中學校附屬外濠非常口門二箇所新設工事費四百九拾四圓ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ落成シタルニ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ歳出經常部内務省所管第八款北海道本廳第三項警備土木費(五)ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス(二五六頁(二)參看)

【審議】 歳出經常部内務省所管第八款第三項警備土木費(五)ノ辯明ノ理由ニ同シ(二五七頁(二)參看)

【貴決】 政府ノ辯明ハ穩當ヲ缺ク

【貴決】 會計法第二十一條(一五七頁參看)

(參照) ○會計法第二十一條(一五七頁參看)

第四項 修繕費

【報告】 (三〇) 本項ニ於テ北海道集治監ノ支出ニ係ル官舎修繕費五百參拾六圓拾六錢壹厘ハ在來ノ官舎二棟及收穫小屋一棟ヲ以テ更ニ六棟ノ官舎ニ改修シタル費用ナリト云フト雖モ本工事ハ實地臨檢スル所ニ依レハ其實新築ニシテ改修ニアラス故ニ之カ費用ヲ本項ヨリ支出セシハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審議】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 會計法第十二條違背

(參照) ○會計法第十二條第一項(一五五頁參看)

第五項 風水害修繕費

【報告】 (三一) 本項ニ於テ北海道根室外九郡役所ノ支出ニ係ル根室港内沿岸道路石垣修築費總額壹萬九拾七圓ノ内七千六百九拾七圓ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ落成シタルニ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ本款第一項新警備費(二二)ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス(二六四頁(二)參看)

【審議】 歳出經常部内務省所管第八款第三項警備土木費(五)ノ辯明ノ理由ニ同シ(二五七頁(二)參看)

【貴決】 政府ノ辯明ハ穩當ヲ缺ク

【貴決】 會計法第二十一條(一五七頁參看)

大藏省所管

第一款 補助費 第一項 日本鐵道會社利益補助

【報告】 (三二) 本項決算額ノ内千七百五拾六圓參錢貳厘ハ明治二十七年八月二十五日ノ水害ニ罹リタル豊澤川橋及本郷川橋修繕費ニシテ興業費ノ支辨ニ屬スヘキモノナルヲ該會社第四區營業費ノ支辨トナシアルヲ以テ之ヲ審理セシニ明治二十七年八月出水ノ爲メ橋脚ノ粗朶並張石等流失シタルニ由リ舊形ニ復スル爲メ施シタル修繕費ナルカ故ニ之ヲ營業費ノ支辨トナシタリト云ヘリ然レトモ當時ノ同會社會計規則第八條第二項ニ據レハ非常ノ天災時變ニ罹リ鐵道財產ニ大破損ヲ生シ若クハ亡失シタルモノヲ改築改造及修繕スル爲メ支出スル所ノ金額ハ總テ興業費タルヘシトアルヲ以テ尙大藏大臣ニ質問シタルニ右ハ橋脚ノ粗朶並張石等ノ破損ヲ修繕シタルモノニ付營業費支辨ト爲シタルハ即チ同規則第八條第一項修繕費ニ該當スト答辯セリ然レトモ該條項ノ修繕費ハ通常維持保存ノ修繕費ヲ指スモノニシテ本件ノ如キ水害即チ天災ニ因リ亡失シタルモノヲ復舊スル工費ハ同條第二項ヲ適用スヘキハ明瞭ナリ故ニ前記ノ金額ハ同會社ノ利益年八分ニ達セサルモノヲ補給スヘキ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ當時ノ水害ニ因リ鐵道財産ノ受ケタル損害ノ大ナラサリシヲ以テ同會社會計規則第八條第二項ヲ適用スヘキモノニアラス故ニ豫算ノ目的外ニ使用シタルモノニアラス

【貴決】 政府ノ辨明ハ穩當ヲ缺ク 【衆決】 會計法第十二條違背

(參照) ○會計法第十二條第一項(一五五頁參看)

逓信省所管

第二款 營業費 第一項 新設費

【報告】 (三三三) 本項ニ於テ熊本郵便電信局ノ支出ニ係ル各所電信線新設雇人足賃拾貳圓ハ歳出經常部逓信省所管第三款逓信費第

三項逓信事業費(二十)ト同一ノ事由ニヨリ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス(二六三頁(二七)參看)

【辨明】 歳出經常部逓信省所管第三款逓信費第三項逓信事業費(二十)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 會計法第十二條違背

(參照) ○會計法第十二條第一項(一五五頁參看)

第六款 朝鮮事件費 第一項 朝鮮事件費

【報告】 (三四) 本項ニ於テ熊本郵便電信局ノ支出ニ係ル電信線架設雇人足賃拾五圓ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第十二條ニ

違背シタルモノトス

【辨明】 歳出經常部逓信省所管第三款逓信費第三項逓信事業費(二十)ノ辨明ノ理由ニ同シ

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 會計法第十二條違背

(參照) ○會計法第十二條第一項(一五五頁參看)

右ノ外年度違科目違過誤拂及拂不足ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ了セサルモノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	項	年度	違科目	違過誤	拂不足	備考
		円	円	円	円	
歳出經常部						
外務省所管						
第一款 外務本省						
第一款 俸給及諸給						
第二款 在外公館						
第一款 俸給及諸給						
第四項 朝鮮國居留地取締費				九四七七五	九四〇八	
第六項 旅費		五〇〇〇〇		三六〇〇		
第八項 應費				一一〇〇		
内務省所管						
第二款 内務本省						
第四項 旅費						
第五項 雜給				三七九八		
第四款 土木監督區署						
第三項 旅費		七六〇		二〇二八三	八七五七	
第五項 應費				七三〇		
第三二六〇						

款	項	年度	違科	目違	過誤	拂	拂不足	備考
第五款集	治監	円	円	円	円	円	円	
第三項囚徒費					八四五六			
第四項在府縣獄囚徒費					六三五四三		一三四二七	
第五項旅費					九五〇			
第六款警視廳								
第一項俸給及諸給					八二三四		三七四一	
第七項廳費					〇七〇			
第八款北海道本廳								
第一項俸給及諸給					九三八五			
第二項徵兵費					九二四〇			
第五項恩賞及救助費					五四〇			
第六項旅費					三七三二〇			
第七項雜給					四五八五〇			
第八項廳費					一一九五〇			
第十項北海道事業費					一五四一九			
第十一項衛生費					一七三五			
第十三項救助費					六〇〇			

過誤拂ノ内壹圓四錢八追
 徵未了
 過誤拂ノ内拾參圓拾錢八
 追徵未了

款	項	年度	違科	目違	過誤	拂	拂不足	備考
第十四項勸業費								
第十五項獄署諸費					一一五二			
第十六項在監人諸費					二二四〇〇			
第十七項補助費					一〇〇			
第九款札幌農學校費								
第一項俸給及諸給					〇〇六			
第三項旅費					一四七〇			
第五項廳費					二八〇			
第六項學生費					八二六			
第十款北海道集治監								
第一項俸給及諸給					四七九一		六七七四	
第二項囚徒費					四五三			
第四項旅費					一一一〇			
第五項雜給					二八九四七			
第六項廳費					二一六〇			
第十一款府縣								
第一項俸給及諸給					八七六六三			
第二項徵兵費					一四四〇七			

過誤拂ノ内拾貳錢參厘
 八追徵未了

款	項	年度	遠	科目	遠	過誤	拂	拂	不足	備考
第三項	旅費	1円								
第二款	裁判所									
第一項	俸給及諸給		1629				2438		1829	
第二項	修繕費						33			
第三項	裁判費		29850				69795		360	過誤拂ノ内四圓五拾錢ハ追拂未了
第四項	旅費		7880				72410		5870	
第五項	雜給						9417			
第六項	應費		6663		2100		8727			
農商務省所管										
第一款	農商務本省									
第六項	廳費						3000			
第二款	林區署費									
第一項	俸給及諸給					2629			613	
第二項	修繕費				950					
第三項	旅費					1560			60	過誤拂ノ内壹圓貳拾五錢ハ追拂未了
第四項	雜給					407				
第五項	廳費			693			470		000	

款	項	年度	遠	科目	遠	過誤	拂	拂	不足	備考
第三款	鑛山監督署費									
第一項	俸給及諸給						1071		231	
第三項	旅費					1900			200	
第五項	廳費					150				
第二款	水産調査所費									
第二項	雜給					310				
逓信省所管										
第一款	逓信本省									
第一項	俸給及諸給					161				
第三項	旅費					950				
第三款	逓信費									
第一項	俸給及諸給					331			900	過誤拂ノ内參錢參厘ハ追拂未了 拂不足ノ内八錢ハ追給未了
第二項	修繕費					18710				
第三項	逓信事業費			2610		1004			2393	過誤拂ノ内壹錢六厘ハ追拂未了
第四項	旅費					2350				
第五項	雜給					6690				
第六項	廳費					2225				

款	項	年度	達	科目	達	過誤	拂	不足	備考
		円		円		円		円	
第四款	航路標識費								
	第一項 俸給及諸給					13000			
	第四項 旅費					300		400	
	第五項 雜給					6476			
	歲出臨時部								
	外務省所管								
第三款	朝鮮事件費								
	第一項 朝鮮事件費					14010			
	內務省所管								
	第四款 河身修築費								
	第九項 木曾川修築費					26403			
	第八款 營繕費								
	第二項 十勝分監新營費					700			
	第九款 河川調査費								
	第二項 旅費					9609		490	
	第四項 測量及試驗費					1150			
第十四款	衆議院議員總選舉取 銷費								

款	項	年度	達	科目	達	過誤	拂	不足	備考
		円		円		円		円	
第二項	內國旅費					9750			
	第十五款 北海道事業費								
	第二項 全道測量費					1000			
	陸軍省所管								
	第五款 憲兵隊増設費								
	第一項 俸給及諸給					715			
	司法省所管								
	第一款 營繕費								
	第一項 新營費					425			
	文部省所管								
	第四款 實業教育獎勵費								
	第一項 實業教員養成費					1291			
	農商務省所管								
	第一款 山林原野調査費								
	第三項 旅費					37			
	遞信省所管					3280			
	第二款 營繕費								
	第一項 新營費					100		1400	

款	項	年度	違	科目	違	過	誤	拂	拂	不足	備	考
第六款	朝鮮事件費		円		円							
第一項	朝鮮事件費							1,000				

明治二十七年各特別會計歳出ノ使用ニ於テ豫算又ハ法律勅令ニ違背シタル事項左ノ如シ

特別會計

海軍省所管

横須賀鎮守府造船材料資金

歳出

第一款 横須賀鎮守府造船材料費 第一項 材料購買費

【報告】

(三五) 本項ニ於テ翌年度繰越額拾五萬貳千八百貳拾八圓八錢八厘ノ内貳萬貳千百拾參圓九拾六錢ハ特別會計計算書ニ於テ受ノ部ニ支出済未收物品ノ價格トシテ掲上シ之ニ對シテ拂ノ部ニ支出未済トシテ掲上シタルノ結果カ繰越ヲ爲シタルモノナリ元來本資金收支ノ取扱ハ鎮守府造船材料資金會計規則第四條ニ從ヒ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ラサルヘカラス而シテ該規則第三章第二十三條ニ據リ支出未済トシテ翌年度ニ繰越シ得ヘキモノハ既ニ物品ヲ收納シ之ニ對スル代價ヲ未タ仕拂ハサルモノ其他既ニ仕拂ノ期ニ達セシモ未タ仕拂ヲ爲サ、ルモノナラサルヘカラス然ルニ本件ハ二十七年ニ於テ物品ヲ納付セス隨テ未タ仕拂ノ期ニ達セサルモノヲ故ラニ支出未済ノ計算中ニ加ヘ豫算ノ繰越ヲ爲シタルモノナルヲ以テ作業及鐵道會計規則第二十三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項ハ支拂ヲ爲スヘキ義務ノ年度内ニ生シタルモノニシテ之カ繰越整理ヲ爲スハ作業及鐵道會計規則第二十三條ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 作業及鐵道會計規則第二十三條違背

(參照) ○鎮守府造船材料資金會計規則(明治二十三年三月二十日) 第四條 收入支出ノ取扱ハ作業及鐵道會計規則第三章ノ例ニ依ル
○作業及鐵道會計規則(明治二十三年三月二十日) 第二十三條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ仕拂請求書ヲ發セサルモノハ支出未済トシテ順次翌年度ヘ繰越シ當該年度經過後滿五箇年内ハ支出ノ請求アル毎ニ仕拂請求書ヲ發スヘシ但支出未済ノ繰越額ハ支出済額ト合シテ豫算定額ヲ超過スルヲ得ス

逓信省所管

官設鐵道用品資金

歳出

第一款 官設鐵道用品費 第一項 官設鐵道用品費

【報告】

(三六) 本項ニ於テ鐵道局ノ支出ニ係ル木炭十三萬買及買上代五千五百九拾圓袖時計六十箇買上代千貳拾圓和製「セメン」ト「三千樽買上代壹萬參拾五圓石炭二百五十二萬五千斤買上代壹萬貳千六百貳拾五圓同上三百七十三萬四千五百七十一斤買上代壹萬六千九百貳拾七圓七錢五厘及鐵道局計理課神戸出納事務所ノ仕拂ニ係ル石炭八百八萬斤買上代參萬九千貳拾六圓四拾錢規袖材尺ノ四百七十四本九分八厘買上代五千貳百五拾六圓貳拾錢六厘合計九萬四千七拾九圓六拾八錢壹厘ハ初度ノ競争入札ニ付シタル際皆豫定價格ニ達セサリシヲ以テ更ニ再度入札ノ廣告ヲナスニ當リ其期間ヲ短縮シテ八日乃至十二日間トナシ開札ノ上落札者ヲ定メタルモノナリ本件ハ初度ノ入札ニ於テ落札者ノ定リタルモノニアラサルヲ以テ一旦落札者ノ確定シタル後契約ノ成立セサル場合ト異ナリ會計規則第七十九條ヲ適用スヘキ限ニアラス然ルニ第二回ノ競争入札ニ付スルニ當リ其廣告期間ヲ短縮シタルハ同規則第七十三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

會計検査院検査報告ノ通

明治二十七年 官設鐵道用品資金 (三六)

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計規則第七十三條違背

【報告】

(參照) ○會計規則第七十三條及第七十九條(一五九頁參看)

(三七) 同項ニ於テ鐵道局ノ支出ニ係ル石炭七十萬七千五百斤買上代四千貳百四圓貳拾錢及鐵道局計理課神戸出納事務所ノ仕拂ニ係ル唐色糸屑一萬五千斤買上代七百五拾圓白糸屑一萬五千斤買上代千八百五拾圓合計六千八百四圓貳拾錢ハ初度ノ競争入札ニ付シタル際皆豫定價格ニ達セザリシヲ以テ更ニ再度入札ノ廣告ヲナスニ當リ其期間ヲ短縮シテ九月又ハ十月間トナシ開札セシニ再ヒ豫定價格ニ達セサルカ故ニ直チニ再度ノ入札ヲナサシメタルモ猶豫定價格ニ達セザリシヲ以テ隨意契約ヲ締結セシモノニシテ右第二回ノ競争入札ニ付スルニ當リ廣告期間ヲ短縮シタルハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計規則第七十三條ニ違背シタルモノトス

會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 適法ト認ム

(參照) ○會計規則第七十三條(一五九頁參看)

右ノ外過誤拂及拂不足ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサルモノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	項	過誤	拂不足	備考
大藏省所管	廣島鑛山	円	円	
歳出				
第一款	廣島鑛山作業費			
第四項	給與費	三二〇〇		

文部省所管	帝國大學			
歳出	經常部			
第一款	帝國大學			
第一項	俸給及諸給	二二五八		
文部省所管	女子高等師範學校			
歳出	經常部			
第一款	女子高等師範學校			
第四項	旅費	一七八〇		
第六項	學生費	七六七六		
文部省所管	第一高等學校			
歳出	經常部			
第一款	第一高等學校			
第四項	旅費	三〇八〇		
文部省所管	第二高等學校			
歳出	經常部			
第一款	第二高等學校			
第二項	旅費	二〇〇		
第四項	旅費	〇八〇		

款	項	過	拂	拂	不	足	備	考
文部省所管	第三高等學校		円					
歳出	經常部							
第一款	第三高等中學校							
第二款	應							
文部省所管	第四高等學校							
歳出	經常部							
第一款	第四高等中學校							
第一款	俸給及諸給		八六六七					
文部省所管	鹿兒島高等中學造士館							
歳出	經常部							
第一款	鹿兒島高等中學造士館							
第三款	修繕費		〇一〇					
文部省所管	東京工業學校							
歳出	經常部							
第一款	東京工業學校							
第二款	應		一〇〇					
第四項	旅費		二四〇					

通信省所管	官設鐵道							
歳出								
第一款	鐵道作業費							
第一款	俸給及諸給		四〇五〇					
第五項	事業費		一四五〇				九四〇	
大藏兩省所管	鐵道公債金							
歳出	通信省所管							
第一款	鐵道建設費							
第四項	應費		七二〇					

過渡拂ノ内貳拾八圓五拾錢ハ追徴未了

既
往
年
度

1811

1811

既往年度

目次

豫算及法律勅令違背ノ事項	一八五
明治二十六年度	一八五
一般會計	一八五
歲出臨時部	一八五
内務省所管	一八五

既往年度

豫算及法律勅令違背ノ事項

既往年度歳出ノ使用ニ於テ豫算又ハ法律勅令ニ違背シタルモノ左ノ如シ

明治二十六年年度

一	般會計	
二	歳出臨時部	
三	内務省所管	
四	第三款 土木費補助	
五	第七項 新潟縣道路修築費補助	

【報告】

(三八) 本項ニ於テ九千九百九拾五圓七拾八錢八厘ハ新潟縣道路修築工費ノ精算殘額ナルヲ以テ國庫ニ返納セシムヘキモノナルニ其返納ナキニヨリ之ヲ内務大臣ニ質問シタルニ同大臣ハ該道路ハ工費上多少不十分ナル箇所アリ追加工事ヲ施サシムヘキ筈ナルヲ以テ其竣功ノ上ハ工費ノ殘額ハ皆無ニ歸スルモ計リ難ク假令多少ノ殘金ヲ生スルコトアルモ豫定通り竣功セシ以上ハ之ヲ返納セシメサル旨答辯セリ然レトモ補助ヲ受ケタル工費ニシテ苟モ一旦竣功シタル以上ハ既ニ之ニ對スル補助金支出ノ目的ヲ達シタルモノナリ故ニ其後ニ至リ更ニ追加工事ヲ施サントスルトキハ之ヲ必要トスル理由ノ何タルヲ問ハス其費用ハ固ヨリ地方單獨ノ負擔タルヘキモノニシテ該殘金ヲ以テ之ニ充ツルヲ許サス何トナレハ補助金支出ノ目的タル工費ハ既ニ完了シタルノ後ニシテ追加工事ハ其目的以外ニ屬スルモノナレハナリ然ルニ同大臣ニ於テ當ニ其使用ヲ許可シタルノミナラス其使用後殘金アルモ之ヲ返納セシメサルニ至テハ本項豫算ノ目的ニ違背シタルモノトス

【補明】

本項ハ會計検査院ハ該工費ヲ以テ已ニ一旦竣功シタルモノト認メ其精算殘額ヲ國庫ニ返納セシムヘキモノナリト云フト雖モ該工費ハ其工費中ニ不完全ノ點アルヲ認メタルヲ以テ追加工事ノ施行ヲ命ジタルモノニシテ未ダ其竣功ヲ告ケタルモノニアラス又其追加工事ノ如キモ

既在明治二十六年年度 内務省 (三八)

單ニ本工事ノ一部ニ外ナラサルモノニシテ一旦本工事ノ竣工シタル後更ニ別箇ノ工事ヲ施行スルモノニアラス從テ追加工事ノ竣工セザル間ハ未ダ本工事ノ竣工ヲ見サルモノニシテ固ヨリ精算殘金ニ關スル問題ヲ生スヘキモノニアラス若シ又竣工ニ至リ殘金ヲ生スルコトアルモ明治二十五年宮崎縣國道改修費國庫補助金ノ件ニ於ケルカ如ク豫定ノ工事ヲ竣工シタル以上ハ其殘金ヲ還付セシムヘキモノニアラス故ニ本件ハ會計検査院ノ云フカ如ク豫算ノ目的ニ違背スルモノニアラス

【貴決】 政府ノ辯明ハ釋當ヲ缺ク

【衆決】 適法ト認ム

右ノ外過誤拂ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ右ハ總テ其處分ヲ了セリ

年度及款項	過誤拂	年度及款項	過誤拂
明治二十六年度	円	第三項旅費	円 三五六〇
總決算		歳出臨時部	
農商務省所管		農商務省所管	
第二款林区署費		第一款山林原野調査費	
第一項俸給及諸給	一六六六	第三項旅費	八八〇

貴族院決議

貴族院ハ明治二十七年歳入歳出決算中歳入經常部第一款第一項地租決算額ノ外熊本縣ニ於テ免租年期訂正ト稱スル處分ヲ行ヒ地租ノ賦課ヲ怠リタルハ地租條例ニ違背シタル不當ノ處置ナリト議決ス

明治二十八年年度歳入歳出決算検査報告

明治二十八年年度歳入歳出決算検査報告

目次

豫算及法律勅令違背ノ事項	一八七
一般會計	一八七
歳入經常部	一八七
歳出經常部	一九五
内務省所管	一九五
大藏省所管	一九六
歳出臨時部	一九七
外務省所管	一九七
内務省所管	一九七
大藏省所管	二〇三
逓信省所管	二〇五
特別會計	二〇六
大藏省所管	二〇六
特別資金	二〇〇
歳入	二〇〇
歳出	二〇〇

海軍省所管

横須賀鎮守府造船材料資金

歳出

既往年度

明治二十六年及明治二十七年

貴族院決議

三三三
三三三
三三三
三三三
三三七
三三七
三三八

明治二十八年年度歳入歳出決算検査報告

明治二十八年年度歳入歳出決算検査報告

豫算及法律勅令違背ノ事項

明治二十八年年度歳入ノ賦課徴収歳出ノ使用ニ於テ豫算又ハ法律勅令ニ違背シタル事項左ノ如シ

一般會計

歳入經常部

第一款 租稅 第一項 地租

【報告】 (一) 本項決算額ノ外東京府ニ於テ有租地ニ地租ヲ賦課セサリシモノアリ其坪數十三萬千四百五十六坪八勺ニシテ未タ地價ヲ定メタルコトアラサルヲ以テ之ニ對スル地租額ヲ示スニ由ナシト雖モ蓋シ其額數百圓ヲ下ラサルヘシ
右ハ市街宅地ニ屬スル崖地ヲ以テ耕地ニ於ケル畦畔ト同一ノ整理ヲ爲シタルモノナルニ由リ之ヲ審理セシニ崖地ハ地租條例上免租地目ニ包含セサルモ其現況耕地ニ於ケル畦畔ト恰モ同種ノモノナルニ由リ地租改正ノ際畦畔ニ準シ整理セシモノナリト答辯シ尙將來ニ於テ其訂正ヲ爲スヘキ旨ヲ審理セシニ承諾ノ旨ヲ辯明セリ元來宅地ハ境界線ヨリ丈量スルノ定メナルヲ以テ實地ノ狀況ニ基キ宅地ノ境界線内ニアル崖地ハ之ヲ宅地トシ其境界線外ニアルモノハ別箇ノ土地トシテ地租ヲ賦課スヘキモノナルニ之ヲ賦課セサリシハ地租條例ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項崖地ヲ外書トシタリシハ改租當時ノ法規上正當ノ處分ニ付今更訂正ノ要ナキモノナリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日)

第三條第一項 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地、

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地、

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用藥水路、溜池、隈塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

明治二十八年年度 歳入 (一)

【報告】 (二) 同項ニ於テ徵收過四拾錢參厘アリ右ハ和歌山縣ニ於テ明治十年一月有租地ヲ公立學校地ト爲スコトヲ許可シタルモノナルニ二十八年七月免租出願ニ對シ許可セシ月分ヨリ免租シタルモノナリ因テ之ヲ審理セシニ答辯ノ要旨ハ地租條例第十三條ノ所謂許可トハ免租出願ニ對スル許可ヲ指シタルモノニシテ即チ其月分ヨリ免租シタリト云フニアリ然リト雖モ同條ニ據レハ有租地ヲ公立學校地トナストキハ其地租ハ許可ヲ受ケタル月ヨリ之ヲ免ストアリテ別ニ免租願ノ許可ヲ以テ免租ノ條件ト爲スノ法文ナシ然ルニ免租出願ヲ爲サ、ル期間ハ免租セストナシ本年度ニ於テ本項ノ徵收過ヲ爲シタルハ地租條例ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項小學校令ニ依ル地方應ノ許可ハ有租地ヲ學校地ト爲スノ許可ニアラスシテ地租條例第十三條ノ所謂許可トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ故ニ地租組換ノ許可ト異名同體タル免租許可ノ月分ヨリ地租ヲ免シタルハ當然ノ處分ナリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日)

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村、社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、隄塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

【報告】 (三) 同項ニ於テ徵收過壹圓六錢七厘アリ右ハ秋田縣ニ於テ明治二十六年六月有租地ヲ公立學校地ト爲スコトヲ許可シ一旦其月分ヨリ免租シタルモノナルニ本年度ニ於テ二十六年六月ヨリ免租出願ニ對シ許可シタル前月即チ二十七年十一月迄ノ地租額ヲ追徵シタルモノニシテ前項ト同一ノ事由ニヨリ地租條例ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項小學校令ニ依ル地方應ノ許可ハ有租地ヲ學校地ト爲スノ許可ニアラスシテ地租條例第十三條ノ所謂許可トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ故ニ地租組換ノ許可ト異名同體タル免租許可ノ月分ヨリ地租ヲ免シタルハ當然ノ處分ナリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○地租條例第十三條

【報告】 (四) 同項ニ於テ徵收過壹圓九拾九錢九厘アリ右ハ富山縣ニ於テ明治二十七年八月以降二十八年十月迄ニ於テ有租地ヲ公立學校地ト爲スコトヲ許可シタルモノナルニ免租出願ニ對シ許可シタル月分ヨリ免租シタルモノニシテ前項ト同一ノ事由ニヨリ地租條例ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項小學校令ニ依ル地方應ノ許可ハ有租地ヲ學校地ト爲スノ許可ニアラスシテ地租條例第十三條ノ所謂許可トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ故ニ地租組換ノ許可ト異名同體タル免租許可ノ月分ヨリ地租ヲ免シタルハ當然ノ處分ナリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○地租條例第十三條(一八八頁參看)

【報告】 (五) 同項ニ於テ徵收不足貳圓四拾八錢五厘アリ右ハ富山縣ニ於テ明治二十二年市町村制ヲ實施スルニ當リ地方行政區域ノ變動ヲ來シタルニ當該官吏ハ之ヲ郡村宅地ト市街宅地ト交互地目ノ變換シタルモノナリトシ地租條例第十條第二項ヲ適用シテ地價修正ヲ爲シタルニ因ルモノナリ然レトモ市町村制ノ實施ニ付行政區域ノ變動アルモ地租條例ニ定ムル土地ノ區別ニ何等ノ關係ヲ及ホスヘキモノニアラス然ルニ該條項ヲ適用シテ地價ヲ修正シ其結果本項ノ徵收不足ヲ來シタルハ地租條例ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ行政區域變更ノ際地目ノ變換ヲ必要ト認メ地租條例第三條ニ據リ郡村宅地ヲ市街宅地ニ又ハ市街宅地ヲ郡村宅地ニ編入シ地價ヲ修正シタルノ結果ニシテ條例違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日)

第三條第一項及第二項 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地、

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地、

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第十條第二項 地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

【報告】

(六) 同項ニ於テ徵收不足貳百八拾八圓四拾六錢アリ右ハ富山縣ニ於テ明治二十二年市町村制ヲ實施スルニ當リ地方行政區域變更ノ際郡村宅地ト市街宅地ト交互地目ノ變換シタルモノナリト認メ處分シタルモノニシテ其實實ハ明治二十七年年度歳入歳出決算検査報告ニ詳悉セシト同一ナルヲ以テ地租條例ニ違背シタルモノトス〔明治二十七年年度(三)一四九頁參看〕

【辨明】

本項ハ行政區劃變更ノ際地目ノ變換ヲ必要ト認メ地租條例第三條ニ據リ郡村宅地ヲ市街宅地ニ又ハ市街宅地ヲ郡村宅地ニ編入シ地價ヲ修正シタルノ結果ニシテ條例違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○地租條例第三條及第十條第二項(一八九頁參看)

【報告】

(七) 同項決算額ノ外熊本縣ニ於テ地租ヲ賦課スヘキニ其處分ヲ行ハサリシモノアリ其反別四千二百七十三町二畝二十五歩ニシテ未タ地價ヲ定メタルコトアラサルヲ以テ之ニ對スル地租額ヲ示スニ由ナシト雖モ蓋シ其額數萬圓ヲ下ラサルヘシ

右ハ明治十年ヨリ十七箇年乃至三十箇年ノ免租ヲ許可シタル反別五千四百四十六町八段二畝三步ノ内ニシテ二十六年ヲ以テ該年期明トナリ二十七年以降當然賦租ヲ爲スヘキモノニシテ其實實ハ明治二十七年年度歳入歳出決算検査報告ニ詳悉セシト同一ナルヲ以テ地租條例ニ違背シタルモノトス〔明治二十七年年度(一)一四五頁參看〕

【辨明】

本項新開地ニ對シ當初附與セシ免租下年期ハ適實ナラサルモノト認メ相當ノ訂正處分ヲ爲シタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 地租條例違背

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日太政官布告第七號)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條第五項 官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

第十九條 免租年期明地價據置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第三款 官業及官有財産收入 第五項 郵便電信收入

【報告】

(八) 本項決算額ノ外海外電報料貳千參百五拾圓四拾壹錢ハ臺灣淡水電信通信所臺灣總督府備外國人ニ於テ明治二十八年六月電信事務開始ノ日ヨリ同年十一月十四日迄ニ收入シタル料金ナルニ之ヲ國庫ニ納入セス電報料トシテ福州東方擴張會社ニ仕拂ヒ其收支共ニ之ヲ決算ニ立テサルモノナリ因テ之ヲ審理セシニ該金ハ臺灣電信收入規程實施以前臺灣總督府備外國人ニ於テ收受シ之ヲ仕拂ヒタルモノニシテ當時兵馬倥傯ノ際便宜ノ處分已ムヲ得サルニ出タルモノナルヲ以テ收入トシテ測定スル能ハスト答辯セリ然リト雖モ該電報料ハ通信省ノ所管ニ屬スル收入ニシテ之ヲ國庫ニ納入スヘキハ當然ナルニ直ニ之ヲ歳出ニ移用シタルハ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項決算額ノ外海外電報料貳千參百五拾圓四拾壹錢ヲ收入トシテ測定セサリシハ臺灣淡水電信通信所臺灣總督府備外國人ニ於テ明治二十八年六月電信事務開始ノ日ヨリ同年十一月十四日マテニ收入シタル料金ニシテ當時備外國人ニ於テ電報料トシテ福州東方擴張會社ニ仕拂ヒタルコトヲ爾後ニ至リ發見セルモ右ハ當時ノ場合ト異リ當時兵馬倥傯ノ際便宜ノ處分ニ出テタルモノニシテ不得止モノト認メタルニ依ル

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第十二條違背

(參照) ○會計法(明治二十二年二月十二日法律第四號)

第十二條第二項 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八項 官有物賣下料

【報告】

(九) 本項ニ於テ北海道集治監ノ徵收ニ係ル官舎料參拾七圓四錢貳厘アリ右官舎ハ明治二十七年年度中新築若クハ移轉改築又ハ大修繕ヲ施シ之カ價格ヲ定メタルニ由リ爾後滿三年間ハ該價格ヲ標準トシテ料金ヲ徵收スヘキモノナルニ本年度ニ於テ更ニ其價格ヲ改定シ從テ料金ヲ低減シタルモノナルヲ以テ官舎貸渡規則第三條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

會計検査院検査報告ノ通り

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 官舎貸渡規則第三條違背

明治二十八年年度 歳入 (八)(九)

(参照) ○官舎貸渡規則(明治九年五月十五日)

第三條 官舎新營ノ分ハ其建築費ノ總額古家作ノ分ハ買上直段或ハ當時賣買スヘキ直段ヲ以テ滿三年間ノ元金ト定メ爾後滿三年毎ニ一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ自今新營或ハ買上ノ年度ヨリ既ニ滿三年ヲ過ルモノハ此節一旦評價セシメテ元金ヲ改ムヘシ

但新營ノ分元金ハ石礎入費ヨリ計算スヘシ且貸渡ノ節修繕ノ分ハ其費額ヲ元金ニ加ヘ爾後修繕ノ費額ハ加ヘサルヘシ

右ノ外年度違科目違徴收不足及徴收過ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサルモノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	項	年度	違科目違	徴收不足	徴收過	備考
歳入	經常部					
第一款	租 稅					
第一項	地 租	八二三四七		二一五四九	三三三二七	徴收不足ノ内五圓六拾六錢貳厘ハ追徴未了 徴收過ノ内貳百拾參圓六錢七厘ハ下戻未了
第二項	所 得 稅	一五八一七		二二二一五	六三一九一	徴收過ノ内拾六圓六錢七厘ハ下戻未了 徴收不足ノ内四厘ハ追徴未了
第三項	酒 造 稅	一一五六七		六〇五六六	六二〇二六八	徴收過ノ内百貳拾八圓六拾參錢七厘ハ下戻未了
第四項	酒 精 營 業 稅				一一五〇	
第六項	煙 草 稅	五〇〇〇			一五〇〇〇	徴收過壹錢ハ下戻未了
第七項	證 券 印 稅			一〇〇	〇一〇	

第八項	醬 油 稅	三八七六		三五八二	一五三〇九	徴收過ノ内四圓貳拾貳錢參厘ハ下戻未了
第九項	菓 子 稅	一〇九〇三		五四二六	四一七八五	徴收過ノ内六圓參拾貳錢八厘ハ下戻未了
第十一項	取 引 所 稅	二二四			四六〇七	
第十三項	賣 業 稅	四〇〇〇		二二〇〇〇	三九〇〇〇	徴收過ノ内九圓ハ下戻未了
第十四項	船 稅	二八六〇		八三一〇	九五五〇〇	徴收過ノ内參拾六圓四錢五厘ハ下戻未了
第十五項	車 稅	二〇〇〇		二二二五〇	五九五〇〇	徴收過ノ内貳拾貳圓ハ下戻未了
第十六項	鑛 業 稅	九六三四七三六		二二五六二	三〇九六〇七	徴收過ノ内六拾參圓八拾錢七厘ハ下戻未了
第十八項	牛馬賣買免許稅			二〇〇〇	一五〇〇	徴收不足ノ内五拾錢ハ追徴未了
第十九項	海 關 稅			七七五	一〇九一五四三	徴收過ノ内拾九圓五拾錢ハ下戻未了
第二十項	狩獵免許稅			四九五〇〇	九六一〇〇	
第二款	免許及手数料					
第一款	免許及手数料			一〇三六〇	二一〇	
第三款	官業及官有財産收入					
第二項	稅關雜收入				五三一四	
第四項	森 林 收 入			二七三九三		
第五項	郵便電信收入				二七四七七〇	徴收過ノ内貳百六拾六圓四拾七錢ハ下戻未了
第八項	官有物貨下料			八七三五四		徴收不足ノ内四拾四圓六拾四錢五厘ハ追徴未了

款	項	年度	違	科目	違	徵收不足	徵收過	備考
第四款	雜 收 入	円		円				
第一項	懲罰及沒收金					三五〇	三二五	徵收過參圓貳拾壹錢五厘 ハ下戻未了 徵收不足四錢壹厘ハ追徵未了
第二項	辨 價 金					〇四一	三〇三〇	徵收過ノ内參圓ハ下戻未了
第三項	雜 入	三三五四八		一〇〇九六		一一一四五九	二五八一六	徵收不足ノ内貳拾七圓九拾錢八厘ハ追徵未了 徵收過ノ内拾參圓七拾壹錢六厘ハ下戻未了 徵收不足ノ内參拾五錢貳厘ハ追徵未了 徵收過ノ内貳拾五錢八厘ハ下戻未了
第四項	官吏遺族扶助法納金					四八三	一一二七	徵收不足ノ内拾圓貳拾錢參厘ハ追徵未了
第五項	學校長正教員退職及遺族扶助料法納金	一四二四〇四				一〇二四三	二六六〇	徵收不足ノ内參錢ハ追徵未了 徵收過ノ内九錢四厘ハ下戻未了
第一款	官有物拂下代							
第二項	地 所 拂 下 代					三七二	一三〇〇	徵收不足ノ内參錢ハ追徵未了 徵收過ノ内九錢四厘ハ下戻未了
第四項	物品拂下代					七七三三		徵收不足七圓七拾參錢參厘ハ追徵未了
第四款	製糖費補足金							
第二項	納 付 金					一一三三〇	三二七八一	徵收不足ノ内參圓六拾錢ハ追徵未了 徵收過ノ内拾圓八拾錢壹厘ハ下戻未了

歳出經常部

内務省所管

第九款 北海道本廳

第十九項 土木費

【報告】

(一〇) 本項ニ於テ壽都外三郡役所ノ支出ニ係ル磯谷郡横瀨村海岸道路木柵修繕工費貳千八百八拾圓ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ竣功ヲ告ケタルモノナルニ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ翌年度ニ繰越ノ手續ヲナスヘキモノナルニ之ヲ履行セサリシハ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項ハ契約ヲ締結シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第二十一條違背

(參照) ○會計法(明治二十二年二月十一日法律第四號)

【報告】

(一一) 第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ヲ支出ラ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

【報告】

(一二) 同項ニ於テ根室外九郡役所ノ支出ニ係ル根室港波止場及物揚場並本町海岸道路沿護岸石垣修繕工費千參百九拾九圓五拾錢ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ竣功ヲ告ケタルモノナルニ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項ハ契約ヲ締結シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第二十一條違背

(參照) ○會計法第二十一條

第十一款 府 廳

第十四項 警費連帶支辨金

【報告】

(一二) 本項ニ於テ鹿兒島縣ノ支出ニ係ル百參拾七圓貳拾錢七厘ハ明治二十七年府縣警察費ノ精算高ニ請願巡查費八百

貳拾參圓貳拾四錢五厘ヲ加算シ之ニ對スル六分一ヲ支出セシモノナリト雖モ請願巡査費ニ屬スル金額ハ加算スヘカラサルモノナルヲ以テ明治二十一年勅令第六十一號ニ違背シタルモノトス但本件ハ返納ノ處分ヲ了セリ

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 明治二十一年勅令第六十一號違背

(參照) ○地方税中警察費ニ對スル國庫下渡金改定ノ件(明治二十一年八月七日勅令第六十一號)

第一條 地方税中警察費及警察廳舎建築修繕費ニ對スル國庫下渡金ノ割合ハ東京府ハ其總高ノ拾分ノ四トシ其他ノ府縣(神戶府ヲ除ク)ハ六分ノ一トス

大蔵省所管

第十款 官報局 第六項 刊行費

【報告】

(一三三) 本項ニ於テ支出シタル職員録印刷用洋紙拾七萬九千八百拾五枚代價八百七拾參圓九拾錢壹厘ハ購買ノ際競争入札ニ付セス之ヲ三回ニ分割シテ隨意契約ニ依リ神戸製紙會社東京代理店ヨリ購入セシモノナリ因テ之ヲ審理セシニ職員録ハ從來印刷局ニ於テ製シタルニ由リ其用紙モ適宜選定シタルモ當時議會開會ニ際シ諸印刷物幅湊シ同局ニ於テ製スルコト能ハス已ムヲ得ス之ヲ民業ニ付シタルニ民間ニ在リテハ印刷ト製紙トヲ兼業スルモノ少ナク且職員録ハ販賣ヲ目的トスルヲ以テ普通官廳ノ用品ト異ナリ其用紙ハ特別使用ノ目的アリ又紙質及幅員ノ廣狹重量ノ如何ヲ選擇セサレハ販賣代價ニ關係スルカ故ニ特種ノ製造品ヲ選定スルノ必要アリ即チ會計法第二十四條第四ニ該當スルモノナリト答辯セリ然リト雖モ職員録ハ普通ノ印刷物ニシテ縱令販賣ヲ目的トスルモ之ヲ理由トシテ其用紙ハ特種ノ物質ヲ要シ又特別使用ノ目的アルモノト謂フヲ得ス然ルニ之ヲ競争入札ニ付セス隨意契約ヲ以テ購入シタルハ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第二十四條違背

(參照) ○會計法(明治二十二年二月十一日勅令第六十一號)

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ買賣貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

- 第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ
- 第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ買賣貸借ヲ爲ストキ
- 第三 非常急遽ノ際ノ工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ
- 第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ
- 第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ
- 第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合
- 第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ
- 第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ
- 第九 軍艦ヲ買入ル、トキ
- 第十 軍馬ヲ買入ル、トキ
- 第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ
- 第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ
- 第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ
- 第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

歳出臨時部

外務省所管

第一款 補綴費 第二項 修繕費

【報告】

(一四) 本項ニ於テ在英國倫敦公使館ノ支出ニ係ル貳千七百拾九圓參拾八錢九厘ハ隨意契約ニ依リ請負ニ付シタル同館修繕費ニシテ該工事ハ明治廿九年三月二日ニ契約ヲ締結シ同年六月中竣功ヲ告ケタルモノナリ右ハ會計規則第二條第四項ニ

明治二十八年年度 外務省 (一四)

【報告】 契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度トアルヲ以テ會計法第二十一條繰越ノ手續ヲ爲サス明治二十八年年度所屬トシテ仕拂ヲ爲シタルモノナリト雖モ本項豫算ハ明治廿八年度内ニ終ルヘキ工事ニ充ツヘキ經費ナレハ本件ノ如ク年度内ニ竣功スル能ハス翌年度ニ涉リタル場合ニ於テハ繰越使用スルノ外直ニ使用スルヲ許サ、ルヲ以テ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【備考】 本項ハ契約ヲ締結シタル日ノ屬スル年度ノ經費トス而シテ其年度所屬ノ經費ハ繰越ノ手續ヲ爲サ、ルモ翌年度六月三十日マテハ仕拂ヲ爲シ得ルノ規定ナルヲ以テ會計法違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第二十一條違背

○會計規則(明治二十二年五月一日)

第六十條

第二條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第四 應中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキモノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

○會計法第二十一條(一九五頁參看)

第二款 臨時備付品費 第一項 臨時備付品費

【報告】 (一五) 本項ニ於テ在露國聖彼得堡公使館外二十一館ノ支出ニ係ル七千五百拾圓九厘ハ外務大臣ノ訓令ニ基キ各館事務所用ノ器具敷物等ノ購入及之カ修理ニ充テタルモノナリ右ハ本項豫算目的外ノ支出ト認メ之ヲ外務大臣ニ質問シタルニ回答ノ要旨ハ事務所用ノモノト雖モ交際上必用ノ器具裝飾品等ノ設備ヘ之ヲ本費ヨリ支辨シタルモノニシテ豫算目的ノ範圍外ニ使用シタルモノニアラスト云フニアリ然リト雖モ該購入品中ニハ金庫寫字用器具及日用雜品等ヲ包含シ交際上必用ノ設備トハ認メ難ク元來本項ハ歐米各國公使館ニ禮式用馬車壹輛備付又各公使館領事館ヘ來客接待上必用器具即チ食器及客間裝飾品等備付費用ニ限ラレタルハ豫定經費要求書ニ明記シタル所ニシテ事務所用ノ物品購入及修理費ノ如キハ之ヲ包含シタルモノト謂フヲ得ス因テ本件ハ豫算目的外ノ支出ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス但前記金額ノ内タウンスヱキール領事館ノ支出ニ係ル萬國公法外二十二種ノ購入代百拾貳圓八拾壹錢ハ誤拂トシテ歳入ニ編入セリ

【備考】

本項豫定經費要求書ニハ單ニ所要ノ重ナル品目ヲ列舉シタルモノニシテ實際豫算目的外ノ支出ニアラサレハ會計法違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第十二條違背

○會計法(明治二十二年二月十一日)

第十二條

第十二條第一項 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

【報告】

(一六) 本項ニ於テ外務省ノ支出ニ係ル純帳代五千貳百八拾參圓八拾八錢椅子代貳千參百拾貳圓五拾錢食器類代六百貳拾七圓八拾七錢五厘敷物代參千六百參拾八圓四錢合計壹萬千八百六拾貳圓貳拾九錢五厘ハ在清國北京公使館外八館ノ請求ニ依リ外務省ニ於テ購入シタルモノナリ右ハ各代金五百圓ヲ超エ競買ニ付スヘキモノナルニ之ヲ五百圓ヲ超エサル様分割シ隨意契約ニ依リ購入シタルモノナルヲ以テ之ヲ審理セシニ答辯ノ要旨ハ各品共至急調達ヲ要スルカ爲メ各館ヨリ現品交付請求ニ接シタル毎ニ購入シ殊ニ憲掛椅子敷物ハ室毎ニ性質模様色合形格ヲ異ニスルヲ要セシニヨリ一纏メニシテ購入スルコトヲ得ス隨時選擇購入シタル自然ノ結果ニシテ故ラニ分割購入シタルモノニアラスト云フニアリ然リト雖モ本件物品ノ購入タル左表ニ列記スル各館物品請求書ノ到達及注文年月日ヨリ推考スルモ又該品交付ノ請求ト同時ニ請求アリシ在朝鮮國仁川領事館外七館ノ食器ヲ一纏メニシテ競争契約ニ付シタルヨリ之ヲ觀ルモ特ニ本件物品ニ限リ至急調達セサルヘカラストノ理由ヲ以テ分割購入ヲ爲スノ必要アルヲ認メス又憲掛椅子敷物ハ室毎ニ性質模様色合形格ヲ異ニスルノ要アリト云フモ適宜之ヲ指定シテ一纏メニ競争ニ付スルヲ得サルノ理ナシ即チ本件ハ隨時選擇購入シタル自然ノ結果ニアラスシテ故ラニ分割購入シタルモノト謂ハサルヲ得ス因テ本件ノ物品購入ヲ競争ニ付セザリシハ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

仕拂命令番號	品名	數量	金額	備付ヲ要スル場所	各館物品請求書日付	同上下務省受年月日	物品注文年月日	納期	納人
ニ	間仕切純帳	一張	三圓三三	朝鮮公使館第一客間用	同	同	同	同	同
ニ	窓飾純帳	三	三九〇・六六〇	同	同	同	同	同	同

第七款 警備費 第二項 新警費

【報告】

(一八) 本項ニ於テ北海道廳ノ支出ニ係ル機械體操新設費百八拾參圓貳拾貳錢ハ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ竣功ヲ告ケタルモノナルニ本年度ヨリ其工費ヲ支出シタルモノナリ右ハ歳出經常部内務省所管第九款北海道本廳第十九項土木費(一)ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス(一九五頁(一〇)參看)

【實決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第二十一條(一九五頁參看)

第八款 北海道起業費 第一項 道路橋梁排水堤防設置費

【報告】

(一九) 本項ニ於テ北海道廳ノ支出ニ係ル石狩國雨龍郡惠倍別トウシ間道路開鑿工費總額四千貳百八拾圓ノ内貳千九百拾壹圓及日高國沙流郡沙流川架橋工費七千五百圓同國新冠郡新冠川架橋工費四千五百圓ハ共ニ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ竣功ヲ告ケタルモノナルニ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【實決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第二十一條(一九五頁參看)

【報告】

(二〇) 同項ニ於テ小樽外六郡役所ノ支出ニ係ル小樽郡花園町道路開鑿第一區工費貳千貳百九拾八圓第二區工費貳千貳百六拾五圓ハ共ニ避クヘカラサル事故ノ爲メ該工事ヲ延期シ翌年度ニ於テ竣功ヲ告ケタルモノナルニ本年度ヨリ其工費ヲ支出セシモノナリ右ハ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第二十一條ニ違背シタルモノトス

【實決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第二十一條(一九五頁參看)

【報告】

大藏省所管

第二款 補助費 第一項 日本鐵道株式會社利益補助

【報告】

(二二) 本項決算額ノ内六千四百六拾八圓九厘ハ該會社線路中明治二十七年八月二十五日ノ水害ニ罹リタル前澤黑澤尻間水害補修工事費及香原川橋梁其他修繕費ノ興業費トシテ支辨スヘキモノヲ該會社第四區營業費ノ支辨トナシタルモノニ對シ補給ヲ爲セシモノナリ本件計算ノ區分ニ關シテハ之ヲ該會社ニ審理セシニ明治二十七年八月出水ノ爲メ數箇所ノ損所ヲ生シタルニ由リ舊形ニ復スル爲メ施シタル修繕費ナルカ故ニ之ヲ營業費ノ支辨トナシタリト云ヘリ然レトモ當時ノ同會社會計規則第八條第二項ニ據レハ非常ノ天災時變ニ罹リ鐵道財產ニ大破損ヲ生シ若クハ亡失シタルモノヲ改築改造及修繕スル爲メ支出スル所ノ金額ハ總テ興業費タルヘシトアルヲ以テ尙大藏大臣ニ質問シタルニ當時ノ水害ハ鐵道財產ニ受ケタル損害非常ナラサルヲ以テ同規則第八條第一項修繕費ニ該當スト答辯セリ然リト雖モ該條項ノ修繕費ハ通常維持保存ノ修繕費ヲ指スモノニシテ本件ノ如キ水害即チ天災ニ因リ破損シタルモノヲ復舊スル工費ハ同條第二項ヲ適用スヘキハ明瞭ナリ故ニ前記ノ金額ハ同會社ノ利益年八分ニ達セサルモノヲ補給スヘキ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【辨明】

本項明治二十七年八月ノ水害ハ鐵道財產ニ及ホシタル損害大ナラサリシヲ以テ當時ノ同會社會計規則第八條第二項ヲ適用スヘキモノニアラス故ニ豫算ノ目的以外ニ使用シタルモノニアラス

【實決】 異議ナシ

(參照) ○會計法第十二條第一項(一九九頁參照)

第五款 儲蓄費 第一項 橫濱稅關倉庫新築費

【報告】

(二三) 本項ニ於テ橫濱稅關ノ支出ニ係ル倉庫新營工事模樣換廉増工事中同轉形起重機三臺代價五百八拾七圓七拾錢ハ競争入札ニ付セス當初ノ受負人ニ受負ハシメタルモノナリ因テ之ヲ審理セシニ當初受負契約中ニ起重機八臺ノ設備アルモ貨物揚卸ノ都合ニ依リ尙同狀ノ同轉形起重機三臺増設セシモノニシテ本工事ト分離シ能ハサル附帶ノ工事ニ付同受負人ニ廉

明治二十八年年度 大藏省 (二二)(二三)

増トシテ受負ハシメタル旨答辯セリ然リト雖モ右回轉形起重機ハ實際何レノ場所ヘモ自在ニ轉置シ得ヘキモノニシテ本工
事ト分離シ能ハサル附帯工事ト認ムルヲ得ス然ルニ之ヲ廉増工事トシテ當初ノ受負人ニ受負ハシメ競争入札ニ付セザリシ
ハ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

【審議】 本項回轉形起重機ノ振付ハ本工事ト分離シ能ハサルノミナラス各個ノ代價ヲ合スレハ五百圓ヲ超ユルト雖モ當初二月一日ニ於テハ經費ノ
都合上三臺ヲ買入ル、コト能ハサルモノト認メテ二臺ヲ買入レ其後三月三日ニ至リ經費ニ餘裕アルヲ確メ更ニ一臺ヲ買入レタルモノニシ
テ各件ノ代價ハ孰レモ五百圓未滿ナルヲ以テ隨意契約ニ依リ買入レタルモ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(参照) ○會計法第二十四條(一九六頁參看)

第四項 新潟税關水害修繕費

【報告】 (二二三) 本項ニ於テ新潟税關ノ支出ニ係ル石垣修繕及棧橋新築工費千六百五圓ハ明治二十八年七月二十七日豫定價格千六
百參拾壹圓ヲ以テ競争入札執行ノ際入札者中最低額千四百九拾圓ノ入札アリシニ之ヲ無効ナリトシ同年八月十二日ニ於テ
更ニ競争入札ニ付シ千六百五圓ヲ以テ落札シタルモノナリ因テ之ヲ審理セシニ答辯ノ要旨ハ當初三名ノ入札者ヲ得タルモ
豫定價格ニ超過シタルモノ及書式ニ違ヒタルモノアリテ共ニ工事入札規則ニ從ヒ無効ニ屬シ有效ノ入札者一人トナリ競争
ノ性質ヲ失フニ由リ全然競争者ナキモノト見做シ更ニ入札ニ付シタリト云フニアリ然リト雖モ當初競争入札ノ際三人ノ入
札中豫定價格制限内ノ入札者ニ落札スヘキハ當然ナルニ之ヲ無効ト爲シタルハ不當ナリトス

【審議】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 不當

(二二四) 逓信省所管

第二款 郵便費 第一項 郵便費

【報告】 (二二四) 本項ニ於テ航路標識管理所ノ支出ニ係ル九百參拾五圓六拾七錢八四日市燈臺燈器更換、平磯挂燈立標燈器變換、

大下島燈臺井戸敷地購入、計羅武威岬燈臺物置場建設、白神崎燈臺構内橋架設、樫野崎燈臺井戸敷地購入、御前崎燈臺井戸及
道路敷地購入、神戸燈臺木柵及門新規繼足ニ係ル工費トシテ各所航路標識新設ノ目ヨリ支出シアリ然ルニ前記ノ諸工費ハ
本目中ニ包含セサルモノト認メタルニ由リ之ヲ審理セシニ右ハ豫算ニ明記ナキモ等シク航路標識新設工事ナルヲ以テ其後
急ヲ慮リ彼此充用シタルモノニシテ豫算目的以外ノ支出ニアラスト答辯セリ然リト雖モ本目ハ酒田港燈標、境港燈標、佐多
岬燈臺倉庫、神子元島燈臺號球室、尻矢崎燈臺ノ吏員退息所及同燈臺構内煉化石塀ニ係ル新設又ハ改築費ナルコトハ豫定
經費要求書ニ明記シ其他ノ工事箇所ハ指定シアラサルヲ以テ即チ豫算ノ目的ハ同書説明ニ掲記ノ工事箇所ニ限定シタルモ
ノト謂ハサルヲ得ス故ニ假令航路標識工事ナリト雖モ該指定外ニ充用シ能ハサルモノナリ然ルニ之ヲ本項ヨリ支出シタル
ハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審議】 本項ノ支出ニ係ル九百三拾五圓六拾七錢八四日市外七燈臺小新營ノ工費ヲ要シ事業ノ緩急ヲ圖リ施行シタルモノニシテ豫定經費要求書ニ
其場所ヲ明記セザリシモ等シク航路標識ノ新營ニ外ナラサルヲ以テ豫算ニ定メタル目的以外ト云フコトヲ得ス故ニ會計法違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(参照) ○會計法第十二條第一項(一九九頁參照)

右ノ外年度違科目違過誤拂及拂不足ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサルモ
ノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	項	年度	違科	目違	過誤	拂	不足	備考
歳出	經常部							
外務省	所管							
第一款	外務本省							

款	項	年度	科目	過誤拂	拂不足	備考
第一項	俸給及諸給	100	211	100	375	
第二項	在外公館					
第一項	俸給及諸給			6666	5242	
第五項	朝鮮國居留地取締費				823	
第九項	旅費			5600		
第十一項	電信料			11990		
內務省	所管					
第三項	內務本省					
第六項	旅費				18106	
第四款	衛生試驗所					
第二項	廳費			050		
第五款	土木監督署					
第二項	廳費			780		
第七項	旅費			3130	1120	
第六款	集治監					
第五項	囚徒諸費			400		
第六項	在府縣獄囚徒費	158210			68395	

第八項	旅費			3440		
第九項	雜給及雜費			006		
第七款	警視廳					
第一項	俸給及諸給			7186		
第八項	旅費			200		
第九項	雜給及雜費			1893		
第九款	北海道本廳					
第一項	俸給及諸給			1952	2834	
第二項	廳費		1972	450		
第三項	修繕費		620	0400		
第七項	徵兵費			8030		
第八項	恩賜及救助費			4160		
第十一項	刑事被告人犯罪人護送及留置諸費	1100	500	19110		
第十二項	在監人諸費			3300		
第十三項	賠償及訴訟費			5550		
第十四項	旅費			53645		
第十五項	雜給及雜費	270	4073	56636		
第十七項	北海道事業費	500		82555		

過誤拂ノ内拾錢ハ追徵未了
過誤拂ノ内六拾錢八厘ハ追徵未了

款	項	年度	違	科目	違	過誤	拂	拂不足	備考
第十八項	獄署諸費	1	1	1	1	1	1	1	
第十九項	土木費	1	1	1	1	1	1	1	
第二十二項	教育費	1	1	1	1	1	1	1	
第二十三項	救業費	1	1	1	1	1	1	1	
第二十三項	勸業費	1	1	1	1	1	1	1	
第二十四項	補助費	1	1	1	1	1	1	1	
第十款	北海道集治監	1	1	1	1	1	1	1	
第一項	俸給及諸給	1	1	1	1	1	1	1	
第五項	囚徒諸費	1	1	1	1	1	1	1	
第七項	旅費	1	1	1	1	1	1	1	
第八項	雜給及雜費	1	1	1	1	1	1	1	
第十一款	府縣	1	1	1	1	1	1	1	
第一項	俸給及諸給	1	1	1	1	1	1	1	
第二項	廳費	1	1	1	1	1	1	1	
第四項	外國人居留地取締及營繕費	1	1	1	1	1	1	1	
第九項	徵兵費	1	1	1	1	1	1	1	
第十項	恩賜及救助費	1	1	1	1	1	1	1	

第十五項	旅費	1	1	1	1	1	1	1	
第十六項	雜給及雜費	1	1	1	1	1	1	1	
第十二款	小笠原島地方費	1	1	1	1	1	1	1	
第三項	警察費	1	1	1	1	1	1	1	
第十三款	沖繩縣地方費	1	1	1	1	1	1	1	
第三項	警察費	1	1	1	1	1	1	1	
第九項	教育費	1	1	1	1	1	1	1	
第十一項	役所費	1	1	1	1	1	1	1	
第十二項	那覇首里役場費	1	1	1	1	1	1	1	
大藏省所管		1	1	1	1	1	1	1	
第一款	大藏本省	1	1	1	1	1	1	1	
第八項	旅費	1	1	1	1	1	1	1	
第三款	恩賞諸祿	1	1	1	1	1	1	1	
第一項	賞勳年金	1	1	1	1	1	1	1	
第二項	文官恩給	1	1	1	1	1	1	1	
第三項	軍人恩給	1	1	1	1	1	1	1	
第五項	沖繩縣諸祿	1	1	1	1	1	1	1	
第七款	衆議院	1	1	1	1	1	1	1	

款	項	年度	違	科目	違	過誤	拂	不足	備考
第一項	議員諸費	1	1			2600		1	
第十一款	稅關								
第一項	俸給及諸給								
第二項	應費					5741		5276	
第七項	旅費					024			
第八項	雜給及雜費					43560		080	
第十二款	內國稅徵收費					690			
第一項	俸給及諸給								
第二項	應費					8435			
第五項	市町村交付金					210			
第六項	滯納及間接國稅犯則者處分費					4430			
第九項	旅費					980			
第十項	雜給及雜費					28500		3700	
第十五款	諸拂戻及缺損補填金					32550			
第一項	諸拂戻金					1441			
陸軍省所管						16666			
第一款	陸軍本省								
									過誤拂ノ内百四拾八圓九拾八錢壹厘ハ追徵未了
									拂不足參圓七拾錢ハ追給未了

款	項	年度	違	科目	違	過誤	拂	不足	備考
第一項	俸給及諸給					3000			
第四項	旅費					360			
第五項	雜給及雜費					305			
第六項	諸手當					10000			
第二款	軍事費								
第一項	俸給及諸給					1294470		3219	過誤拂ノ内百八拾圓九拾貳錢貳厘ハ追徵未了 拂不足ノ内拾貳錢八厘ハ追給未了
第二項	諸手當					304304		5803	過誤拂ノ内五拾圓六拾九錢貳厘ハ追徵未了 拂不足ノ内五圓貳拾錢四厘ハ追給未了
第四項	糧食費					20257			過誤拂ノ内參圓參錢ハ追徵未了
第五項	被服費					247037			過誤拂ノ内貳圓九拾五錢九厘ハ追徵未了
第七項	馬匹費					16807			過誤拂ノ内八圓參拾六錢八道徵未了
第八項	演習及復習費					11005			過誤拂ノ内參拾參錢參厘八道徵未了
第九項	患者費					13350			
第十項	應費					300			
第十一項	軍隊需品費					25042			
第十七項	旅費					85297		3055	過誤拂ノ内拾九圓參拾貳錢ハ追徵未了 拂不足ノ内貳拾五錢五厘ハ追給未了

款	項	年度	違科	目違	過誤	拂	拂不足	備考
第三款	憲兵費			五円 〇〇〇	三五円 〇九二			
第一項	俸給及諸給				三〇三 一九		三九五	過誤拂ノ内六圓六拾五錢七厘ハ追徵未了 拂不足參拾九錢五厘ハ追給未了
	手當				二三四 三一			過誤拂ノ内貳圓參拾四錢六厘ハ追徵未了 過誤拂拾六圓八錢ハ追徵未了
	服費				一六〇 八〇			
第二項	旅費				三〇〇		一八六〇	過誤拂參拾錢ハ追徵未了 拂不足壹圓八拾六錢ハ追給未了
	雜給及雜費				七三〇			過誤拂ノ内四圓貳拾四錢ハ追徵未了
第四款	屯田兵費				六八七 一五			過誤拂ノ内拾七圓八錢八厘ハ追徵未了
	第一項	俸給及諸給			二二〇			過誤拂ノ内貳拾七圓拾五錢六厘ハ追徵未了
第二項	諸手當				二〇〇			拂不足六圓參拾七錢五厘ハ追給未了
	服費							
第七項	演習費							
	移住費							
海軍省所管								

款	項	年度	違科	目違	過誤	拂	拂不足	備考
第二款	軍事費							
第一項	俸給及諸給				一一五〇 二九九		一九二八 九一	拂不足ノ内八拾貳圓參拾七錢六厘ハ追給未了 拂不足八拾四錢ハ追給未了
	手當				六三六 〇		八四〇	
第三項	外國留學生費				二六八 九			
	食費				一九〇 八八			拂不足ノ内壹圓ハ追給未了
第六項	被服費				四九〇 〇〇		三一〇〇	
	造船及修理費				二七〇 〇		四〇〇	拂不足四拾錢ハ追給未了
第九項	演習費							
	軍港要港費				二八六 〇			
第十三項	監營費				一六二 一六			
	扶助金				五五五 九三		一四三〇 〇〇	拂不足ノ内貳圓八錢參厘ハ追給未了
第十七項	囚徒費						五七五 〇	拂不足ノ内參拾四圓拾六錢ハ追給未了
	旅費				一一二 三六四		七三八 八〇	
第二十項	雜給及雜費				一五一 九五			
	水路費				八八〇 〇〇			
第二十五項	望樓費				五八〇 三〇			
	司法省所管				五一〇			
第一款 司法本省								

款	項	年度	運	科目	運	過	拂	拂	不足	備	考
第九項	雜給及雜費		050				20540		020		
第三款	航路標識費						10494				
第七項	歲出臨時部						1440				
外務省	所管										
第四款	朝鮮事件費										
第一項	朝鮮事件費						63950				
內務省	所管										
第三款	土木事業費										
第四項	旅費										
第四款	府縣										
第一項	災害地出張旅費						9376		1920		
第六款	諸官衙及議院建築費										
第八項	旅費										
第八款	北海道起業費										
第一項	道路橋梁排水堤防設置費						100				

第二項	幌向及馬追排水費						28000		040		
第十款	朝鮮事件費										
第一項	朝鮮事件費						1000				
第十二款	臨時檢疫費										
第一項	臨時檢疫局費						2480				
第二項	臨時檢疫部費						5525				
第三項	傳染病豫防救治從事者特別手當						1492				
大藏省	所管										
第十八款	明治二十七八年役賞勳年金										
第一項	明治二十七八年役賞勳年金						999000				
海軍省	所管										
第一款	軍艦製造費										
第二款	二十六年度起業甲鐵戰艦製造費						7924				
第三款	兵器製造所建築費										
農商務省	所管										
第一款	山林原野調査費										
第一項	旅費						22760		400		

明治二十八年年度 特別資金 (二五)

1110

款	項	年度	違科	目	違過	誤拂	拂不足	備考
第六款	獸疫費		円					
第一項	獸疫費							
第七款	生絲検査所					1015		
第一項	俸給及諸給							
逓信省	所管						806	
第二款	營業費							
第一項	新營業費					740		
							040	

明治二十八年年度各特別會計歳入ノ賦課徴收歳出ノ使用ニ於テ豫算又ハ法律勅令ニ違背シタル事項左ノ如シ

特別會計

大藏省所管

特別資金

歳入

第一款 特別資金收入

【報告】 (二五) 本款決算額ノ外拾參萬八千百貳拾四圓貳拾壹錢參厘ハ償金特別會計法ニ依リ保有スル金銀地金及有價證券ノ交換ヨリ生シタル差増ナルニ之ヲ歳入ニ編入セサルヲ以テ其整理方ニ對シ大藏大臣ニ照會セシニ其回答ノ要旨ハ元來償金ハ英

貨ヲ以テ領收シ當時ノ相場ニ依リ通貨ニ換算シタル假定數ヲ以テ其年度ノ歳入ニ編入スルモ之カ差増減ハ其金額漸次數回ニ本邦ニ回收シ全部我通貨トナリタル時ニアラサレハ確定スル能ハサルニ由リ其間ハ事實未確定ノ時期ニ屬スルモノナルヲ以テ之ヲ假リニ資金ノ差増減トシテ整理スルモ特別會計法ニ低觸セサルモノナリト云フニアリ然リト雖モ交換ヨリ生スル差増減ハ本會計ノ歳入出ニ屬スヘキモノナルヲ以テ本年度中ニ於ケル回收ニ由リ生シタル交換差増ハ本年度ノ決算ニ立ツヘキモノナリ然ルニ之ヲ歳入ニ編入セサルハ償金特別會計法第二條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ増ヲ歳入ト云ハスシテ資金ノ増ト云ヒ減ヲ歳出ト云ハスシテ資金ノ減ト云ヒタルヲ非難シタルモノナリ抑償金ハ英貨ナリ故ニ時ノ爲替相場ニ依リ假リニ我通貨ニ換算シ其年度ノ歳入ニ編入スルモ其實物ハ英貨ナリ此英貨ヲ爲替ニ依リ又ハ金銀塊ニ換ヘテ本邦へ回收シ全部我通貨トナリタル時ニアラサレハ此ノ差増減ハ確定スルコト能ハサルニヨリ其間ハ事實未確定ノ時期ニ屬スルモノナルヲ以テ假リニ資金ノ差増減トシテ整理シ償金ノ全部ヲ回收シ通貨ニ換リタルトキニ於テ差増減ノ確定ヲ待チテ歳入若クハ歳出ニ編入シ決算ヲ爲スモ償金特別會計法第二條ニ違背スルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 承認

(參照) ○償金特別會計法(明治二十九年三月五日法律第六號)

第二條 償金ハ金銀地金及有價證券ヲ以テ之ヲ保有スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本銀行ヲシテ其ノ交換ヲ取扱ハシム前項ノ交換ヨリ生スル差増減ハ本會計ノ歳入出ニ屬スルモノトス

歳出

第一款 特別資金支出

【報告】 (二六) 本款決算額ノ外四萬四千五百圓七錢參厘ハ前項ト同一ノ事由ナルヲ以テ本年度ノ決算ニ立ツヘキモノナルニ之ヲ歳出ニ編入セサルハ償金特別會計法第二條ニ違背シタルモノトス

【辨明】 歳入ノ辨明ニ同シ(二五參照)

【貴決】 異議ナシ

(參照) ○償金特別會計法第二條

【衆決】 承認

明治二十八年年度 特別資金 (二六)

1111

款	項	徵收不足	過誤	拂	備考
第一款	第四高等學校				
第一款	俸給及諸給				
文部省所管	鹿兒島高等中學造士館			一九〇〇	
歲出	經常部				
第一款	鹿兒島高等中學造士館				
第七項	旅費				
文部省所管	東京工業學校			五八三六〇	
歲出	經常部				
第一款	東京工業學校				
第一款	俸給及諸給				
逓信省所管	官設鐵道			三〇八四	
歲出					
第一款	鐵道作業費				
第一款	俸給及諸給			一一四〇〇〇	
第十項	事業費			六五九四四	
逓信省所管	官設鐵道用品資金				
歲入					

過誤拂ノ内六拾壹圓七錢五厘ハ追徵未了

第一款	官設鐵道用品賣拂代收入				
第一項	官設鐵道用品賣拂代收入		一二六〇		
逓信省所管	電信燈臺用品製造所				
歲出					
第一款	電信燈臺用品製造所作業費				
第八項	材料藥品購買費				五五三

既
往
年
度

既往年度

目次

豫算及法律勅令違背ノ事項	二二七
明治二十六年及明治二十七年	二二七
特別會計	二二七
大藏遞信兩省所管	二二七
鐵道公債金	二二七
歳出 遞信省所管	二二七

既往年度

豫算及法律勅令違背ノ事項

既往年度歳出ノ使用ニ於テ豫算又ハ法律勅令ニ違背シタルモノ左ノ如シ

明治二十六年及明治二十七年

特別會計

大藏省兩省所管

鐵道公債金

歳出 逓信省所管

第一款 鐵道建設費 第五項 福島青森間鐵道

【報告】 (二八) 本項ニ於テ鐵道局ノ支出ニ係ル明治二十六年所屬千八百九拾壹圓貳拾錢明治二十七年所屬五千九百八拾八圓八拾錢合計七千八百八拾圓ハ栗枕木二萬挺買上代ニシテ初度ノ競争入札ニ付シタル際皆豫定價格ニ達セザリシヲ以テ更ニ再度入札ノ廣告ヲ爲スニ當リ其期間ヲ短縮シテ九日間トナシ開札ノ上落札者ヲ定メタルモノナリ本件ハ初度ノ入札ニ於テ落札者ノ定マリタルモノニアラサルヲ以テ一旦落札者ノ確定シタル後契約ノ成立セサル場合ト異ナリ會計規則第七十九條ヲ適用スヘキ限リニアラス然ルニ第二回ノ競争入札ニ付スルニ當リ其廣告期間ヲ短縮シタルハ同規則第七十三條ニ違背シタルモノトス

會計検査院検査報告ノ通

【査決】 異議ナシ

【査決】 會計規則第七十三條違背

(參照) ○會計規則(明治二十二年五月一日) 第六十條

既往明治二十六年及二十七年 鐵道公債金 (二八)

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事又ハ物件ノ賣買貸借ヲ契約セントスルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示
 又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ
 第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ競争ヲ行フヘシ但本條ノ場合ニ於テハ第七十三條ノ
 期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得

右ノ外過誤拂ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ右ハ總テ其處分ヲ了セリ

年 度 及 款 項	過 誤 拂
明 治 二 十 六 年 度	円
各 特 別 會 計	
大藏通信 鐵道公債金 兩省所管	
歳出 遞 信 省 所 管	
第一款 鐵 道 建 設 費	
第五項 福 島 青 森 間 鐵 道	九九二七六

貴族院決議

貴族院ハ明治二十八年年度歳入歳出總決算中歳出臨時部外務省所管第二款臨時備附品費ノ支出ニ係ルモノノ中競賣ニ附スヘ
 キモノヲ隨意契約ニ依リ購入シタルハ會計法第二十四條ニ違背シタル不當ノ處置ナリト議決ス

明治二十九年年度歳入歳出決算検査報告

明治二十九年年度歳入歳出決算検査報告

目次

豫算及法律勅令違背ノ事項	二二九
一般會計	二二九
歳入經常部	二二九
歳出經常部	二三五
内務省所管	二三五
陸軍省所管	二三七
海軍省所管	二三八
拓殖務省所管	二四〇
歳出臨時部	二四九
内務省所管	二四九
大藏省所管	二五一
陸軍省所管	二五二
司法省所管	二六四
農商務省所管	二六五
逓信省所管	二六六
拓殖務省所管	二六八

明治二十九年年度 目次

官金.....二八九

特別會計.....二九四

大藏省所管.....二九四

特別資金.....二九四

歳入.....二九四

歳出.....二九五

既往年度.....三〇一

明治二十七年年度.....三〇一

貴族院決議.....三〇四

明治二十九年年度歳入歳出決算検査報告

明治二十九年年度歳入歳出決算検査報告

豫算及法律勅令違背ノ事項

明治二十九年年度歳入ノ賦課徴収歳出ノ使用ニ於テ豫算又ハ法律勅令ニ違背シタル事項左ノ如シ

一 歳入經常部

第一款 租 税

第一項 地 租

【報告】(一) 本項決算額ノ外熊本縣ニ於テ地租ヲ賦課スヘキニ其處分ヲ行ハサリシモノアリ其段別四千貳百七拾參町貳畝貳拾五歩ニシテ未タ地價ヲ定メタルコトアラサルヲ以テ之ニ對スル地租額ヲ示スニ由ナシト雖モ蓋シ其額數萬圓ヲ下ラサルヘシ

右ハ舊熊本藩海邊新地免租年期訂正ニ係ル事項ニシテ其事實ハ明治二十七年年度歳入歳出決算検査報告ニ詳悉セシト同一ナルヲ以テ地租條例ニ違背シタルモノトス(明治二十七年(一)四五頁參看)

【辨明】 本項ハ新開地ニ對シ當初付與セシ免租年期ハ適實ナラサルモノト認メ相當ノ訂正處分ヲ爲シタルモノナリ

【貴族院決議】 異議ナシ

【衆議院決議】 地租條例第十五條及第十九條違背

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日)

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條第五項 官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

第十九條 免租年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼續年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

明治二十九年年度 歳入 (一) 一

明治二十九年度 歳入 (11)(111)

1110

【報告】

(11) 本項ニ於テ徵收不足貳百九拾圓九拾四錢五厘アリ右ハ富山縣ニ於テ明治二十二年市町村制ヲ實施スルニ當リ地方行政區域變更ノ際郡村宅地ト市街宅地ト交互地目ノ變換シタルモノト認メ處分シタル事項ニシテ其實ハ明治二十八年年度歳入歳出決算検査報告ニ詳悉セシト同一ナルヲ以テ地租條例ニ違背シタルモノトス(明治二十八年度五)一八九四番)

【備考】 本項ハ行政區域變更ノ際地目ノ變換ヲ必要ト認メ地租條例第三條ニ據リ郡村宅地ヲ市街宅地ニ又ハ市街宅地ヲ郡村宅地ニ編入シ地價ヲ修正シタルノ結果ニシテ條例違背ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○地租條例(明治十七年三月十五日)

第三條第一項及第二項 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、礦泉地、

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地、

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第十條第二項 地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第六款 臺灣歳入

第一項 臺灣歳入

【報告】

(11) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ九百四拾九圓參拾七錢七厘アリ右ハ打狗稅關東港出張所ニ於テ明治二十九年八月同所開設以來同三十年一月同港ヲ特別輸出入港ニ指定スルマテニ徵收シタル税金九百四拾六圓參拾七錢七厘及明治二十九年中打狗稅關ニ於テ倉庫預リ阿片斤量證明書ヲ交付シタル爲ニ徵收セシ手数料參圓ニシテ本年度ノ歳入ニ立ツヘキモノナルニ之ヲ翌年度ノ歳入トシ又ハ之ヲ以テ他ノ輸入稅ノ補足ニ充テ又ハ之ヲ歳出ニ移用シタルモノナリ此等ノ事實ハ實地検査ノ際發見シタルモノニシテ不當ノ處置ナリト認メ之カ事由ヲ臺灣總督ニ質問シタルニ其答辯ノ要旨ハ東港出張所假收入金ニ付テハ明治二十九年勅令第二百九十三號ヲ以テ明治二十三年法律第八十號稅關法ヲ本島ニ施行スル旨發布セラレ

タルノ結果トシテ本港ノ如キハ一時船舶出入セサルコト、ナリタルモ該港ハ特別輸出入港ニ指定スルノ必要ヲ認メ其手續中ナリシヲ以テ暫ク稅關長限ノ手心ニテ處置スヘキ旨ヲ通達セシメタルコトアリ故ニ東港ニ於テ實際收入セシモノハ打狗港ノ收入ニ移入ル、コトニ取計ヒ收入ニ關係ノ書類ハ之ヲ訂正シテ漸次ニ打狗港ノ收入ニ繰込ミタルモノナレハ敢テ怪ムヘキモノニアラスト認ム獨リ右ノ内旅客携帶品ニ課シタル輸入稅金ヲ變シテ公賣ニ付シタル液收品ニ課セシ輸入稅ト爲シタルモノ又在安平英商某ヲシテ納付ノ義務ナキ手数料ヲ納付セシメタル參圓ヲ東港收入金整理上ニ要スル書式用紙代ニ充用シ尙其一部ヲ以テ他ノ輸入稅ノ不足ヲ補充シタルハ不當ノ取扱ナリ然レトモ英商ヨリ徵收シタル手数料ノ如キハ本人ノ請求ヲ待テ還付スルノ外ニ策ナシト云フニアリ抑東港ヲ特別輸出入港ニ指定スルノ手續中一時稅關長限ノ手心ヲ以テ處置セシメタルハ之ヲ當時ノ狀態ニ照シ行政上已ムヲ得サルノ事情ナキニアラスト雖モ其違法ノ措置タルハ免レサルノミナラス實際二十九年年度ニ屬スル東港ノ收入ヲ三十年年度ニ至リ打狗稅關ニ於テ徵收シタルカ如クニ其關係書類ヲ作爲シ又收入金ノ一部ヲ以テ他ニ補足移用シタルハ不當ナリトス

【備考】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○臺灣ニ稅關法ヲ施行スルノ件(明治二十九年八月二十日)

勅令第二百九十三號

明治二十三年法律第八十號稅關法ヲ臺灣ニ施行ス

【報告】

(14) 本項決算額ノ外本年度ニ屬スヘキモノ五百四圓貳拾錢アリ右ハ明治二十八年八月中澎湖島行政廳ノ取扱ニ係ル戰利品支那米四百俵ノ賣却代八百八拾圓ノ内ヨリ直ニ之ヲ偵察費等ニ仕拂ヒタルモノナルヲ以テ之ヲ陸軍大臣ニ質問シタルニ其答辯ノ要旨ハ澎湖島司ノ具申ニ據ルニ占領後平定日尙淺ク無賴ノ匪徒掠奪ヲ逞シタルニ由リ其犯罪ヲ捜査シ或ハ隱謀ヲ未發ニ防ク爲メ各所ニ探偵ヲ派シ又數名ノ敗兵ヲ捕獲シテ之ヲ廈門地方へ送遣スル等其他機密上ニ要スル所ノ費用ハ他ニ其資金ヲ求ムルノ途ナク戰利米拂下代ノ内ヲ以テ之ヲ支辨シ其殘金參百七拾五圓八拾錢ハ雜收入ニ納付セシモノニシテ當

明治二十九年度

歳入 (14)

1111

明治二十九年年度 歳入 (四)

二二二二

時適法ノ手續ヲ經テ處分スヘキモノナルモ事急遽ニ出テ且通信不便等ノ爲メ時機ヲ失フノ虞アルヲ以テ臨機ノ處分上事實
 已ムヲ得サルモノナリト云フニアリ蓋シ之ヲ當時ノ状態ニ徴スルニ兵馬倥偬ノ際事情已ムヲ得サルモノナキニアラスト雖
 モ收入ヲ以テ歳出ニ移用シタルハ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審明】 會計検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(参照) ○會計法(明治二十二年二月十二日)

第十二條第二項 國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

右ノ外年度違科目違徴收不足及徴收過ニシテ事ノ輕微ナルモノ左表ノ如シ但其處分ヲ要スルモノニシテ未タ之ヲ了セサル
 モノハ其金額ヲ備考ニ記入セリ

款	入 經 常 部	年 度 違	科 目 違	徴 收 不 足	徴 收 過	備 考
第一款租 稅						
第一項地 租		二六九五二〇		六八〇二	六六七〇五七	徴收不足ノ内八圓四錢壹厘ハ追徴未了 徴收過ノ内五百拾參圓參拾八錢壹厘ハ下戻未了
第二項所 得 稅		二五七四二六		一〇一五〇五	三二二 三六五	徴收不足ノ内貳圓九拾參錢五厘ハ追徴未了 徴收過ノ内貳百參圓六拾錢六厘ハ下戻未了
第三項酒 造 稅		二一九四九		一四八五	六六六七二五	徴收過ノ内百拾六圓拾八錢壹厘ハ下戻未了
第四項酒 精 營 業 稅					一六二七	徴收過圓六拾貳錢七厘ハ下戻未了

第六項煙 草 稅				二五〇〇	一〇〇〇〇	徴收過ノ内貳圓五拾錢ハ下戻未了
第七項證 券 印 稅					二〇〇〇	
第八項醬 油 稅		三九八一六		〇三二	八三八六四	徴收過ノ内四圓六拾八錢七厘ハ下戻未了
第九項菓 子 稅		三四五〇二			一六七二九	徴收過ノ内五圓四拾參錢貳厘ハ下戻未了
第十項取 引 所 稅				一〇〇	四三六三三	
第十一項國 立 銀 行 稅					四六六六七	
第十二項賣 藥 稅		一〇〇〇〇		一九〇〇〇	五二〇〇〇	徴收過ノ内參拾九圓ハ下戻未了
第十三項船 稅		七二一四〇		一一六四五	五二 三三〇	徴收過ノ内貳拾四圓參拾壹錢五厘ハ下戻未了
第十四項車 稅		四七五〇		二二五〇	三〇二五〇	徴收過ノ内拾壹圓貳拾五錢ハ下戻未了
第十五項鑛 業 稅		五、八一七 三八九		三〇七四七	二二一九四八	徴收過ノ内五拾壹圓八拾參錢貳厘ハ下戻未了
第十六項牛馬賣買免許稅				五〇〇		徴收過ノ内四圓五拾錢ハ下戻未了
第十七項狩獵免許稅				一六〇〇〇	二〇五〇〇	
第十八項海 關 稅				八〇六五六	八〇〇 五九八	徴收過ノ内百八拾圓五拾四錢ハ下戻未了
第十九項酒 稅		一六〇〇〇		三一九五	五二四 〇七六	徴收過拾七錢四厘ハ下戻未了
第二十項營 業 稅				一九三五四	一七四	徴收過貳錢ハ下戻未了
第二十一項登 錄 及 印 紙 收 入					〇二〇	徴收過九拾四圓貳拾錢ハ下戻未了
第二十二項印 紙 收 入				一九二〇	九四二〇〇	

明治二十九年年度

二二二三

款	項	年度	違	科目	違	徵收不足	徵收過	備	考
第三款	官業及官有財産收入								
第二項	税關雜收入								
第四項	森林收入					四九〇二七	九五〇〇〇	徵收不足ノ内壹圓拾貳錢參厘ハ追徵未了	
第五項	郵便電信收入						一七九六〇		
第六項	囚徒工錢及製作收入					八九六六	六二九二〇		
第九項	官有物貨下料					八、一〇三、三〇八	三九五	徵收不足ノ内拾參圓八拾參錢六厘ハ追徵未了	
第四款	雜收入								
第一項	諸免許及手数料					六〇〇			
第二項	懲罰及沒收金						〇〇六		
第三項	辨價金					九〇九	二〇六〇	徵收過ノ内六錢ハ下戻未了	
第四項	雜入					一六二八	一〇五七	徵收不足ノ内壹錢七厘ハ追徵未了	
第五項	官吏遺族扶助法納金					五〇一	四四二	徵收過ノ内九錢九厘ハ下戻未了	
第六項	學校長正教員退職及遺族扶助料法納金					七四九八七	三三〇	徵收不足ノ内七拾參圓五拾七錢五厘ハ追徵未了	
第八項	小笠原島地方收入							徵收過ノ内參錢七厘ハ下戻未了	

款	項	年度	違	科目	違	徵收不足	徵收過	備	考
第六款	臺灣歳入								
第一項	臺灣歳入					三五八一九九	一三〇三四八	徵收不足參百五拾八圓拾九錢九厘ハ追徵未了	
歳入臨時部								徵收過ノ内百拾貳圓八拾八錢五厘ハ下戻未了	
第二款	官有物拂下代							徵收不足ノ内貳圓四錢ハ追徵未了	
第二項	地所拂下代					三二〇〇			
第四項	物品拂下代					一〇〇九一			
第三款	雜收入								
第二項	返納金					二七〇			
第六款	製糖費補足金								
第二項	納付金					七九五	四六二四	徵收不足ノ内參厘ハ追徵未了	

歳出經常部

内務省所管

第九款 警視廳 第九項 雜給及雜費

【報告】 (五) 本項ニ於テ支出シタル六百八拾六圓九拾壹錢五厘ハ警察署員ヲシテ機密用務ニ從事セシメタル乗車賃ナリ仕拂命令官ハ本廳員ノ乗車賃ハ用務ノ何タルヲ問ハス總テ雜費豫算中ニ編入シアルヲ以テ警察署員ヲシテ事務上ノ都合ニ依リ高等警察ニ係ル機密用務ニ服セシメタル場合ハ本廳員ト同一視シ之ヲ本費中ヨリ支出シタル旨辯明セリ然レトモ機密用務ノ費

途ニ就キテハ豫算上特ニ機密費ノ設アリテ之カガメ要スル直接機密ノ費用ハ該項ノ支辨ニ屬スヘキモノナリ而シテ本件各警察署員ノ要セシ乗車賃ハ即チ機密探偵ノ爲ニ使用セシ費額ニシテ本廳員カ廳務ノ爲メ要セシ所ノモノト同シカラス然ルニ之ヲ本項ヨリ支出シタルハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

本項ハ機密費ハ通常ノ費目ヲ以テ支辨シ得ル場合ニ支出スヘキモノニアラス此場合ニ於テハ本廳用務ノ爲メ要シタルモノニシテ其機密用務タルト否トニ拘ラス本項ヨリ支辨スルハ敢テ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ
【衆決】 會計法第十二條違背
(參照) ○會計法(明治二十二年二月十一日) 第四條

第十二條第一項 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

第十一款 府 縣 第一項 俸給及諸給

【報告】 (六) 本項ニ於テ兵庫長崎及熊本三縣ノ支出ニ係ル百六拾六圓六拾六錢六厘ハ元兵庫縣八郡郡長元長崎縣壹岐石田郡長並ニ元熊本縣飽田託麻郡長ニ對スル明治二十九年四月分ノ俸給ナリ右各郡長ハ同年四月一日ヨリ施行セル郡ノ併合又ハ廢置ニ關スル明治廿九年法律第三十九號同第二十號同第五十四號ニ依リ同年三月三十一日限り自然廢官トナルヘキモノナルヲ以テ該俸給ハ支給スヘキモノニアラスト認メ之カ事由ヲ內務大臣ニ質問シタルニ其答辯ノ要旨ハ該法律ハ同年四月一日ヨリ實施セラレ即チ同日ニ至リ始テ有効トナルモノニ付キ其施行ニ因リ廢止ニ屬スル官職モ同日ニ至ラサレハ廢官トナラサルモノナルヲ以テ當月分ノ俸給ヲ支給シタルハ不當ニアラスト云フニアリ然リト雖モ法律實施ノ結果トシテ四月一日ヲ以テ新ニ郡役所ヲ設置セラレタル以上ハ舊郡役所ハ其前日限り廢止セラレ隨テ郡長ノ官職モ亦廢官トナリタルモノナリ因テ其俸給ヲ支給シタルハ高等官官等俸給令ニ違背シタルモノトス

【辨明】 本項ハ明治二十九年法律第二十號同第三十九號同第五十四號ハ何レモ同年四月一日ヨリ施行ストアリ即チ四月一日ニ到達シ初メテ其效力ヲ發生スルモノナレハ其廢止ニ屬スル官職モ同日ニ至ラサレハ廢官トナラサルヲ以テ當月分ノ俸給ヲ支給シタルハ高等官官等俸給令ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 高等官官等俸給令違背

(參照) ○兵庫縣下郡廢置及郡界變更法律(明治二十九年三月三十日)抄錄
兵庫縣攝津國武庫郡、菟原郡及八郡郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ武庫郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○長崎縣下郡廢置法律(明治二十九年三月二十七日)抄錄

長崎縣壹岐國壹岐郡及石田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ壹岐郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○熊本縣下郡廢置法律(明治二十九年三月三十日)抄錄

熊本縣肥後國飽田郡及託麻郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ飽田郡ヲ置ク

附則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○高等官官等俸給令(明治二十五年十一月十二日)抄錄

第十六條 非職廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

陸軍省所管

第二款 軍事實 第一項 俸給及諸給

【報告】 (七) 本項ニ於テ第一師團監督部ノ支出ニ係ル百七拾圓ハ臺灣守備步兵第五聯隊附陸軍步兵中尉福田斌ニ對スル明治二十九年四月ヨリ同年八月ニ至ル五箇月分留守宅渡俸給ナリ右ハ福田中尉ノ俸給受領代人タル福田寬ノ請求ニ依リ二十九年八月二十二日仕拂命令ヲ調製シタルニ俸給支給ノ定日即チ同年二十五日石森某該監督部ニ出頭シ福田寬ト詐稱シ偽書偽印ヲ以テ右仕拂命令ノ交付ヲ受ケ製給費納付金拾七圓ヲ控除シタル額百五拾參圓ヲ騙取シタルモノナリ然ルニ石森某カ行使シ

タル偽造ノ印影ハ福田寛ノ印鑑ト對照スルトキハ一見其眞偽ヲ鑒別シ得ヘキモノナルニ拘ラス詐偽ノ領收證書ニ對シ仕拂命令ヲ交付シタルモノニシテ不當ノ支出ナリトス

【講明】 本項ハ偽書偽印ニ心付カスシテ仕拂ヲナシタルハ取扱者ノ不注意ニ出テタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 不當

第二項 諸手當

【報告】 (八) 本項ニ於テ第一師團監督部ノ支出ニ係ル貳拾圓ハ前項福田中尉ニ對スル明治廿九年四月ヨリ同年八月ニ至ル五箇月分留守宅渡料ニシテ前項ト同一ノ事由ニヨリ不當ノ支出ナリトス

【講明】 本項ハ偽書偽印ニ心付カスシテ仕拂ヲナシタルハ取扱者ノ不注意ニ出テタルモノナリ

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 不當

海軍省所管

第二款 軍事實 第七項 兵器彈藥及水雷費

【報告】 (九) 本項ニ於テ東京海軍造兵廠ノ支出ニ係ル千九百七拾七圓八拾錢及海軍中央司計部ノ支出ニ係ル六千參百六拾五圓ハ印牧某外一名ヨリ購入シタル銃鎗術用道具ノ代價ナリ右ハ購入ノ際競争入札ニ附セス會計法第二十四條第四號ニ據リ隨意契約ヲ爲シタルモノナルヲ以テ違法ト認メ之カ事由ヲ該造兵廠長及海軍中央司計部主管ニ推問シタルニ其答辯ノ要旨ハ本品ハ海軍部内創始ノ兵器ニシテ普通擊劍道具トハ素ヨリ製式ヲ異ニシ後來模範トナルヘキモノニシテ精巧堅牢ヲ要スル特殊ノ物品ナルヲ以テ之ヲ製造シ得ルモノヨリ直接購入セシモノナリ然レトモ當時之ヲ製造シ得ルモノ五人アリシニ由リ各製造者ヨリ代價見積書ヲ提出セシメ其低價ノモノニ製造ヲ命シタリト云フニアリ然リト雖モ現品ニ就キ之ヲ検査スルニ普通擊劍道具ト僅ニ製式ヲ異ニスルニ過キスシテ特殊ノ性質ヲ有スルモノト謂フヲ得ス又精巧堅牢ヲ要スルカ如キハ特殊品タルノ理由トスルニ足ラス且該品ハ當時既ニ東京市内ノミニテモ多數ノ製造者アリテ特ニ一定ノ製造者ヲ指定シ直接ニ

買入ヲ必要トスルノ理由存セサルモノトス因テ本件購入ハ之ヲ競争入札ニ附セザリシハ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

【講明】 本項ハ銃鎗術道具購入ノ際競争入札ニ附セス會計法第二十四條第四號ニ據リ隨意契約ヲ爲シタルヲ以テ違法ト認ムト云フト雖モ元來本品ハ其外形ト名稱トニ於テ普通擊劍道具ニ近似スル所アルヲ以テ或ハ同一ノ製作品トナスノ推測ヲ下スノ據アレトモ其構造タル面部鐵骨ノ製練及内部ノ製作ニ於テ強大ナル木銃ノ突撃ニ堪ヘキ堅牢ノ裝備ヲ要シ且ツ屈曲ノ危險豫防ヲ施ス等製作上十分ノ考案ヲ盡シ特ニ創定ニ係ルモノナルヲ以テ普通一般ノ擊劍道具トハ其構造ヲ異ニシ全ク特殊ノ物質ナルヲ以テ適當ナル工作ヲ施シ得ヘキ製作者ヲ指定シ會計法第二十四條第四號ニ據リ隨意契約ヲ爲シ直接購入ヲ爲シタルモノニシテ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ

【貴決】 承認

(參照) ○會計法(明治二十二年二月十一日)

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ買拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 勸業ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ養育シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ養育シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ勸業教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

【報告】 (一〇) 本項ニ於テ海軍中央司計部ノ支出ニ係ル貳千百拾壹圓七拾壹錢ハ沖某外二名ヨリ購入シタル白熱電燈ノ代價ナリ右ハ購入ノ際競争入札ニ附セス會計法第二十四條第四號ニ據リ隨意契約ヲ爲シタルモノナルヲ以テ違法ト認メ之カ事由ヲ該司計部主管ニ推問シタルニ該品ハ特殊ノ物質ニシテ當時之ヲ製造シ得ルモノ五人アリシニ由リ各製造者ヨリ代價見積書ヲ徴シ其低價ナルモノニ製造ヲ命シタル旨答辯セリ然リト雖モ右第四號ノ適用ハ特殊ノ物質又ハ特別使用ノ目的アル物品ナルト同時ニ之ヲ生産製造ノ場所又ハ生産製造者ヨリ直接ニ買入ヲ必要トスル場合ニ限リテ而シテ現品ニ就キ之ヲ検査スルニ普通一般ノ點燈ニ使用シタルモノニ異ナラスシテ特殊ノ性質ヲ有スルモノト認ムルヲ得ス且該品ハ當時既ニ東京市内ノミニテモ數名ノ製造者アリテ特ニ一定ノ製造者ヲ指定シ直接ニ買入ヲ必要トスルノ理由存セサルモノトス因テ本件購入ハ前項ニ同シク會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

【審明】 本項ハ白熱電燈購入ノ際競争入札ニ附セス會計法第二十四條第四號ニ據リ隨意契約ヲ爲シタルヲ以テ違法ト認ムト云フト雖モ元來本品ハ普通一般ノ點燈ニ使用スル所ト異リ兵器トシテ艦船内ニ裝備シ十分ニ船體及砲火ノ激動ニ堪ヘキ特別堅牢ナル製作ヲ要シ普通白熱燈トハ其構造ヲ異ニシ特別ノ裝置等ヲ要スル特殊ノ物質ナルヲ以テ適當ナル工作ヲ施シ得ヘキ製造者ヲ指定シ會計法第二十四條第四號ニ據リ隨意契約ヲ爲シ直接購入ヲ爲シタルモノニシテ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○會計法第二十四條(三三九頁參看)

拓殖務省所管

第三款 臺灣經費 第一項 民政費

【報告】 (一一) 本項ニ於テ臺南縣屬山形某外九人出張旅費十五廉合計四百七拾九圓四拾錢ハ虚偽ノ領收證書ニ對シ仕拂ヲ爲シタルモノナリ右ハ領收證書署名者ニシテ旅行セシト稱スル期間ニ於テ歸省中ノ者アリ或ハ病氣療養中ノ者アリ或ハ登廳シテ事務ニ從事シタルモノアリテ孰レモ旅行ノ事實ヲ認ムヘカラサルニ由リ之カ事由ヲ臺灣總督ニ質問シタルニ其答辯ノ要旨ハ特ニ鳳山縣知事ヲシテ之カ調査ヲ爲サシメタルニ山形某出張旅費四廉ハ本人既ニ死亡シ且之ニ關スル書類不備ニシテ今日ニ至リテハ事實ヲ探究スルノ途ナシト雖モ本人カ出張セザリシコトハ旅行セリト稱スル期間ニ於テ日々登廳セル事跡アルニ由リテ正確ト認メサルヘカラス其他十一廉ノ旅費ニ在リテモ本人旅行ノ事實ヲ認ムヘカラスト雖モ前四廉ノ旅費ト共ニ眞個ノ出張者ハ他ニ存在セルモ轉免不在者等ノ多キカ爲メ決算整理ヲ遅延スルノ恐アルニ由リ現任者ヲ其代理者トシテ整理シ或ハ假ニ現任者ノ名義ヲ以テ之ヲ仕拂ヒタルモノト思考ス又富地某外一名ノ如キハ旅費ヲ受ケタルコトナシト斷言シ且若シ領收證書ニ自分等ノ認印ヲ押捺シアレハ盗用セラレタルナラント云フモ疑獄事件ノ被告人今井某カ無實ノ出張ヲ假裝シテ旅費ヲ詐取スルニ當リテスラ種々ノ口實ヲ設ケ他人ヲシテ旅費ノ領收證書ヲ作爲セシメタルヨリ考フレハ私印ヲ盗用セラレタルモノト推定スヘカラス然リト雖モ元來該支廳ハ支廳長ヲ初トシテ不正ノ行爲アリ今尙疑獄審理中ニ屬スルカ如キ状態ナルヲ以テ鳳山山形某外九人出張旅費決定書ニ所載ノ外ニハ旅費ヲ詐取シタルモノナシトモ亦推斷スヘカラス又他ノ一方ヨリ之ヲ視レハ當時歳出豫算科目ハ頗ル粗大ナリシニ拘ラス實際ハ地方政務、警察費、教育費、病院費等各行政ノ目的ニ依リ費途ヲ區分配賦シ容易ニ流用ヲ許サ、リシヲ以テ地方政務ニ警察官ヲ使用シタル時警察費ヨリ其旅費ヲ仕拂フハ妥當ナラス又地方政務ヨリ警察官ニ旅費ヲ仕拂フモ亦其當ヲ得ストノ考ヨリ故ラニ旅行者ヲ作爲シテ整理シタルモノナシトセス本件旅費モ或ハ警察官ヲシテ各區長選定ノ事務ヲ取扱ハシメタル爲メニ要セシモノナルヤモ知ルヘカラス之ヲ要スルニ本件ニ就キテハ眞正ノ出張者ハ何人ナルヤヲ明示スルマテニ事實ノ調査ヲ遂ケ難キハ甚ク遺憾トスル所ナリト云フニ

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

【報告】 (一二) 本項ニ於テ納入告知書用紙拾五萬枚及簿記臺拾脚代八百拾六圓ハ元民政局事務囑託經理課調度掛長加藤某及元民政局屬丹生某ニ於テ物品購入ノ際其供給者ト共謀シ代價ノ二割ヲ收受スルノ約束アルモノニ對シ仕拂ヲ爲シタルモノニシテ不當ノ支出ナリトス

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

【報告】 (一三) 本項ニ於テ鳳山地方法院書記津國某外四名ニ對スル旅費百貳拾貳圓七拾壹錢ハ旅行ノ事實ナキ虚偽ノ請求書ニ對シ仕拂ヲ爲シタルモノニシテ不當ノ支出ナリトス

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

【報告】 (一四) 本項ニ於テ鳳山地方法院小使宮崎利一吉澤甲二郎山田松次郎明治三十年二三兩月分給料及食料七拾參圓五拾錢ハ實際雇入ナキ二氏名ヲ假稱シテ雇入レタルモノ、如ク装ヒ之ニ對シ仕拂ヲ爲シタルモノニシテ不當ノ支出ナリトス

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

【報告】 (一五) 本項ニ於テ臺南縣鳳山支廳囑託河村某外三名ニ對スル旅費參百貳拾貳圓八拾錢ハ旅行ノ事實ナキ虚偽ノ請求書ニ對シ仕拂ヲ爲シタルモノニシテ不當ノ支出ナリトス

【審明】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

第二項 税關費

【報告】 (一六) 本項ニ於テ安平稅關新設官舎敷地赤崁城々址地均シ人夫賃六百貳拾參圓七拾五錢同城址内民有家屋取拂人夫賃四

拾圓同城址地均土留煉瓦積立工費四千七百七拾五圓七拾五錢同稅關構内廳舎敷地低地及附屬官舎敷地低地盛土地上ケ人夫賃九百七拾六圓五拾錢合計五千八百拾六圓ハ全ク他日建築ヲ爲スノ準備ニ使用シタルモノニシテ本年度豫算ニ定メタル目的以外ニ屬スルモノト認メ之カ事由ヲ安平稅關長ニ推問シタルニ其答辯ノ要旨ハ赤崁城々址ニ地均及土留修繕ヲ施シタルハ同所ハ全面砂地ニシテ城壁ニ用ヒタリト見ユル「セメント」ノ凝塊所々ニ散在シ風雨アル毎ニ崩壞シテ隣接ノ民家ニ危害ヲ及スノ恐アルヲ以テ之カ地均ヲ爲シタルモ風雨劇烈ノ爲メ未タ以テ危險ヲ免ル、ニ足ラス且將來之ヲ官舎敷地トシテ使用スルノ見込アルニ由リ更ニ修繕工事トシテ四方ニ煉瓦ヲ積立テ土留ヲ爲シタリ而シテ本工事施行ノ結果敷地内ニ在ル民有家屋ノ立退ヲ命シタルモ其持主赤貧ニシテ自ラ取拂ヲ爲ス能ハサルヲ以テ特ニ人夫ヲ傭ヒ之カ取拂ヲ爲シタリ又稅關構内ニ盛土ヲ爲シタルハ同地ハ海岸ノ低地ニシテ降雨ノ時ハ忽チ潦水浸入シ荷物ノ陸揚職員ノ執務等ニ支障少カラス因テ此支障ヲ除クノ必要アルト將來廳舎敷地トシテ之ヲ使用スルノ見込アルトニ由リ古煉瓦ヲ使用シテ盛土ヲ爲シタルモノナリ其他附屬官舎ノ空地ニ盛土ヲ爲シタルモ亦同地ハ低地ニシテ降雨ノ時ハ溜地ノ如ク濕氣甚ク汚臭ヲ放チ衛生上有害ナルヲ認メタルニ由リ修繕ヲ爲シタルモノニシテ執レモ敢テ他日建築ノ準備ヲノミ目的トスルニアラスト云フニアリ

右ノ答辯ニ據ルモ該工事ノ目的タル將來廳舎又ハ官舎建築ノ準備ヲ爲スニ在ルコトハ當局者ニ於テ既ニ認ムル所ナリ加之構内廳舎敷地及附屬官舎敷地々上ケ工事ハ決算證書ニ徵スレハ單ニ盛土工事ニ人夫ヲ使用シタルニ過キサルカ如シト雖モ其實地ヲ検査スルニ平地ヨリ高サ三尺乃至二尺五寸ノ盛土ヲ爲シ其周圍ニ煉瓦積立工事ヲ施シ所々ニ階段ヲ設ケタルモノニシテ決シテ低地ニ盛土ヲ爲シタルモノニアラス又赤崁城々址ハ其近隣市街地ニシテ民家構比シ未タ曾テ危害ノ事アリシヲ聞カス然ルニ今俄ニ地均ト稱シ周圍ニ高サ二丈餘ノ煉瓦積立工事ヲ施シ且段階ヲ設ケテ昇降ノ所トシ其結構頗ル壯觀ヲ極メタルモノニシテ單ニ民家ノ危害ヲ防クノ必要ニ依リ施工シタルモノト認ムルヲ得ヌ要スルニ本工事ハ本年度ニ於テ未タ目的ノ確定セサル將來ノ建築ニ對スル準備ニシテ一部ノ修繕ヲ施シタルモノニアラス因テ本項ヨリ之カ費額ヲ支出シタルハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【報告】 本項本所ハ著シク低地ニシテ海水浸入衛生上有害ナルト風雨ノ際危險ノ虞アレヲ以テ地均盛土土留等ノ修繕ヲ爲シタルモノニシテ單ニ稅關及稅關官舎敷地ニ使用ノ爲ノミニアラヌ故ニ豫算ノ目的以外ノ支出ニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 會計法第十二條違背

(參照) ○會計法第十二條第一項(三六頁參看)

【報告】 (一七) 本項ニ於テ打狗稅關物置小屋各室窓木取替硝子嵌替「ベンキ」塗替外十個所修繕工費及船一艘附屬品共新調費合計千五百貳拾七圓五拾錢ハ事實ヲ假裝シ本年度ノ支出ニ立テタルモノナリ右ハ明治三十年十一月中本稅關會計實地檢査ノ際金櫃中帳簿外ニ百九拾五圓五拾錢ノ現金アルヲ發見シタルニ由リ之カ事由ヲ調査シタルニ右ハ最初千五百貳拾七圓五拾錢ノ現金ヲ保管シ三十年七月以降數回ニ支出ヲ爲シタル殘金ナルヲ知レリ而シテ主任官吏ノ辯明ニ依レハ此現金ハ二十九年度中ノ修繕工事ニ對シ請負人ヨリ擔保トシテ預ケ入レシメ置キ工事完全ニシテ再修繕ヲ加フルノ要ナシト確認シタル時初メテ相當ノ金額ヲ還付スルノ順序ニ依リタルモノナリト云ヘリ然リト雖モ該工事ハ僅ニ百九拾餘圓乃至參拾餘圓ノ小修繕ナルニ竣功後工費ノ全部ヲ擔保トシテ預ケ入レシメタリトハ普通ノ情態トシテ認ムル能ハス且其擔保金ト稱スル現金中ニハ應費ニ屬スル船新調代及寢臺用木材買入代ノ如キ工事完成ノ擔保ニ關係ナキモノヲ包含シ剩レ該擔保金還付ニ當リ交付シタル金額ハ一モ正當受取人ノ領收證書ニ該當スルモノナク事實頗ル明瞭ヲ缺クヲ以テ尙之ヲ臺灣總督ニ質問シタルニ其答辯ノ要旨ハ右修繕工事ハ明治三十年三月十二日ノ許可ニ係リ直ニ著手ニ且竣功セシモ當時非常ノ降雨ニテ再三仕直シ等ノ爲メ遲延六月ニ至リ竣功シタリ然ルニ工費ノ全部ヲ擔保トシテ預ケ入レシメタルハ一見普通ノ修理ニ反スルカ如シト雖モ本島人ニ對シテハ大ニ注意ヲ要スルモノアリ彼等若シ工費ヲ受領シタル後大破損ヲ生シ之ニ再修繕ヲ施サ、ルヲ得サルニ臨マハ其利害ニ由リ忽チ清國地方ヘ逃亡スルノ恐レアリ且既ニ工事中再三ノ不始末アリタルト當時颶風時季ニ切迫シ居タルトニ因リ既往ニ鑑ミ擔保金ヲ預ケ入レシメタリ又擔保金ヲ拂戻スニ當リ其金額工事一廉限ノ費額ニ相當セサルハ各工事再修完成擔保ノ必要ナシト認ムルニ隨ヒ其狀況ヲ斟酌シ便宜還付額ヲ定メタルモノニシテ必シモ各工事每一廉ノ金額ニ依ラサリシニ由ル其他船新調代ヲ併セテ預ケ入レシメタルハ咄嗟ノ際擔保ヲ要スル部分ト否トヲ區分スル能ハサリ

【報告】 シニ由ルモノニシテ精査ノ上當時既ニ之ニ對スル部分ヲ還付シタリ寢臺用木材買入代ハ預リ金ヨリ一時繰替支出セシニ過キスシテ工事擔保ニ關係ナシ要スルニ右ハ監督不充分ノ致ス所ナルヲ免レスト雖モ特ニ熟練ノ人ヲ得ハ格別ナルモ一般ニ此ノ如キハ到底望ムヘカラス故ニ打狗稅關カ實況ヲ斟酌シ擔保金ヲ預リ工事ノ完全ヲ期シタルハ本島ノ事情ニ照シ敢テ不當ノ事ニアラスト云フト雖モ島民ノ性質ニ徵スレハ寧ロ之ニ反スルモノアリ即チ工事既ニ完了シ而シテ其代價ノ全部ヲ擔保トシテ數月ノ久シキ預入レ置クカ如キハ到底島民ノ承認スヘキ所ニアラサルヘシ若シ又答辯ニ云フカ如ク果シテ工事ノ完全ヲ期スル爲メ擔保金トシテ預リタルモノトセハ須ク之ヲ契約上ニ明瞭ナラシメ且公然官廳設備ノ帳簿ニ其出納ヲ記入スヘキノ理ナリ然ルニ契約上之ヲ徵スヘキモノナク其他ニ於テモ單ニ覺書ニ記入シタルノ外他ニ證據トナルモノ一モ之アルコトナシ況ヤ該擔保金ト稱スル收支中ニハ異種ノ仕拂アルノミナラス之ヲ請負人ニ拂戻シタルノ確證ナキニ於テヤ是ニ由リテ之ヲ觀レハ本件ハ年度内ニ於テ未タ其工事又ハ購入ヲ實施セサルニ拘ラス之カ竣功又ハ新調ヲ裝ヒ領收證書ヲ作爲シ以テ其費額ヲ仕拂ヒタルカ如ク整理シタルモノト認定セサルヲ得テ本件ハ不當ノ支出ナリトス

【報告】 然リト雖モ之ヲ工事ノ性質ニ徵セン敷物置小屋各室窓木取替硝子嵌替「ベンキ」塗替又ハ物置小屋廊下廻リ手摺木取替及敷瓦取替等簡單ナル工事ニシテ其工費モ亦壹廉參拾餘圓乃至百九拾餘圓ニ過キス隨テ之カ施工ヲ監督スルニ於テモ特ニ熟練ノ人ヲ要スルモノニアラス又現ニ同月中同一人ヲシテ請負ハシメタル他ノ工事ニ在リテハ此方法ヲ用ヒサルノミナラス斯ノ如キ類例ハ他ニ之ヲ見サル所ナリ且夫レ擔保金ヲ預リ工事ノ完全ヲ期シタルハ本島ノ事情ニ照シ敢テ不當ノ事ニアラスト云フト雖モ島民ノ性質ニ徵スレハ寧ロ之ニ反スルモノアリ即チ工事既ニ完了シ而シテ其代價ノ全部ヲ擔保トシテ數月ノ久シキ預入レ置クカ如キハ到底島民ノ承認スヘキ所ニアラサルヘシ若シ又答辯ニ云フカ如ク果シテ工事ノ完全ヲ期スル爲メ擔保金トシテ預リタルモノトセハ須ク之ヲ契約上ニ明瞭ナラシメ且公然官廳設備ノ帳簿ニ其出納ヲ記入スヘキノ理ナリ然ルニ契約上之ヲ徵スヘキモノナク其他ニ於テモ單ニ覺書ニ記入シタルノ外他ニ證據トナルモノ一モ之アルコトナシ況ヤ該擔保金ト稱スル收支中ニハ異種ノ仕拂アルノミナラス之ヲ請負人ニ拂戻シタルノ確證ナキニ於テヤ是ニ由リテ之ヲ觀レハ本件ハ年度内ニ於テ未タ其工事又ハ購入ヲ實施セサルニ拘ラス之カ竣功又ハ新調ヲ裝ヒ領收證書ヲ作爲シ以テ其費額ヲ仕拂ヒタルカ如ク整理シタルモノト認定セサルヲ得テ本件ハ不當ノ支出ナリトス

【報告】

本項ハ實際答辯要旨ノ通ニシテ敢テ事實ヲ假裝シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 不當

第三項 運賃費

【報告】

(一八) 本項ニ於テ遞信事業用式紙類代四千六百七拾七圓參拾貳錢五厘ハ其購入ヲ爲スニ當リ故ラニ之ヲ數口ニ分割シ

口ノ金高ヲ千五百圓未滿トシテ隨意契約ニ依リタルモノナリ因テ之カ事由ヲ臺灣總督府財務局長ニ推問シタルニ其答辯ノ要旨ハ當時物品會計ノ整理未タ充分ナラサルニ由リ帳簿ニ照シ現在高ヲ詳ニスル能ハス爲ニ缺乏ヲ告クルニ際シ競争契約ニ付スルノ追ナク且當時此類ノ物品ヲ供給スル者ハ當地ニ在リテハ唯一人アルノミ而シテ其供給ヲ内地ニ仰カントスルモ時日切迫需用ノ急ニ應スル能ハサルニ由リ已ムヲ得ス隨意契約ヲ爲シタルモノニシテ即チ會計法第二十四條第一、第三ノ場合ニ據リタルモノナリト云フニアリ然リト雖モ本件物品ノ購入タル悉ク明治二十九年十二月八日同一人ニ對シ購買ノ契約ヲ爲シタルモノニ係リ故ラニ之ヲ分割シテ千五百圓未滿トナシタルハ左表ニ徵シテ明瞭ナリ且夫レ物品會計如何ニ整理ナルモ現在高缺乏ノ場合ニハ豫メ之ヲ知ル能ハサルノ理ナク又其供給者ハ該地ニ於テ唯一人アルノミ且内地ニ就キテ之カ供給ヲ仰カントスルモ其猶豫ナシト云フト雖モ實際購入契約ヲ爲シタルハ明治二十九年十二月八日ニシテ物品ノ納付ハ同三十年一月二十二日乃至三月八日ナルニ由リテ之ヲ觀レハ決シテ其猶豫ナシト認ムルヲ得ス殊ニ本件購入代ハ之ヲ選信省ノ購入價格ニ比シ平均概ネ二倍五分ノ高價ニ屬セリ要スルニ本件ハ隨意契約ヲ以テ購入センカ爲メ故ラニ分割シタルモノニシテ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

品目	分割代價	總額	契約年月日	納付年月日	支出年月日	供給者氏名
郵四十九號 外四點	四八〇三〇	四、六七七、三二五	二十九年十二月八日	三十年二月十二日	三十年三月二十六日	在臺北橋支店 三宅正信
郵第一號 外拾壹點	一、四三二、二五〇		同	同年二月五日	同	同
甲製書封皮 外四點	一、四二五、五九五		同	同年三月八日	同	同
貯第七十九號	二〇二八〇		同	同年一月二十二日	同	同
郵二十六號 外五點	一、三四二、一七〇		同	同年二月五日	同	同

【備考】本項競争契約ニ依ラサリシハ物品ヲ供給スル者當地ニ一名ナルニ依リ會計法第二十四條第一ヲ適用シタルモノナルヲ以テ不當ノ仕拂ニアラス

【貴決】 異議ナシ
【參照】 ○會計法第二十四條(二三九頁參看)
【來決】 會計法第二十四條違背

【報告】 (一九) 本項ニ於テ郵便電信集配人被服新調代八千八百貳拾圓ハ元民政局通信部計算課長杉浦某ニ於テ物品購入ノ際其供給者ト共謀シ代價ノ二割ヲ收受スルノ約束アルモノニ對シ仕拂ヲ爲シタルモノニシテ不當ノ支出ナリトス
【備考】 會計検査院検査報告ノ通
【貴決】 異議ナシ
【來決】 承認

第四項 製菓所費

【報告】 (二〇) 本項ニ於テ阿片拾萬七千四百五拾餘斤ノ代價七拾七萬七千六百六拾圓八拾貳錢壹厘及運搬其他諸費貳萬四千六百九拾圓拾壹錢八厘合計八拾萬千八百五拾圓九拾參錢九厘ノ支出アリ抑右阿片ハ悉皆明治三十年三月三十一日納付ヲ了シタルモノトシテ其計算ヲ證明セリト雖モ實地之ヲ検査スルニ事實大ニ之ニ反スルモノアリ即チ關係書類ニ據レハ右阿片ノ買收ハ概ネ三井物産會社及「サミユール」商會等ニ命シタルモノニシテ其買收命令ニハ運送上必要ノ費用ハ受取人ノ領收證ニ據リ實費ヲ證明シ而シテ其諸費ハ現品納付ノ日ヨリ五日以内ニ仕拂フヘシ等ノ條件ヲ附セリ因テ之ヲ其實費ニ屬スル運搬費、海上保險料、稅關庫租其他諸費ニ關スル受取人ノ領收證ニ徵スルニ阿片ハ實際明治三十年四月乃至六月ニ至リ始メテ納付シタルコト明ナルヲ以テ其費額ハ本年度豫算定額ヨリ支出スヘキモノニアラス然ルニ本年度内ニ之カ購入ヲ了セシ如クニ裝ヒ其費額ヲ支出シタルハ不當ナリトス
【備考】 會計検査院検査報告ノ通
【貴決】 異議ナシ
【來決】 承認

【報告】 (二一) 本項ニ於テ銅鍋百個及黃銅柄杓百貳拾個代七百九拾圓四拾錢煙膏貯藏箱八拾個代千四百四拾圓壹錢參百個代八百參拾壹圓銅鍋七拾五個代千四百九拾貳圓五拾錢煙膏貯藏箱八拾個代千四百四拾圓壹錢千枚代八百八拾圓蒸溜器外壹點代八百
明治二十九年 拓殖省 (一九)(二〇)(二一)
二四七

六拾八圓七拾五錢化學試驗用諸器械六百貳拾圓九錢五厘煙膏貯藏箱四拾個代七百貳拾圓合計八千參百八拾貳圓八拾四錢五厘ノ支出アリ右ノ内蒸溜器外壹點ヲ除クノ外其現品ノ納付ハ實際明治三十年四月乃至六月ナルニ三月三十一日ニ納付セシカ如ク裝ヒ之カ計算ヲ證明シ且執レモ大阪又ハ東京ニ於テ之ヲ購入セシニ由リ濾籠千枚ヲ除クノ外競争入札ニ附スヘキモノナルニ隨意契約ニ依リタルヲ以テ不當ノ處置ナリト認メ之カ事由ヲ臺灣總督府財務局長ニ推問シタルニ其答辯ノ要旨ハ現品ノ納付ハ明治三十年四月以降ナルモ三月以前ニ於テ契約ヲ締結セシヲ以テ本年度ヨリ之カ費額ヲ支出シ又競争入札ニ附セサリシハ明治二十九年勅令第三百十號ニ依リタルモノナリト云フニアリ然リト雖モ本年度中現品ノ納付ヲ了セサルモノニ對シ三月三十一日ニ其納付ヲ了セシカ如クニ裝ヒ本年度ヨリ之カ費額ヲ支出シタルハ不當ナリ又該勅令ハ臺灣ニ限り千五百圓ヲ超ヘサル政府ノ工事又ハ物件ノ購入借入ヲ爲ストキ隨意契約ニ依ルコトヲ許シタルモノナリ然ルニ此特例ヲ内地ニ於ケル物件ノ購入ニ適用シ隨意契約ニ附シタルハ會計法第二十四條ニ違背シタルモノトス

【備考】 本項前段ハ會計検査院検査報告ノ通過後ハ明治二十九年勅令第三百十號隨意契約ヲ爲ス場合ハ臺灣島内外ヲ以テ限定セラレタルモノニアラス故ニ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 別紙決議ノ通トス(三〇四頁參看) 【衆決】 會計法第二十四條違背

(參照) ○臺灣總督府ニ於テ隨意契約ヲ以テ工事又ハ物件ノ購入借入ヲ爲スノ件(明治二十九年九月二十三日勅令第三百十號)

臺灣總督府ニ於テ千五百圓ヲ超エサル工事又ハ物件ノ購入借入ヲ爲ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得 ○會計法第二十四條(二三九頁參看)

【報告】 (二二二) 本項ニ於テ阿片製造器械、同附屬品並ニ電燈器械一切大坂鐵工所ヨリ基隆マテ運搬賃及基隆ヨリ臺北小南門外マテ運搬賃五千八百五拾九圓七拾九錢八厘、ランカシヤイア「汽罐貳個基隆ヨリ臺北小南門外マテ運搬賃千六百五拾圓器械類、銅鍋、電線等大阪ヨリ基隆マテ運搬賃並ニ荷造保險料百四拾五圓八拾四錢濾籠外八點大阪ヨリ基隆マテ運搬賃並ニ荷造保險料八拾四圓拾五錢器械類煙膏箱及濾過用器械大阪ヨリ基隆マテ運搬賃百四拾五圓九拾參錢五厘合計七千八百八拾五圓七拾貳錢參厘ノ支出アリ右運搬ハ實際執レモ明治三十年四月以降ニアリテ其仕拂モ亦同年六月ニアリ然ルニ之ヲ本年度ノ

支出ト爲シタルヲ以テ其事由ヲ臺灣總督府財務局長ニ推問シタルニ其答辯ノ要旨ハ運搬完結ハ四月一日以後ナレトモ其契約ハ三十年三月三十一日以前ナルヲ以テ本年度ヨリ支出セリト云フニアリ然リト雖モ運搬ノ事實及之カ仕拂ハ三十年四月以降ナルヲ以テ三十年度ノ支出ト爲スヘキモノナリ然ルニ之ヲ本年度ヨリ支出シタルハ會計法ニ違背シタルモノトス 又「ランカシヤイア」汽罐ノ如キハ三十年十一月實地検査ノ際尙運搬中ナルニ拘ラス其費額ヲ本年度ヨリ支出シタルモノナルヲ以テ之カ事由ヲ臺灣總督府財務局長ニ推問シタルニ其答辯ノ要旨ハ製藥所ニ於テ運搬完了セシコトヲ證明シテ請求シ來リシヲ以テ運搬賃ヲ仕拂ヒタルモ推問ニヨリ事實ヲ調査シタルニ右ハ三月二十二日既ニ臺北停車場迄到着シ居ルモ運搬器破損ノ爲メ延著セシモノニシテ目的地ニ達スル僅々ノ距離ナルト請負人ノ信用アルトヲ以テ二十九年整理完結ノ爲メ年度内ニ運搬ヲ完了シタルモノト見做シタリト云フニアリ即チ本件ハ運搬中ニシテ未タ仕拂期日ニ達セサルモノニ對シ其費額ヲ仕拂ヒタルヲ以テ會計法ニ違背シタルモノトス

【備考】 會計検査院検査報告ノ通

【貴決】 異議ナシ

【衆決】 承認

(參照) ○會計法(明治二十二年二月十一日法律第四號)

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

歳出臨時部

内務省所管

第七款 諸官衙及議院建築費 第二項 廳費

【報告】 (二二三) 本項ニ於テ支出シタル六圓七拾參錢五厘ハ拓殖務省廳舎建築計畫調査ノ爲メ要セシ費用ナリ右ハ本費豫算ニ包含セサルモノト認メ之ヲ當該仕拂命令官ニ推問シタルニ其答辯ノ要旨ハ内務省土木局臨時建築掛ハ諸官衙及議院建築ノ事務ヲ掌理スルカ爲メ設置セルモノニシテ其事務タル管ニ裁判所等ノ建築事項ニ止マルヘキモノニアラス尙他ノ官衙議院ト雖

モ之カ建築ノ必要ヲ生セハ其計畫調査ヲ爲シ得ヘキモノナルニ由リ之ヲ本費ヨリ支出シタリト云フニアリ然リト雖モ二十四年度及二十八年度豫定經費要求書ノ説明ニ依ルニ本費ハ裁判所司法省海軍省ノ三建築ニ限ラレタルコト明瞭ニシテ其以外ニ屬スル費用ヲ支辨スヘキモノニアラス因テ之ヲ本項ヨリ支出シタルハ豫算ノ目的外ナルヲ以テ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審明】 本項ハ明治二十四二十八兩年度豫定經費要求書ノ説明ヲ援テ裁判所司法省海軍省ノ三建築ニ限ラレタリト云フト雖モ諸官衙及議院建築事業掌理ニ關スル官制ニ依レハ敢テ建築事業ノ項目ヲ限定シアラサルヲ以テ必シモ前記三建築ニ止マルモノトスヘキニアラス他ノ建築ト雖モ其必要ヲ生セハ何時ニテモ之カ調査ニ從事シ得ヘキモノニシテ要求書説明ノ如キハ單ニ主要ナル事業ノ二三ヲ列記シタルニ止マルモノトス故ニ本項ノ支出ハ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 承認

(參照) ○會計法第十二條第一項(二三六頁參看)

第五項 雜給及雜費

【報告】 (二四) 本項ニ於テ支出シタル參百四拾四圓八拓殖務省廳舍建築計畫調査ノ爲メ要セシ費用ニシテ前項ト同一ノ事由ニヨリ會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審明】 本項ハ明治二十四二十八兩年度豫定經費要求書ノ説明ヲ援テ裁判所司法省海軍省ノ三建築ニ限ラレタリト云フト雖モ諸官衙及議院建築事業掌理ニ關スル官制ニ依レハ敢テ建築事業ノ項目ヲ限定シアラサルヲ以テ必シモ前記三建築ニ止マルモノトスヘキニアラス他ノ建築ト雖モ其必要ヲ生セハ何時ニテモ之カ調査ニ從事シ得ヘキモノニシテ要求書説明ノ如キハ單ニ主要ナル事業ノ二三ヲ列記シタルニ止マルモノトス故ニ本項ノ支出ハ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 承認

(參照) ○會計法第十二條第一項(二三六頁參看)

第八項 旅費

【報告】 (二五) 本項ニ於テ支出シタル參拾四圓九拾四錢ハ前項ニ同シク會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項ハ明治二十四二十八兩年度豫定經費要求書ノ説明ヲ援テ裁判所司法省海軍省ノ三建築ニ限ラレタリト云フト雖モ諸官衙及議院建築事業掌理ニ關スル官制ニ依レハ敢テ建築事業ノ項目ヲ限定シアラサルヲ以テ必シモ前記三建築ニ止マルモノトスヘキニアラス他ノ建築ト雖モ其必要ヲ生セハ何時ニテモ之カ調査ニ從事シ得ヘキモノニシテ要求書説明ノ如キハ單ニ主要ナル事業ノ二三ヲ列記シタルニ止マルモノトス故ニ本項ノ支出ハ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 承認

(參照) ○會計法第十二條第一項(二三六頁參看)

第九項 建築費

【報告】 (二六) 本項ニ於テ支出シタル五圓拾九錢ハ議院建築計畫調査ノ爲メ要セシ費用ニシテ前項ニ同シク會計法第十二條ニ違背シタルモノトス

【審明】

本項ハ明治二十四二十八兩年度豫定經費要求書ノ説明ヲ援テ裁判所司法省海軍省ノ三建築ニ限ラレタリト云フト雖モ諸官衙及議院建築事業掌理ニ關スル官制ニ依レハ敢テ建築事業ノ項目ヲ限定シアラサルヲ以テ必シモ前記三建築ニ止マルモノトスヘキニアラス他ノ建築ト雖モ其必要ヲ生セハ何時ニテモ之カ調査ニ從事シ得ヘキモノニシテ要求書説明ノ如キハ單ニ主要ナル事業ノ二三ヲ列記シタルニ止マルモノトス故ニ本項ノ支出ハ會計法ニ違背シタルモノニアラス

【貴決】 異議ナシ 【衆決】 承認

(參照) ○會計法第十二條第一項(二三六頁參看)

大藏省所管

第一款 中央備荒儲蓄金補助 第一項 中央備荒儲蓄金補助

【報告】

(二七) 本項ニ於テ過拂ヲ爲シタルモノ貳百貳拾四圓八拾壹錢壹厘アリ右ハ栃木縣ニ對シ中央備荒儲蓄金補助ノ支出ヲ爲スニ當リ同縣儲蓄金ノ百分ノ五ヲ超過セル供用支出額ハ參千九百貳拾貳圓壹錢ナルニ同縣ニ於テ本年度ノ補助ヲ請求スルニ當リ明治二十八年度所屬ノ金額ヲ災害費中ニ加算シタルカ爲メ四千四百四拾六圓八拾貳錢壹厘ヲ支出セシニ由ルモノナリ之ニ對スル縣知事辯明ノ要旨ハ本年度補助金算出ノ基礎タル縣儲蓄金本年度首現在高中ニハ二十八年度ニ屬スル支出未済